

シラバス目次

科 目 名	頁
ビジネスプラン	P3
課題プロジェクト研究	P5
経営学Ⅰ	P23
経営学Ⅱ	P25
マーケティング概論	P27
事業戦略論	P29
起業論	P31
企業者論（社会起業家論）	P33
ホスピタリティ・マネジメント	P35
経営組織論Ⅰ	P37
経営組織論Ⅱ	P39
経営組織論Ⅲ	P41
経営組織論Ⅳ	P43
人的資源管理論	P45
人材マーケティングⅠ	P47
人材マーケティングⅡ	P49
リーダーシップとコーチング	P51
会計学基礎A	P53
会計学基礎B	P55
企業財務論	P57
ビジネス定量分析	P59
情報処理Ⅰ	P61
情報処理Ⅱ	P63
情報処理Ⅲ	P65
情報処理Ⅳ	P67
D X（I C T）基礎	P69
D X応用	P71
コンテンツ・プロデュース	P73
コンテンツ・知的財産論	P75
異文化マネジメント	P77
異文化コミュニケーション	P79
グローバルビジネスと法	P81
外国人と法	P83
ヘルスケア経営学	P85

医療・介護ビジネス論Ⅰ	P87
医療・介護ビジネス論Ⅱ	P89
ヘルスケアデータサイエンス概論	P91
メディカルスタッフ経営学Ⅰ	P93
メディカルスタッフ経営学Ⅱ	P95
福祉医療の戦略経営Ⅰ	P97
福祉医療の戦略経営Ⅱ	P99
病院・介護事業経営	P101
地域包括ケアと 多職種連携イノベーション	P103
コミュニティ・ヘルス	P105
在宅医療論	P107
労務管理実務	P109
非営利組織の管理会計	P111
ソーシャルワークの基盤と展開	P113
ソーシャルワークの理論と実際	P115
メディカルソーシャルワーク論	P117
高齢社会の福祉医療	P119
高齢者福祉とマネジメントⅠ	P121
高齢者福祉とマネジメントⅡ	P123
高齢者介護施設のリスクマネジメント	P125
社会福祉施設論	P127
福祉人材養成論	P129
スーパービジョンの理論と展開	P131
フィールドワーク特講	P133
医療管理学Ⅰ	P135
医療管理学Ⅱ	P137
疫学・公衆衛生学特論	P139
グローバルヘルスⅠ	P141
グローバルヘルスⅡ	P143
メディカル人材開発論Ⅰ	P145
メディカル人材開発論Ⅱ	P147
メディカル人材開発論Ⅲ	P149
メディカル人材開発論Ⅳ	P151
国際医療人材開発論Ⅰ	P153
国際医療人材開発論Ⅱ	P155
病院会計	P157

科目名	ビジネスプラン		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	1年次	必修	亀川雅人
科目担当者	亀川雅人 平田博紀 八木麻衣子		
授業概要	実際の福祉医療組織を題材として、社会が求める事業の探求と解決手法を 探る。25名のクラスを5グループに分け、社会が求めるモノや組織の問題 点を発見し、環境要因を考慮した課題解決方法を構築する。チーム内で知 識を出し合い、課題と解決手段の因果関係を考察する。 実務上、プランは実施により検証されるが、授業では、定期的にPDCAを回 すことで問題点をメンバーで共有し、効率的組織と創造的アイデアを実現 する発展的組織の構築方法を考える。 情報共有のために、調査方法や分析手法も学習する。また、グループ毎に 組織をつくることで、意思決定や権限と責任、リーダーシップとフォロ ワーシップ、プレゼンテーションの方法などを学修する。		
授業の目的と 到達目標	授業の目的は、現状の福祉医療に関する組織の目的を再設定するための思 考方法の修得と設定した目的を達成するためのビジネスプランを作成する 能力の修得である。 到達目標としては、①福祉医療を巡る環境（法・経済・技術・人口・社会 など）を分析するための的確な情報収集ができ、②環境情報の分析から社 会が求める課題探索をマネジメントの用語で説明し、③その課題解決のた めの手段を重要度に応じて挙げて、④客観的なデータによって論理的な 仮説を構築できることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する問題をグループ内で話し合いながらまとめ、これ を発表する形式である。毎回の授業で課題が出されるため、次の授業まで にグループ内で参考資料やデータを集め、課題を解くために必要な基礎的 知識を学び、論理的な発表資料を作成・発表するという形で進められ る。		
テキスト 参考文献	ビジネスプランに関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と 基準	グループ内における発言（10%）、資料作成への参加度（20%）、プレゼ ンテーション（10%）、発表したプランの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野 の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的 を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的 かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネス を改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るため のプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	所属している福祉医療組織の目的と達成度の確認	担当者全員
	2	所属している福祉医療組織の外部環境の考察	担当者全員
	3	所属している福祉医療組織の内部環境の考察	担当者全員
	4	所属している福祉医療組織の目的を再設定	担当者全員
	5	設定した目的を達成する組織(分業の仕組み)の再設計(権限と責任を体系化した組織設計)	担当者全員
	6	組織内部で処理可能な問題と組織外部に依存すべき問題の選択	担当者全員
	7	問題解決による経済効果の分析	担当者全員
	8	新しいプロジェクトの探索①	担当者全員
	9	新しいプロジェクトの探索②	担当者全員
	10	プロジェクトの決定と解決手段(ビジネスプラン)の仮説を提案	担当者全員
	11	ビジネスプランの発表と質疑応答	担当者全員
	12	修正ビジネスプランの発表と質疑応答	担当者全員
	13	再修正ビジネスプランの発表と質疑応答	担当者全員
	14	ビジネスプランの最終発表	担当者全員
	15	ビジネスプランの評価と課題	担当者全員

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	亀川雅人
科目担当者	亀川雅人		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10％）、資料作成の準備状況（20％）、プレゼンテーション（10％）、発表したプロジェクトの内容（60％）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の組織における課題を列挙し、問題解決の難易度と解決までの期間、解決に必要な経営資源などを話し合う。	亀川雅人
	2	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	亀川雅人
	3	現在および将来の環境(法・経済・社会・人口・技術・地域特性など)分析を行う。	亀川雅人
	4	各自の課題プロジェクトに関わる環境を絞り込む。	亀川雅人
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力を分析する。	亀川雅人
	6	プロジェクトを実現するために、補足すべき外部調達の職能を考察する。	亀川雅人
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り込む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を提案する。	亀川雅人
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	亀川雅人
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	亀川雅人
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	亀川雅人
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	亀川雅人
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	亀川雅人
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	亀川雅人
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	亀川雅人
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	亀川雅人

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	栗屋仁美
科目担当者	栗屋仁美		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10％）、資料作成の準備状況（20％）、プレゼンテーション（10％）、発表したプロジェクトの内容（60％）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の組織における課題と、それに関連する社会的課題を列挙し、問題解決の案などを話し合う。	栗屋仁美
	2	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	栗屋仁美
	3	各自の組織の産業、異なる産業について、関連テーマの比較分析を行う。	栗屋仁美
	4	各自の課題プロジェクトに関わる日本国省庁の動き、国際的な動向を調査する。	栗屋仁美
	5	課題プロジェクトを遂行するため必要な項目を分析する。	栗屋仁美
	6	プロジェクトを実現するために、必要な情報を提起し考察する。	栗屋仁美
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り込む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を提案する。	栗屋仁美
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	栗屋仁美
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	栗屋仁美
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	栗屋仁美
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	栗屋仁美
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	栗屋仁美
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	栗屋仁美
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	栗屋仁美
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	栗屋仁美

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	高橋淑郎
科目担当者	高橋淑郎		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10%）、資料作成の準備状況（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表したプロジェクトの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の所属する組織における課題を洗い出し、問題解決の難易度と重要度などから優先度を考え、解決までの期間、解決に必要な経営資源などを話し合う。	高橋淑郎
	2	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	高橋淑郎
	3	現在および将来の外的環境(医療制度、社会情勢、患者の変化、競合病院などの法・経済・社会・人口・技術・地域特性など)分析を行う。	高橋淑郎
	4	現在および将来の内的環境(経営資源や組織風土など)分析を行う。各自の課題プロジェクトに関わる環境を絞り込む。	高橋淑郎
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力を分析する。	高橋淑郎
	6	プロジェクトを実現するために、補足すべき外部調達の職能を考察する。	高橋淑郎
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り込む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を提案する。	高橋淑郎
	8	先行研究あるいは類似研究の吟味も同時に発表する。各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	高橋淑郎
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	高橋淑郎
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	高橋淑郎
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	高橋淑郎
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	高橋淑郎
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	高橋淑郎
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	高橋淑郎
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	高橋淑郎

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	田嶋英行
科目担当者	田嶋英行		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10%）、資料作成の準備状況（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表したプロジェクトの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各受講生の職場の現状について、簡単なプレゼンテーションをおこなう。	田嶋英行
	2	各自の組織における課題を列举し、問題解決の難易度と解決までの期間、解決に必要な経営資源などを話し合う。	田嶋英行
	3	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	田嶋英行
	4	各自の課題プロジェクトに関わる環境を絞り込む。	田嶋英行
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力を分析する。	田嶋英行
	6	プロジェクトを実現するために、補足すべき外部調達の職能を考察する。	田嶋英行
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り組む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を提案する。なおその際には、各職場でのインタビューをおこなって、その結果を反映する。	田嶋英行
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	田嶋英行
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	田嶋英行
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	田嶋英行
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	田嶋英行
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	田嶋英行
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	田嶋英行
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	田嶋英行
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	田嶋英行

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	鳥羽美香
科目担当者	鳥羽美香		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10%）、資料作成の準備状況（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表したプロジェクトの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の職場の問題点、課題に関する考察を行う。課題解決の難易度と解決までの期間、解決に必要な経営資源などをディスカッションする。キーワードとして多職種連携、リーダーシップ、フォロワーシップも含め検討する。	鳥羽美香
	2	第1回授業後に各自がさらに職場における課題を探索し、課題解決のための方策を検討する。	鳥羽美香
	3	職場に関する現在および将来の環境(福祉制度・法律・経済・社会・人口・技術・地域特性など)分析を行う。	鳥羽美香
	4	各自の課題プロジェクトに関わる環境や課題解決方法を絞り込み、発表する。	鳥羽美香
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力や、課題解決の手段を検討する。	鳥羽美香
	6	プロジェクトを実現するために、補足すべき外部調達の職能を考察する。	鳥羽美香
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り込む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、新たなビジネスモデルを考え、仮説を提案する。	鳥羽美香
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	鳥羽美香
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	鳥羽美香
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	鳥羽美香
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	鳥羽美香
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	鳥羽美香
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	鳥羽美香
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	鳥羽美香
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	鳥羽美香

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	藤谷克己
科目担当者	藤谷克己		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10%）、資料作成の準備状況（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表したプロジェクトの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の組織における課題を列挙し、問題解決の難易度と解決までの期間、解決に必要な経営資源などを話し合う。	藤谷克己
	2	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	藤谷克己
	3	現在および将来の環境(法・経済・社会・人口・技術・地域特性など)分析を行う。	藤谷克己
	4	各自の課題プロジェクトに関わる環境を絞り込む。	藤谷克己
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力を分析する。	藤谷克己
	6	プロジェクトを実現するために、補足すべき外部調達の職能を考察する。	藤谷克己
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り込む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を提案する。	藤谷克己
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	藤谷克己
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	藤谷克己
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	藤谷克己
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	藤谷克己
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	藤谷克己
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	藤谷克己
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	藤谷克己
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	藤谷克己

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
科目・2単位	2年次	必修	松下博宣
科目担当者	松下博宣		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	【目的】 ビジネスのリアルワールドで直面している課題や中長期的に改革すべき課題に対して、イノベティブな課題解決方法と実現すべき新規ビジネスシステムを提案する。 【到達目標】 ①課題探索過程において参加メンバーと意味のある対話ができる。②新規ビジネスシステムをデザインする。③問題解決の因果関係、相関関係等を分析し、新規ビジネスシステムの仮説を構築する。④多職種連携を効果的に進める異分野横断的なシステムを提案する。⑤関係者が理解できる客観的データを用い論理的整合性が担保されたプレゼンテーション資料を作成する。⑥資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションを行う。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のために論理構築方法、ビジネス・プロジェクト方法を駆使して、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を活用することができる。 松下博宣 (2020) . 多職種連携とシステム科学 ～異界越境のすすめ～ . 日本医療企画. 松下博宣(2018). 医療看護イノベーション: 組織に変化を起こす 2035年生き残り戦略の教科書 . メディカ出版.		
成績評価の方法と基準	授業内における発言 (10%)、資料作成の準備状況 (20%)、プレゼンテーション (10%)、発表したプロジェクトの内容 (60%) で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の組織における課題を列举し、問題解決の難易度と解決までの期間、解決に必要な経営資源などを話し合う。	松下博宣
	2	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	松下博宣
	3	現在および将来の環境(法・経済・社会・人口・技術・地域特性など)分析を行う。	松下博宣
	4	各自の課題プロジェクトに関わる環境を絞り込む。	松下博宣
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力を分析する。	松下博宣
	6	プロジェクトを実現するために、補足すべき外部調達の職能を考察する。	松下博宣
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り組む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を提案する。	松下博宣
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について質疑応答する。	松下博宣
	9	第8回の授業後に再修正した仮説を提案する。	松下博宣
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	松下博宣
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	松下博宣
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	松下博宣
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	松下博宣
	14	プロジェクトの最終発表と意見交換	松下博宣
	15	プロジェクトの評価コメントと意見交換	松下博宣

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	高橋明美
科目担当者	高橋明美		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最善手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業で、データの収集とデータの解析手法およびプロジェクト研究の進捗状況を発表できるように準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10%）、資料作成の準備状況（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表したプロジェクトの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	各自の組織における課題を列挙し、問題解決の難易度と解決までの期間、解決に必要な経営資源などを話し合う。	高橋明美
	2	第1回授業後に各自がさらに課題を探索し、課題プロジェクトの分析手段を話し合う。	高橋明美
	3	実務を取り巻く、現在および将来の環境(法・経済・社会・人口・技術・地域特性など)分析を行う。	高橋明美
	4	各自の課題プロジェクトに関わる環境を絞り込み、さらに分析する。	高橋明美
	5	課題プロジェクトを遂行するための各自の能力を分析する。	高橋明美
	6	プロジェクトを実現するための、補足すべき外部資源とその調達方法を考察する。	高橋明美
	7	課題解決すべき手段(変数)を絞り込む。課題と解決すべき方法の因果関係を客観的データで分析し、仮説を各自が提案する。	高橋明美
	8	各プロジェクトの課題解決のための仮説について、質疑応答する。	高橋明美
	9	質疑応答を受け、再修正した仮説を各自が提案する。	高橋明美
	10	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答①	高橋明美
	11	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答②	高橋明美
	12	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答③	高橋明美
	13	仮説に基づくプロジェクトの発表と質疑応答④	高橋明美
	14	これまでの質疑をもとに、プロジェクトの最終発表と意見交換を行う	高橋明美
	15	最終発表につき、評価および意見交換を行う	高橋明美

科目名	課題プロジェクト研究		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
共通科目・2単位	2年次	必修	八木麻衣子
科目担当者	八木麻衣子		
授業概要	本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。 課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。 最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。		
授業の目的と到達目標	実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。 この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。		
学習演題 (予習・復習)	毎回の授業のためにデータの収集とデータの解析手法を学び、プロジェクト研究の進捗状況を発表する準備をする。		
テキスト 参考文献	各自のプロジェクト研究に応じて参考文献を選択する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（10％）、資料作成の準備状況（20％）、プレゼンテーション（10％）、発表したプロジェクトの内容（60％）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	自分が所属する組織における解決すべき課題を、自分の問題意識を明確にした上で、探索し言語化する。過程で組織メンバーの意見交換を行う。	八木麻衣子
	2	言語化した解決すべき課題について、他のメンバーに対してプレゼンテーションを行い、フォロワーから得られた建設的な意見をもとに修正を行い、先んじて課題プロジェクトの構造化を行う。	八木麻衣子
	3	設定された課題プロジェクトに関して、レビューが必要な先行研究の領域（外部環境、歴史的背景、論理的背景を含む）をディスカッションにて絞り込む。	八木麻衣子
	4	設定された課題に関連する先行研究のレビューを実際に行う。	八木麻衣子
	5	設定された課題に関連する先行研究レビューの結果をまとめたうえで、課題の解決策の仮説を立案する。	八木麻衣子
	6	設定された課題プロジェクトに関する先行研究レビューの結果と立案した仮説についてについて、フォロワーとともにプレゼンテーションおよびディスカッションを行い、その精度を改善する。	八木麻衣子
	7	課題解決すべき手段（変数）を絞りこみ、データの収集方法を検討する。	八木麻衣子
	8	課題解決すべき手段（変数）を絞りこみ、収集したデータの分析方法を検討する。	八木麻衣子
	9	解決すべき課題を、課題プロジェクトとして、先行研究のレビューに基づいた仮説、および分析方法について、プレゼンテーションとしてまとめる。	八木麻衣子
	10	仮説に基づく課題プロジェクトの分析、実践に関する進捗のプレゼンテーション およびディスカッション①	八木麻衣子
	11	仮説に基づく課題プロジェクトの分析、実践に関する進捗のプレゼンテーション およびディスカッション②	八木麻衣子
	12	仮説に基づく課題プロジェクトの分析、実践に関する進捗のプレゼンテーション およびディスカッション③	八木麻衣子
	13	仮説に基づく課題プロジェクトの分析、実践に関する進捗のプレゼンテーション およびディスカッション④	八木麻衣子
	14	課題プロジェクトの最終発表と意見交換	八木麻衣子
	15	課題プロジェクトの評価コメントと意見交換	八木麻衣子

科目名	経営学 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	亀川雅人
科目担当者	亀川雅人		
授業概要	福祉医療分野の実務家にとって必要な経営学の基礎を学ぶ。経営学は、経営戦略論、経営管理論、経営組織論、マーケティング論などの企業経営全般を認識対象とする学問や、財務・会計、人事・労務、購買、生産、販売といった各職能に特化した学問領域がある。 また、経済学や社会学、心理学などの異なる分析視点から考察される学際的研究である。 こうした多面的な経営学を営利法人と非営利法人の両方の視点から考察し、経営学で用いられる専門用語を理解し、多職種連携のための共通言語として利用できるようにする。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、福祉・医療分野の組織運営において、経営学に基づいた理解を深め、ミクロ視点における経営戦略、経営管理といった組織運営の習得である。到達目標としては、 ①福祉・医療組織における経営課題を経営学の視点から探るとともに ②その課題解決のために経営学の理論を重要度に応じて列挙し、 ③客観的なデータによって論理的な解決案を構築できることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、毎回の講義とともにテーマに沿って、グループ内で話し合いながらまとめ、これを発表する形式である。毎回の授業で課題が出されるため、次の授業までにグループ内で参考資料やデータを集め、課題を解くために必要な基礎的知識を学び、論理的な内容で発表するという形で進められる。		
テキスト 参考文献	【参考書】 亀川雅人著（2020）『経営学って何か教えてください』創成社 亀川雅人・鈴木秀一著『入門 経営学』（第3版）新世社		
成績評価の方法と基準	授業への積極的参加（30%）グループ内における発言（30%）、プレゼンテーション（40%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業 の 展 開	回	概要	担当
	1	経営学とは何か。医療・福祉実務に役立つか？経営学を学ぶ理由を考える。	亀川雅人
	2	営利組織と非営利組織の違い、福祉・医療組織の仕組みと経済性、営利性と非営利性を考える。	亀川雅人
	3	労働を科学的に管理することの重要性と科学的管理の問題を考える。	亀川雅人
	4	分業の利点と人事や財務、購買、生産(医療・福祉サービス)、営業、研究開発などの職務に応じた組織について考える。	亀川雅人
	5	経営戦略論の視点から、全社戦略、事業戦略などを考察し、福祉・医療事業への資源配分を考える。	亀川雅人
	6	PEST(Politics,Economy,Society,Technology)分析、Five Forces分析、SWOT(Strengths,Weaknesses,Opportunities,Threats)分析を学び、各自で分析する。	亀川雅人
	7	福祉・医療組織のステークホルダーととるべき経営とは	亀川雅人
	8	第1回から第7回までの授業を振り返り、各自が自組織に当てはめて発表し、ディスカッションを行う	亀川雅人
	9	具体的な福祉・医療法人における経営戦略についてチームで分析・検討し、その問題点などを考察する。	亀川雅人
	10	具体的な福祉・医療法人における組織マネジメントをチームで分析・検討し、その問題点などを考察する。	亀川雅人
	11	具体的な福祉・医療法人における人材マネジメントをチームで分析・検討し、その問題点を考察する。	亀川雅人
	12	福祉・医療分野で働くということの社会的な意義や自らの目的、働き方について、チームで分析・検討し、その問題点などを考察する。	亀川雅人
	13	福祉・医療法人の財務状況の理解と財務情報の開示の必要性について考える。	亀川雅人
	14	福祉・医療法人におけるミッション・ビジョンなどを考え、どのようなガバナンスが求められるかを考える。	亀川雅人
	15	第9回から第14回までの授業を振り返り、各自が自組織に当てはめて発表し、ディスカッションを行う	亀川雅人

科目名	経営学Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	栗屋仁美
科目担当者	栗屋仁美		
授業概要	現代の企業経営は、様々なステークホルダーの調整が必要である。株式会社であれば、株主、従業員、顧客、取引先企業、金融機関、地域住民、政府などがステークホルダーである。非営利法人には株主はいないが、寄付者やその他の資金提供者が存在する。 経営者や管理者は、企業の目的を遂行するために、様々なステークホルダーとの調整が求められる。ステークホルダーは、企業を取り巻く内外環境を構成しており、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）やコーポレート・ガバナンスなどの視点を学ぶ必要がある。ステークホルダーの役割を確認し、企業の社会性と経済性との関連など、SDGsやESG概念を踏まえて学ぶ。		
授業の目的と到達目標	資本主義社会を支える企業は、社会の一構成員として役割を果たしながら価値を創造しており、我々にとって必要不可欠な存在である。本授業では社会に大きな影響を与える企業の仕組みや、組織のシステム、また経営の方法について、企業と社会の観点より思考する能力の修得を目的とする。到達目標は、以下である。 (1) 企業と社会に関連する基本的な考え方をマネジメントの用語で説明できる。 (2) 企業経営を、社会と企業の関係より思考できる。 (3) 時代の変遷と企業経営の変化について説明できる。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、講義と関連文献（時事ネタも含む）輪読、学生間のディスカッションのミックスである。 よって以下を必要とする。 予習：課題文献を読んで臨む 復習：講義ノートを必ず見返し、理論をまとめる。		
テキスト 参考文献	特にテキストは指定しない。課題本は講義内で提示する。 参考文献としては、企業と社会論に関する書籍を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	授業内演習(60%)、最終レポート(Final Report)(40%)で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	経営学における企業と社会論(CSR)	栗屋仁美
	2	経営学における企業と社会論(SDGsやESG)	栗屋仁美
	3	コーポレート・ガバナンス概念①	栗屋仁美
	4	コーポレート・ガバナンス概念②	栗屋仁美
	5	企業機関とCSR①	栗屋仁美
	6	企業機関とCSR②	栗屋仁美
	7	企業は誰のものか①	栗屋仁美
	8	企業は誰のものか②	栗屋仁美
	9	戦略的な社会性①	栗屋仁美
	10	戦略的な社会性②	栗屋仁美
	11	企業倫理①	栗屋仁美
	12	企業倫理②	栗屋仁美
	13	企業と多様性	栗屋仁美
	14	CSR、SDGsやESGの本質を問う	栗屋仁美
	15	総括	栗屋仁美

科目名	マーケティング概論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	渡部吉昭
科目担当者	渡部吉昭		
授業概要	本授業においては、マーケティングに関する基礎的な知識・知見を身につけたうえで、実際の例をケース・スタディとして参照しながら、マーケティング戦略の有効性について研究する。基礎的な知識・知見を踏まえた上で、身近な企業・商品・サービスを例にとり、マーケティング活動のあるべき姿を考察する。		
授業の目的と到達目標	【目的】本授業を履修する学生が、身近な企業・商品・サービスを例にとりながら、実際のマーケティング活動を研究することによって、マーケティング戦略の成否が企業の業績を大きく左右することを理解することを授業の目的とする。 【到達目標】到達目標は、①基本的知見である、顧客セグメンテーション、ターゲット顧客層の設定とポジショニング、製品政策と価格政策、チャネル政策等の概念を具体的に説明することができる、②マーケティング上の課題を解決するために立案・実行されるマーケティング戦略において重要となる点を、上記の基本的知見を踏まえて、系統立てて理解することができる、③マーケティング戦略が企業の差別化にどのようにつながっているのかを、自分の言葉で第三者に説明することができることである。		
学習演題 (予習・復習)	予習においては、オリジナル教材を事前に読解し、質問事項や不明点を整理しておくこと。グループワークを効果的に行うためには、授業の時間外で、図書館やネットを活用することが必要である。 復習においては、予習における不明点が、授業内に理解できているかを確認することが重要である。不明点が残る場合は、次の授業で質問するなど、不明点を放置しないように留意すること。		
テキスト 参考文献	本授業ではオリジナル教材・テキストを配布する。 マーケティングに関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	発言などの授業への貢献度（10点）、グループ発表（40点）から評価し、マーケティングの基本的知見、問題解決力、応用力を期末試験（50点）によって評価する。授業内の課題については、講評を行い、各グループのプレゼンテーションについては、議論と共に講評を行う。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的な知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション: マーケティング戦略とは何か。授業概要・全体スケジュールの説明	渡部吉昭
	2	FIVE FORCESとポジショニング	渡部吉昭
	3	セグメンテーション	渡部吉昭
	4	ターゲット顧客層の設定とポジショニング	渡部吉昭
	5	製品政策と価格政策	渡部吉昭
	6	チャネル政策	渡部吉昭
	7	顧客満足のマーケティング戦略: 基礎編	渡部吉昭
	8	外部講師(マーケティング・広告業界の現状)	渡部吉昭
	9	戦略事例①LVMH(モエ ヘネシー・レイ・ヴィトン)のケース	渡部吉昭
	10	顧客満足のマーケティング戦略: FEDEX編	渡部吉昭
	11	戦略事例②ベニハナとロッキー青木のケース	渡部吉昭
	12	顧客満足のマーケティング戦略: ホテルオークラ編	渡部吉昭
	13	ケース・スタディ: 各チームがグループで分析作業を行う	渡部吉昭
	14	ケース・スタディ(続): グループ発表	渡部吉昭
	15	総括(レポート形式)	渡部吉昭

科目名	事業戦略論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	渡部吉昭
科目担当者	渡部吉昭		
授業概要	本授業においては、急速にグローバル化するビジネス社会で勝ち抜くための事業戦略についての研究を行う。効果的事業戦略の構築には、競争環境・自社事業・顧客についての適切な理解が不可欠である。この際の理解に求められる、ビジネス戦略における基礎的概念・フレームワーク等を身近な戦略事例を例にとり、ビジネス戦略のあるべき姿を考察する。		
授業の目的と到達目標	【目的】本授業における目的は、以下の4点について、履修する学生が学ぶことである。 1. 適切な事業戦略立案に必要とされるcompetitive dynamics（競合環境）の理解 2. 適切な事業戦略立案に必要とされる自社事業の理解 3. 適切な事業戦略立案に必要とされる顧客の理解 4. 企業の業績評価 【到達目標】上記の4点に関して、履修する学生が、ビジネス戦略の分野における主たる論点や概念的フレームワークを理解し、自分の言葉で解説することができることを到達目標とする。 また、理解の証として、それぞれの論点・フレームワークにおける具体的な企業事例についても、複数の適切な例を挙げて説明できることも併せて到達目標とする。		
学習演題（予習・復習）	予習においては、オリジナル教材を事前に読解し、質問事項や不明点を整理しておくこと。本授業におけるグループワークを効果的に行うためには、授業の時間外で、図書館やネットを活用することが必要である。 復習においては、予習における不明点が、授業内に理解できているかを確認することが重要である。不明点が残る場合は、次の授業で質問するなど、不明点を放置しないように留意すること。		
テキスト参考文献	本授業ではオリジナル教材・テキストを配布する。 事業戦略に関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	発言などの授業への貢献度（10点）、グループ発表（40点）から評価し、事業戦略の基本的知見、問題解決力、応用力を期末試験（50点）によって評価する。 授業内の課題については、講評を行い、各グループのプレゼンテーションについては、議論と共に講評を行う。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション: 事業戦略とは。授業概要・全体スケジュールの説明	渡部吉昭
	2	業界の理解①: 戦略設定の前提条件。ポーターの5F、Value Chain、PEST分析	渡部吉昭
	3	業界の理解②: バリューチェーン	渡部吉昭
	4	企業の理解①: SWOT分析、Stakeholder分析	渡部吉昭
	5	企業の理解②: 4P (Product)	渡部吉昭
	6	企業の理解③: 4P (Price)	渡部吉昭
	7	企業の理解④: 4P (Place)	渡部吉昭
	8	企業の理解⑤: 4P (Promotion)	渡部吉昭
	9	企業の理解⑥: 3C (CustomerとCompany)	渡部吉昭
	10	企業の理解⑦: 3C (Competitor)	渡部吉昭
	11	垂直統合	渡部吉昭
	12	業績評価・管理会計	渡部吉昭
	13	ケース・スタディ: 各チームによるグループでの分析作業	渡部吉昭
	14	14 ケース・スタディ(続): グループ発表	渡部吉昭
	15	総括(レポート形式)	渡部吉昭

科目名	起業論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	平田博紀
科目担当者	平田博紀		
授業概要	本授業では、会社の立ち上げから成長期までに起業家が直面する経営課題について、理論的考察を踏まえながら解決策を検討する。 多くの起業家は、未経験かつ予想できなかった困難の対応に追われる中で、事業活動が停滞するという憂き目を見る。経営資源が圧倒的に少ない状況において起業家に求められる意思決定と直面する諸問題・その解決方法について、起業研究の知見や起業家の分析ケースを共有しながら学修する。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、起業プロセス・その後の経営活動において求められる課題解決力をアントレプレナーに関する研究成果の共有を通して修得することである。到達目標としては、①社会・経済におけるアントレプレナーやスタートアップ企業の意義や役割について説明できるようになるとともに、②起業プロセスにおいて起業家が直面する様々な課題とその解決方法について、先行研究を踏まえて検討できるようになることとする。		
学習演題 (予習・復習)	授業は主にソーシャルサービスに関連する企業の創業者のケースやアントレプレナーシップに関する論文を用いたディスカッション形式で実施する。次回の授業までに様々な起業家が起業前後・その成長プロセスにおいて生じる経営課題をいかに解決したのかを発表できるよう、関連する書籍や雑誌記事を用いて整理することを望む。		
テキスト 参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の方法と基準	課題レポート(60%)、講義中のディスカッションにおける発言(40%)により評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	起業の意義	平田博紀
	2	創業時に直面する課題・創業後に直面する課題	平田博紀
	3	起業家研究	平田博紀
	4	起業の意思と選択	平田博紀
	5	アントレプレナーシップ	平田博紀
	6	新しいビジネス機会の発見と追求	平田博紀
	7	創業チームの役割と組織デザイン	平田博紀
	8	スタートアップ企業の戦略パターン	平田博紀
	9	事業転換と制約条件	平田博紀
	10	資金調達の方法	平田博紀
	11	エクイティファイナンスと投資家	平田博紀
	12	デットファイナンスの必要性	平田博紀
	13	企業の成長	平田博紀
	14	出口戦略と展望	平田博紀
	15	事例と演習	平田博紀

科目名	企業者論（社会起業家論）		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	島田昌和
科目担当者	島田昌和		
授業概要	いずれの企業組織にも目標やミッション（使命・任務）が求められる。この授業では、非営利組織の目標やミッションを考察し、それを実現するためのマネジメントを学ぶ。私的益と公益の追求を同時に追求めた渋沢栄一と渋沢の人材育成に着目したP.F.ドラッカーの経営思想から始まり、最近の理論等を用いて非営利組織のリーダーシップ、イノベーション、人のマネジメント、構成員の成長等、リーダーが率先すべき事柄を取り扱う。非営利組織のマネジメント理論や一般的なリーダーシップの理論のエッセンスを学びながら、職場や関わってきた組織で必要とするマネジメントやリーダーシップの課題とその改善を履修者自身が考え提案する形式で理解を深める。		
授業の目的と到達目標	複数者が集う集団には必ず組織運営のためのミッションやビジョンの重要性を認識し、これを実現するために必要とされるリーダーシップやフォロワーシップについて自ら考え、組織目的に応じてメンバー間のリーダーシップとフォロワーシップが変化するマネジメントのあり方について理解することに目的を置く。履修者それぞれが現場でかかえる構成員間の組織や運営上の課題を持ち寄り、それを解決するためにリーダーシップとフォロワーシップの学習から改善策を策定し、それを現場に持ち帰って試行し、改善の効果を検証していくことを到達目標とする。		
学習演題（予習・復習）	それぞれの回に必要なテキスト等を事前に示して読んできたうえで履修者間の意見交換を中心に進める。それぞれの課題発表も事前の資料共有を求め、履修者同士が組織課題を共有し、アイデアを出し合うことができる環境を用意していく。		
テキスト参考文献	島田昌和『渋沢栄一社会企業家の先駆者』2011年、岩波書店、P.F.ドラッカー『非営利組織の経営』2007年、ダイヤモンド社、金井壽宏『リーダーシップ入門』2005年、日本経済新聞出版社、野田智義・金井壽宏『リーダーシップの旅』2007年、光文社、金子祐子『泣ける会議一部下が活躍できる職場にする』2017年、実業之日本社		
成績評価の方法と基準	各界の課題への取り組み（30%）、発言をはじめとするクラス全体への貢献（30%）、最終課題（40%）		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	非営利組織のマネジメントの概観～ドロッカーをはじめとした非営利組織のマネジメント論	島田昌和
	2	履修者の職場もしくは関係する組織のマネジメントの実情と課題	島田昌和
	3	履修者の職場もしくは関係する組織のマネジメントの実情と課題	島田昌和
	4	履修者の職場もしくは関係する組織のマネジメントの実情と課題	島田昌和
	5	履修者の職場もしくは関係する組織のマネジメントの改善と具体的な取り組み検討	島田昌和
	6	履修者の職場もしくは関係する組織のマネジメントの改善と具体的な取り組み検討	島田昌和
	7	履修者の職場もしくは関係する組織のマネジメントの改善と具体的な取り組み検討	島田昌和
	8	非営利組織におけるリーダーシップの在り方～マネジメントとリーダーシップは何か共通し、何が違うのか？	島田昌和
	9	履修者の職場もしくは関係する組織で必要とされるリーダーシップとフォロワーシップの検討	島田昌和
	10	履修者の職場もしくは関係する組織で必要とされるリーダーシップとフォロワーシップの検討	島田昌和
	11	受講者所属組織で必要とされるリーダーシップとフォロワーシップの検討	島田昌和
	12	社会企業家的なリーダーの役割～渋沢栄一を題材として	島田昌和
	13	履修者の職場もしくは関係する組織で必要とされるマネジメントとリーダーシップに関する最終報告	島田昌和
	14	履修者の職場もしくは関係する組織で必要とされるマネジメントとリーダーシップに関する最終報告	島田昌和
	15	履修者の職場もしくは関係する組織で必要とされるマネジメントとリーダーシップに関する最終報告	島田昌和

科目名	ホスピタリティ・マネジメント		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	澤田裕美
科目担当者	澤田裕美		
授業概要	「医療はサービス業である」と平成7年の厚生白書が掲げて以来、医療機関のみならず、福祉医療分野の多くがサービス業としての自覚を持ち、さらに一歩進めて、ホスピタリティ・マネジメントを導入している。経営課題の一つに接遇の改善があるが、顧客・患者満足度が十分向上しているとは言えぬ状況にある。本授業は経営者や従事者を対象に、顧客・患者やスタッフの満足度が改善し、選ばれる組織となることを目標に、ホスピタリティ概念の修得、経営技能のトレーニングを行う。キーワードはエンゲージメント、ダイバシティ、キャリアデザイン。		
授業の目的と到達目標	ホスピタリティを組織内でどのようにマネジメントしていくのか、全ての履修生がホスピタリティの概念を理解し、職場のみならず地域社会等の日常生活においても実践できることを目標としている。また、履修生の職場におけるプロフェッショナルなコミュニケーションや働き方等についても、履修生との議論を通じて相互に学ぶ。		
学習演題 (予習・復習)	授業に関連する課題について事前に事例を調べておくこと。日頃から業界を問わず、コミュニケーションについて関心を持つこと。		
テキスト 参考文献	必要に応じて、参考文献や資料は適宜配布する。		
成績評価の方法と基準	授業の出席（30%）と発言・プレゼンテーション（40%）、レポート（30%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ホスピタリティとは何か	澤田裕美
	2	日本のサービス産業とホスピタリティの重要性	澤田裕美
	3	ホスピタリティの歴史と文化	澤田裕美
	4	ホスピタリティとサービスの概念	澤田裕美
	5	ホスピタリティの領域(個人・患者・従業員・組織・地域社会)	澤田裕美
	6	ホスピタリティを実践する人材について(1)	澤田裕美
	7	ホスピタリティを実践する人材について(2)	澤田裕美
	8	ホスピタリティ・マネジメント(1)	澤田裕美
	9	ホスピタリティ・マネジメント(2)	澤田裕美
	10	ホスピタリティ・マネジメント(3)	澤田裕美
	11	ゲストスピーカーによる講義	澤田裕美
	12	ホスピタリティにおける課題と目標(1)	澤田裕美
	13	ホスピタリティにおける課題と目標(2)	澤田裕美
	14	受講生による発表(プレゼンテーション)	澤田裕美
	15	総まとめ(21世紀における学び方と働き方)	澤田裕美

科目名	経営組織論 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	能間寛子
科目担当者	能間寛子		
授業概要	経営管理において、組織で働く人々の行動を理解することは、不可欠である。本科目では、組織の仕組みについて基礎的な知識を身につけ、組織論や組織行動の視点を用いて、現代のマネジメント上の課題や問題を考察する。本科目は、組織で働く人々が、組織とどのように関わり、行動するのかを、組織論・組織行動の観点から理解することを目的とする。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 本科目は、経営学の基礎的な知識を身に着けることを目的とする。特に、人と組織に関する経営学の知識（基礎的なコンセプト、モデル、理論等）に基づいて、効果的な組織づくり、個人の力を活かす方法などについて考える。 【到達目標】 ・組織の構造や特徴を理解できる。 ・組織文化のコンセプトを理解し、事例を考察することができる。 ・パーソナリティについて理解を深め、職場における課題を考察することができる。 ・モチベーション及びコミットメントの理論やモデルを理解し、事例を考察することができる。 ・リーダーシップ及びフォロワーシップのコンセプト及び代表的な理論を用いて事例を考察することができる。		
学習演題 (予習・復習)	予習：配布された資料をよく読み、要点や分からない点を整理すること。提示されたキーワードについて調べておくこと。 復習：授業内でのディスカッションを振り返って、要点を整理し、自分の考えを中心にまとめておくこと。		
テキスト 参考文献	教科書は指定しないが、事前に資料等を配布し、使用する。参考文献として以下の文献以外にも適宜授業時に紹介する。 服部康宏（2020年）『組織行動論の考え方・使い方 良質のエビデンスを手にするために』有斐閣		
成績評価の方法と基準	授業への参加貢献（授業内でのディスカッションやグループワークへの参加貢献）40%、中間課題（第1回～7回の授業内容の理解度）30%、期末課題（第9回～14回の授業内容の理解度）30%		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション(経営と組織)	能間寛子
	2	マネジメントの理論	能間寛子
	3	組織のデザイン①	能間寛子
	4	組織のデザイン①	能間寛子
	5	組織文化	能間寛子
	6	集団力学(グループダイナミクス)	能間寛子
	7	組織における意思決定	能間寛子
	8	まとめ①	能間寛子
	9	組織の中の個人①	能間寛子
	10	組織の中の個人②	能間寛子
	11	組織におけるモチベーション	能間寛子
	12	コミットメントと組織市民行動	能間寛子
	13	リーダーシップ	能間寛子
	14	フォロワーシップ	能間寛子
	15	まとめ②	能間寛子

科目名	経営組織論Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	能間寛子
科目担当者	能間寛子		
授業概要	本科目では、組織論及び組織行動論の基礎的な知識を身につけたうえで、現代のマネジメント上の課題や問題に対する理解を深めることを目的とする。特に、日本企業の組織上の特徴を理解し、その仕組みや直面している課題や問題などを通して、現代のビジネス環境や職場環境の課題や問題について考える。組織論や組織行動論などの知識を使って、実際の企業の具体的事例を考察する力を身につける。		
授業の目的と到達目標	【目的】 本科目は、組織論及び組織行動論に関する基礎的な知識を身に着けることを目的とする。そして、それらの学術的な視点や知識を用いて日本の組織におけるマネジメント上の特徴を理解し、課題や問題を考察できるようになることを目指す。 【到達目標】 1. 日本の組織のマネジメント上の特徴を理解できる。 2. 職場におけるコミュニケーション上の課題や問題を理解し、議論することができる。 3. 個人が組織と関わる際の認知、行動、態度に関する基礎的なコンセプトを理解することができる。 4. 職場の多様性を尊重する姿勢を身に着け、課題や問題を建設的に議論することができるようになる。		
学習演題 (予習・復習)	予習：配布された資料をよく読み、要点や分からない点を整理すること。 提示されたキーワードについて調べておくこと。 復習：授業内でのディスカッションを振り返って、要点を整理し、自分の考えを中心にまとめておくこと。		
テキスト 参考文献	教科書は指定しないが、事前に資料等を配布し、使用する。		
成績評価の方法と基準	授業への参加貢献（授業内でのディスカッションやグループワークへの参加貢献）40%、中間レポート（第1回～7回の授業内容の理解度）30%、授業内発表（第9回～14回の授業内容の理解度）30%		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション	能間寛子
	2	日本企業のマネジメント	能間寛子
	3	日本文化と組織コミュニケーション	能間寛子
	4	日本企業と心理的契約	能間寛子
	5	認知バイアスと他者理解	能間寛子
	6	組織アイデンティティ	能間寛子
	7	ダイバーシティマネジメント	能間寛子
	8	まとめ	能間寛子
	9	組織におけるパワー	能間寛子
	10	心理的安全性	能間寛子
	11	職場における信頼	能間寛子
	12	組織における感情と感情労働	能間寛子
	13	職場におけるストレスとメンタルヘルス	能間寛子
	14	組織行動の視点から組織の課題を考える①(授業内発表)	能間寛子
	15	組織行動の視点から組織の課題を考える②(授業内発表)	能間寛子

科目名	経営組織論Ⅲ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	草野千秋
科目担当者	草野千秋		
授業概要	本科目では、組織論の基礎的な知識を学んだうえで、営利・非営利組織の仕組みや働く人の特徴について考え、マネジメントの課題や問題点について理解を深める。 特に、働く人に注目し、営利や非営利組織で求められる人材や働き方、それにとまなう組織の人材管理や育成、活用の違いに関して、事例を用いながらディスカッションし、受講者の分析力と考察力を高めていく。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、組織論の基礎的な知識の習得と、ヒューマンサービス組織の仕組みや働く人の特徴を理解することである。 到達目標は、 ①組織とそのマネジメントに関する知識を習得できる。 ②ヒューマンサービス組織の特性について説明できる。 ③組織を客観的に捉え、その問題、課題や解決を論理的に思考できる。		
学習演題 (予習・復習)	授業は輪読とディスカッションの形式である。毎回、担当者を決め、指定した資料や文献のレジュメ作りと発表、ディスカッションのテーマ設定、進行役を行う。それ以外の受講生は、資料や文献をレポートにまとめ、質疑に備える。		
テキスト 参考文献	適宜、資料を配布し、参考書を紹介する。		
成績評価の方法と基準	ディスカッション（30%）、レジュメ＋発表＋進行（30%）、レポート（40%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ガイダンス、	草野千秋
	2	組織論とマネジメント	草野千秋
	3	組織を理解する(組織と諸理論)	草野千秋
	4	非営利組織を理解する(公的セクター、ヒューマンサービス、NPOなど)	草野千秋
	5	組織と外部環境	草野千秋
	6	組織と戦略および有効性	草野千秋
	7	組織設計(組織形態)	草野千秋
	8	組織構造(分業と調整)	草野千秋
	9	専門職とパワー構造	草野千秋
	10	コンフリクト・マネジメント	草野千秋
	11	組織文化と倫理	草野千秋
	12	組織と学習	草野千秋
	13	組織変革と組織開発	草野千秋
	14	発表(所属組織の問題と課題の共有)	草野千秋
	15	まとめ	草野千秋

科目名	経営組織論Ⅳ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	草野千秋
科目担当者	草野千秋		
授業概要	組織における人の行動に関する諸理論を体系的に理解したのちに、組織と働く人の双方の視点から、人がモチベーションを高めて主体的に活動する組織について考えを深める。組織行動の理論をベースに、営利・非営利組織で働く人の気持ち・感情、特性、協働のあり方について、比較検討し、各々の組織の強みや弱みを理解して、意欲的に仕事へ取り組む意義と価値を考える力を身につけることを目指す。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、組織における人と集団の行動について諸理論の習得と、従事者の仕事や協働体系の仕組みについて得た知識を実践に役立てることを目的とする。 到達目標は、 ①人や集団の思考や行動に関する基本的な知識を習得できる。 ②ヒューマンサービス組織の仕事や協働の特徴について説明できる。 ③自らの経験を諸理論を通して分析できる。		
学習演題 (予習・復習)	授業は輪読とディスカッションの形式である。毎回、担当者を決め、指定した資料や文献のレジュメ作りと発表、ディスカッションのテーマ設定、進行役を行う。それ以外の受講生は、資料や文献をレポートにまとめ、質疑に備える。		
テキスト 参考文献	適宜、資料を配布し、参考書を紹介する。		
成績評価の方法と基準	ディスカッション（30%）、レジュメ＋発表＋進行（30%）、レポート（40%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ガイダンス	草野千秋
	2	組織と組織論の全容(個人、集団、組織を理解する)	草野千秋
	3	組織における個人(行動とパーソナリティ、感情)	草野千秋
	4	モチベーションの基本	草野千秋
	5	モチベーションの応用	草野千秋
	6	グループ・ダイナミクス(集団を理解する)	草野千秋
	7	チーム・マネジメント	草野千秋
	8	意思決定(個人と集団)	草野千秋
	9	組織コミットメントと組織市民行動	草野千秋
	10	コミュニケーション	草野千秋
	11	リーダーシップの基本	草野千秋
	12	リーダーシップとフォロワーシップ	草野千秋
	13	組織ストレス	草野千秋
	14	発表(これまでの経験を分析する)	草野千秋
	15	まとめ	草野千秋

科目名	人的資源管理論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
科目・2単位	1年次・2年次	選択	松下博宣
科目担当者	松下博宣		
授業概要	人的資源管理（Human Resources Management:HRM）の基本的な方法論とカレント・イシューを共有する。HRMは、グローバルな慣行と国内の慣行の乖離が顕著な分野である。日本では、メンバーシップ型雇用慣行に加えヘルスケア分野ならではの制度的な特殊事情があり、グローバルなジョブ型雇用慣行との乖離を際立たせている。本授業では、これらの人的資源に関する乖離現象や特殊事情を捉え、HRMに関する分野すなわち、雇用区分、社員格付け、多職種連携、採用、教育訓練、配置転換、昇進・昇格、人事評価、賃金管理、キャリア開発、福利厚生、ワークスタイル等について議論してゆく。こうした知見をベースにして、参加者は、各人の身近な医療機関、福祉系組織、企業や職場の事例をとりあげ、実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、HRMにかかわる理論や議論を踏まえて、積極的にディスカッションを加え、ヘルスケアHRMの現状や課題について考え、対策を講じる知力を養うものとする。		
授業の目的と到達目標	【目的】ヘルスケア分野のHRMに関する概念と方法論をグローバル視点、国内ビジネス慣行視点から俯瞰して理解する。 【到達目標】①HRMに関する雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進・昇格、人事評価、賃金管理、キャリア開発、福利厚生について理解する。 ②各自のキャリア開発の方向性を明確化する。 ③HRMに関する国際的な動向、日本国内の主要な特徴と動向について説明できる。 ④各自が関与している組織のHRMについて改善すべき点を指摘して、改善案を提案する。		
学習演題（予習・復習）	・授業各回ごとにキー・クエスチョンを共有し、リーディング・アサインメントをもとに、グループディスカッションをおこなう。 ・各自の経験や本授業での検討事項を踏まえて、HRMに関する課題についてレポートを作成し発表する。		
テキスト参考文献	各回のキー・クエスチョンに沿って、都度、関連する論文や書籍をリーディング・アサインメントとして指定する。		
成績評価の方法と基準	クラス・パーティシペーション（ディスカッションへの参加）（20％）、中間テスト（20％）、最終レポート（60％）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	なぜHRMが必要なのか？日本における人的資源の階層化現象とはなにか？1億総中流が崩壊して、階層・階級化する日本の姿をレビューする。	松下博宣
	2	日本的雇用慣行とはなんなのか？なぜ雇用区分(正規、非正規等)が発生したのか？雇用区分の多様化と生涯賃金格差を考察する。	松下博宣
	3	キャリア開発の成功要因、失敗要因とはなにか？キャリア開発は誰の責任なのか？長寿ボーナスの有効活用について考える。	松下博宣
	4	「人生100年時代」においてキャリア開発の成功方程式はあるのか？主要理論を比較して、各自が使えるような理論を評価する。	松下博宣
	5	成果主義とはなにか？欧米社会により形成されてきたメリットクラシー(能力制)の歴史的経緯と日本の特殊事情を比較考量する。	松下博宣
	6	ヘルスケア労働市場はどのように変化しているのか？ヘルスケア労働市場の特徴・問題はなにか？主流派経済学では把握しきれない特殊な制度的側面を理解する。	松下博宣
	7	人的資本(Human Capital)とはなにか？ヘルスケア専門職に求められる「T型人間」「 π 型人間」、教育自己投資のリターン評価のポイントを理解する。	松下博宣
	8	求められる人的資本の変化の方向性は？「投資」としての教育訓練、変化するhuman capitalをとらえる。	松下博宣
	9	「出世」とはなにか？昇進の機能、日本の昇進管理の特徴と個人のキャリア開発の相克について考える。	松下博宣
	10	ヘルスケア分野の専門職制度の問題と可能性はなにか？昇進の課題、専門職制度について検討する。	松下博宣
	11	賃金管理はどのように変化してゆくのか？成果主義化のトレンドなかで、変化の方向性と問題について考える。	松下博宣
	12	福利厚生はどのように変化してゆくのか？公的年金はどのように変化してゆくのか？福利厚生に関する近年の変化について考える。	松下博宣
	13	ワークスタイルはどのような方向に変化しているのか？コロナ禍を契機にリモートワークなどワークスタイルが変化している。ヘルスケア分野のワークスタイルの変化はなんなのか？	松下博宣
	14	各自のレポートに準拠して内容を発表する。	松下博宣
	15	授業全体を俯瞰して振り返り、HRMの変化の方向性における主要ポイントを整理して共有する。	松下博宣

科目名	人材マーケティング I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	牛窪恵
科目担当者	牛窪恵		
授業概要	少子高齢化や共働き家庭の増加、AI、デジタル化などの影響を受け、様々な業界で顧客が求めるニーズやサービス像に大きな変化が起こっている。人材マーケティング I では、様々な業界の商品・サービス開発や顧客分析に基づき、今後の社会で求められる福祉医療サービス人材とその開発に向けた視点やスキルを学ぶ。適宜、事例研究や履修者同士のディスカッションなどを交え、次世代の人材マーケティングを幅広い視点から捉えられる基礎的能力を育む。		
授業の目的と到達目標	本科目は福祉関連を含む大手企業各社と、20余年にわたり、現場で新商品及び新サービスの企画・開発に携わってきた実務者による授業である。「人材マーケティング I」では、近年における様々な社会環境の変化や技術革新が、各世代（ターゲット）の顧客ニーズにどのような変化をもたらしたかを体系的に理解し、顧客ニーズに対応できる人材の開発について考察する。 また今後の福祉医療分野において求められるサービス像を、自発的に想起及び企画開発し得る能力を育む。 そのうえで、組織に求められる人材の採用・開発について、多様な視点で発想することの重要性を理解する。		
学習演題 (予習・復習)	■予習：事前に提示するオリジナル教材、参考文献等に目を通し、次回授業テーマとポイントを把握したうえで授業に臨む（目安は30、40分程度） ■復習：授業で使ったオリジナル教材、参考文献等やディスカッション内容を振り返り、授業ポイントを自分なりに理解する。必要に応じてレポート作成に臨む（目安は最低でも30～60分程度）		
テキスト 参考文献	『マーケティングキーワードベスト50』（田中洋／自由国民社） 『コトラーのマーケティング5.0』（フィリップ・コトラー／朝日新聞出版） 『若者たちのニューノーマル ―Z世代、コロナ禍を生きる』（牛窪恵／日経BP）		
成績評価の方法と基準	期中レポート（2回程度）（20%）、授業内ディスカッション（30%）、授業内プレゼンテーション（20%）、最終レポート（30%） ※レポートについては、授業内で事前に、その内容や評価ポイントに関する解説を行なう		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	授業概要1ー「マーケティング」とは何か？ ー4Pから4Cへ。最も重要なのは「顧客」視点の発想力	牛窪恵
	2	授業概要2ー「人材マーケティング」とは何か？ ー顧客を知る調査手法と一般的施策、その課題	牛窪恵
	3	人材マーケティングと社会環境の変化① ー少子高齢化、未婚化、共働き化は何をもたらしたか？	牛窪恵
	4	人材マーケティングと社会環境の変化② ー職場や身の周りで起きている事象の客観視(ディスカッション)	牛窪恵
	5	人材マーケティングと技術革新① ーAI、ビッグデータ、DXは何を変えようとしているのか？	牛窪恵
	6	人材マーケティングと技術革新② ー職場や身の周りで起きている事象の体系化(ディスカッション)	牛窪恵
	7	人材マーケティングと企業現場① ーゲスト講師による講義(ヘルス&ウェルネス関連企業担当者) 予定	牛窪恵
	8	人材マーケティングと企業現場② ー理論と実践の「穴」をどう埋めるか(ディスカッション)	牛窪恵
	9	人材マーケティングと世代間ギャップ① ーコトラ『マーケティング5.0』における世代定義と「デジタル」の功罪	牛窪恵
	10	人材マーケティングと世代間ギャップ② ー顧客間、対顧客で発生し得る世代間ギャップとは(ディスカッション)	牛窪恵
	11	福祉医療サービスの先進事例① ー地方自治体におけるICT、アライアンス活用と新サービス	牛窪恵
	12	福祉医療サービスの先進事例② ー異業種を含めた企業におけるICT、アライアンス活用と新サービス	牛窪恵
	13	福祉医療分野における人材マーケティングの課題① ーグループ発表(予定)	牛窪恵
	14	福祉医療分野における人材マーケティングの課題② ーグループ発表を受けたディスカッション(予定)	牛窪恵
	15	授業総括、最終課題発表	牛窪恵

科目名	人材マーケティングⅡ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	牛窪恵
科目担当者	牛窪恵		
授業概要	人材マーケティングⅠと同様に、我々を取り巻く社会環境の変化は、働き方にも影響を与え、希少資源である人材（人財）の配分に偏りや歪みを生じさせている。 人材マーケティングⅡでは、従業員研修や人材マッチング事業の現状から、今後の社会で求められる採用マーケティングや雇用マッチング等の視点を学ぶ。履修者同士のディスカッションや事例研究を交え、次世代の人材マーケティングを自律的に発想できる応用力を身に着ける。		
授業の目的と到達目標	本科目は福祉関連を含む大手企業各社と、20余年にわたり、現場で新商品及び新サービスの企画・開発に携わってきた実務者による授業である。 「人材マーケティングⅡ」では、近年における社会環境の変化や技術革新によって、企業経営や人材（人財）採用・開発の現場に何が起きているかを、異業種を含む様々な事例を基に理解し、社会が求める人材像を考察する。 そのうえで、最新のテクノロジーや雇用（転職）マッチング戦略、今後の福祉医療業界に求められる人材採用・開発について、多様な視点で発想を膨らませながら、業界の未来にイノベーションを起こし得る人材を育む。		
学習演題 (予習・復習)	■予習：事前に提示するオリジナル教材、参考文献等に目を通し、次回授業テーマとポイントを把握したうえで授業に臨む（目安は30、40分程度） ■復習：授業で使ったオリジナル教材、参考文献等やディスカッション内容を振り返り、授業ポイントを自分なりに理解する。必要に応じてレポート作成に臨む（目安は最低でも30～60分程度）		
テキスト 参考文献	『図解 人材マネジメント入門』（坪谷邦生／ディスカヴァー21） 『たった1人からはじめるイノベーション入門』（竹林一／日本実業出版社） 『若者たちのニューノーマル ―Z世代、コロナ禍を生きる』（牛窪恵／日経BP）		
成績評価の方法と基準	期中レポート（2回程度）（20%）、授業内ディスカッション（30%）、授業内プレゼンテーション（20%）、最終レポート（30%） ※レポートについては、授業内で事前に、その内容や評価ポイントに関する解説を行なう		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	授業概要1ー日本における「人材マーケティング」の課題 ーなぜ雇用の流動性が起こりにくいのか？	牛窪恵
	2	授業概要2ー日本における「人材マーケティング」の光明 ー異業種連携や転職、副業等が与えるインパクト	牛窪恵
	3	人材マーケティングと「新型コロナウイルス」① ー「ステイホーム」で起きたマンパワーの歪みと解消事例	牛窪恵
	4	人材マーケティングと「新型コロナウイルス」② ー人的交流が新たな事業視点をもたらす可能性(ディスカッション)	牛窪恵
	5	人材マーケティングと「人財ニーズ」 ー求める人物像を具現化する手法	牛窪恵
	6	人材マーケティングと「新型コロナウイルス」② ー求める人物像の採用・雇用には何が不可欠か(ディスカッション)	牛窪恵
	7	人材マーケティングと採用行動① ーリソースフローの概念と人材ポートフォリオ、特殊採用事例	牛窪恵
	8	人材マーケティングと採用行動② ー職場や身の周りで起きている事象の体系化(ディスカッション)	牛窪恵
	9	人材マーケティングと異動・転職行動① ー転職マッチングに関するディスカッション	牛窪恵
	10	人材マーケティングと異動・転職行動② ー需要と供給のアンバランスをどう捉えるか(ディスカッション)	牛窪恵
	11	人材マーケティングと人材開発① ーOJT、Off-JT、自己啓発の先端事例と社会的意義	牛窪恵
	12	人材マーケティングと人材開発② ー職場や身の周りで活用可能な学習・研修モデルとは(ディスカッション)	牛窪恵
	13	福祉医療分野における人材マーケティングの可能性① ーグループ発表(予定)	牛窪恵
	14	福祉医療分野における人材マーケティングの可能性② ーグループ発表を受けたディスカッション(予定)	牛窪恵
	15	授業総括、最終課題発表	牛窪恵

科目名	リーダーシップとコーチング		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	島川久美子
科目担当者	島川久美子		
授業概要	医療福祉現場のリーダーには、患者のケアを行いながら、「ビジョンや価値を伝える」「メンバーを前進させ成長させる」「人の特性を活かす」といった役割が求められる。授業では、医療現場で発生する日々の課題解決や業務改善を行うために、個々人に適したリーダーシップスタイルを探求するための知識の修得に加えて、職場で部下や後輩らチームメンバーの能力や自発性を引き出すコミュニケーション能力としてのコーチングの基礎スキルを演習形式で行う。		
授業の目的と到達目標	受講者、部下や後輩、同僚との関わりにおいて、受講生がリーダーシップを発揮しなければならない場に立った時に、現在の状況を把握する努力、過去の状況や対応、これから何をどのようにすべきかを考え、到達地点を想定できることを目的とする。 到達目標 1. 受講生が人々の力を導き出し、結束して前へ進むためのリーダーシップスタイルを知る。 2. チームメンバーの能力や自発性を引き出すコミュニケーション能力としてのコーチングの基礎を習得する。		
学習演題 (予習・復習)	授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて行う。		
テキスト 参考文献	授業時に適宜、配布する。		
成績評価の方法と基準	授業への貢献（ディスカッション）(50%)授業へ積極的に発言、演習時の発言を授業の貢献とし、加点主義で運用する。 各授業の事前の設問について、自分の意見や考えを書いたメモを提出。原紙は手元に置き、写しを提出する。(50%)		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	リーダーシップを学ぶにあたって、あなたの考え方癖を知る	島川久美子
	2	人と組織のマネジメントとは	島川久美子
	3	リーダーシップとマネジメントの違い	島川久美子
	4	リーダーシップの理論	島川久美子
	5	リーダーシップスタイル	島川久美子
	6	個人が働くための源泉を知る	島川久美子
	7	チームでリーダーシップを発揮する際の課題とは何か	島川久美子
	8	チームでリーダーシップを発揮するために	島川久美子
	9	現場でリーダーシップを発揮するための私の課題を(発表) 放射線科で発揮した私のリーダーシップ(事例紹介)	島川久美子
	10	リーダーシップを発揮するためのコミュニケーションスキル	島川久美子
	11	今、なぜコーチングが必要なのか	島川久美子
	12	リーダーシップ開発1 ～コーチング(傾聴、ペーシング)～	島川久美子
	13	リーダーシップ開発2 ～問題解決を促す質問のスキル～	島川久美子
	14	リーダーシップ開発3 ～人の貢献欲求に寄与する承認スキル～	島川久美子
	15	リーダーシップ開発4 ～組織目標を達成する～	島川久美子

科目名	会計学基礎A		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	吉田久子
科目担当者	吉田久子		
授業概要	「会計は経営の羅針盤」と言われる通り、多様な実務を数値化し、客観化しなければ各職能間の共通尺度がつかれない。福祉医療技術が優れていても、顧客や患者満足度が高くても、地域に長く福祉医療を提供するためにはその基礎となる経営が盤石でなければ継続できない。経営を数値化する会計を知ることによって経営の問題点や解決策を論じることができる。授業形態はスクール形式とグループワーク形式をミックスして行い、福祉医療からは離れた会計というものを身近に感じてもらえる授業とし、財務諸表を俯瞰して読めるようにする。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、福祉医療に関する組織の礎（羅針盤）となる財務諸表を俯瞰して読める能力の取得である。 達成目標としては、①貸借対照表の内容を理解する。②損益計算書の内容を理解する。③キャッシュフロー計算書の内容を理解する。④グループワークでの考察力の取得。⑤ケーススタディでの洞察力の取得。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、基礎知識を得るためのスクール形式と、より理解を深めるためのケーススタディ等によるグループワーク形式で行う。インプットとアウトプットを行う事で、会計による知識を深める。		
テキスト 参考文献	受講には筆記用具と電卓必要		
成績評価の方法と基準	出席（50％）グループワーク・ケーススタディでの発言（25％）レポート提出（25％）		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ☐ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	財務会計の基礎知識	吉田久子
	2	貸借対照表の基礎知識	吉田久子
	3	損益計算書の基礎知識	吉田久子
	4	減価償却の基礎知識	吉田久子
	5	キャッシュ・フローの基礎知識	吉田久子
	6	資金繰り表の基礎知識	吉田久子
	7	棚卸資産の基礎知識	吉田久子
	8	資金調達の基礎知識	吉田久子
	9	財務諸表分析的視点の基礎知識	吉田久子
	10	グループワーク1	吉田久子
	11	グループワーク2	吉田久子
	12	グループワーク3	吉田久子
	13	ケーススタディ1	吉田久子
	14	ケーススタディ2	吉田久子
	15	ケーススタディ3	吉田久子

科目名	会計学基礎B		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	高橋円香
科目担当者	高橋円香		
授業概要	<注意> 本講義は昼開講科目となる。 <授業概要> 会計はビジネスの言語であるといわれる。営利、非営利を問わず、経営組織をめぐる社会環境は益々複雑化してきており、経営管理ツールとしても特に有用な、会計の仕組みや手法などについてよく理解しておく必要がある。本授業では会計の基礎理論について、組織マネジメントを計数的に認識・測定することができるよう、制度と実践の両側面から学習することによって、会計の物の考え方・見方を身に付ける。		
授業の目的と到達目標	<授業の目的> 組織における経理業務上必要となる簿記に関する基礎技術を身に付け計算書類の成り立ちについて理解する。そのうえで会計の基礎理論について、組織マネジメントを計数的に認識・測定することができるよう、制度と実践の両側面から学習する。これによって、会計の物の考え方・見方を身に付けることを目的としている。また <到達目標> 1. 簿記の基本原則を理解する 2. 会計の基本理論を理解する		
学習演題 (予習・復習)	講義形式で展開する。毎回講義内容の確認クイズを実施する。また学修到達度を図るため不定期に演習を実施する。 予習：レジメ・講義資料を事前に配布するので、テキストを読み必要な用語等を穴埋めしておくこと。 復習：講義で解いた練習問題を再度解きなおす。		
テキスト 参考文献	渋田貴正著「はじめてでもわかる簿記と経理の仕事」(成美堂出版)		
成績評価の方法と基準	練習問題(講義内容の確認) 25% 演習(会計に関する基礎知識を確認) 20% レポート(全体総括) 55%		
ディプロマとの関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	会計を学ぶにあたって(ガイダンス)	高橋円香
	2	基本原理:簿記の流れと帳簿の種類	高橋円香
	3	基本原理:簿記の5要素と取引の記帳	高橋円香
	4	基本原理:決算と決算書	高橋円香
	5	基本原理:確認演習	高橋円香
	6	基本理論:会計の役割と種類	高橋円香
	7	基本理論;会計の歴史的意義	高橋円香
	8	基本理論:外部報告の会計～財務会計～	高橋円香
	9	基本理論:組織内部の会計～管理会計～	高橋円香
	10	基本理論:会計と税務の関係～税務会計～	高橋円香
	11	基本理論:その他の会計	高橋円香
	12	実践:計算書分析実践①～安全性分析～	高橋円香
	13	実践:計算書分析実践②～収益性分析	高橋円香
	14	実践:計算書分析実践③～成長性分析～	高橋円香
	15	全体総括	高橋円香

科目名	企業財務論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	亀川 雅人
科目担当者	亀川雅人 平田博紀		
授業概要	企業の資金調達と運用に関する基礎的な理論を学ぶ。事業価値と事業を構成する投資プロジェクトを評価するために、資本コストの概念を学び、現在価値法と企業評価の基礎理論を実務で応用する際の注意点を確認する。併せて、企業評価にかかわる諸指標として、ROA（総資産利益率）、ROE（株主資本利益率）などの収益性分析、自己資本比率、流動比率、当座比率などの安全性分析や損益分岐点分析、市場と財務諸表との関係を示すPER（株価収益率）やPBR（株価純資産倍率）などの企業経営に関する評価指標と資本コストの関連性についても学ぶ。 いずれの基礎理論も、福祉医療事業への応用を考慮する。未上場の株式会社や非営利法人でも必要となる投資プロジェクトの評価手法を理解することに目的がある。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、企業の資金調達と運用に関する基礎的な理論と事業価値と事業を構成する投資プロジェクトを評価に関する基礎理論の修得である。到達目標としては、①キャッシュフローの現在価値、資本コストの概念を理解したうえで、設備投資やM&A等の投資行動がもたらす収益性の判断ができるようになるとともに、②税や倒産コスト、情報の非対称性といった要因を考慮しながら資本構成と企業価値の関係について検討できるようになることとする。		
学習演題 (予習・復習)	授業は主にソーシャルサービスに関連する事業を実施する株式会社のケースを用いたディスカッション形式で実施する。次回の授業までに、有価証券報告書やプレスリリースなど企業が発表する各種資料を確認し、様々な株式会社が採用している資金調達手法や企業価値評価の考え方について発表できるように整理することを望む。		
テキスト 参考文献	適宜紹介する		
成績評価の方法と基準	課題レポート(60%)、講義中のディスカッションにおける発言(40%)により評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	企業財務の役割と目的	担当者全員
	2	連結財務諸表と株式会社制度	担当者全員
	3	ステークホルダーから求められる財務諸表	担当者全員
	4	キャッシュフロー経営	担当者全員
	5	経営者に対する株主・債権者の要求	担当者全員
	6	有利子負債コスト	担当者全員
	7	株主資本コスト	担当者全員
	8	資本構成に関する理論	担当者全員
	9	様々な企業価値評価の方法	担当者全員
	10	DCF法による企業価値評価	担当者全員
	11	企業価値、事業価値、株主価値	担当者全員
	12	投資の判断指標	担当者全員
	13	企業価値向上のための財務意思決定	担当者全員
	14	M&Aと企業価値評価	担当者全員
	15	事例と演習	担当者全員

科目名	ビジネス定量分析		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	羽田明浩
科目担当者	羽田明浩		
授業概要	ビジネスにおいて必要な数量的分析に基づく意思決定の手法を修得する。本授業が対象とする意思決定は戦略的意思決定と管理的意思決定に関する領域である。状況に応じた意思決定の手法について理解し、経営管理に役立てることが出来ること、設備投資や人的資源への投資などに際して論理的に意思決定が出来ることを目指した内容である。 具体的には、ペイオフ表を用いた意思決定、リアルオプションを用いた意思決定、デシジョンツリーを用いた意思決定、ロジカルシンキングによる意思決定、損益分岐点分析とNPVによる投資に係る意思決定及び財務分析による投融資判断などの基礎的説明を行う。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、受講者のビジネスにおいて必要な意思決定の手法と定量分析の手法を修得してビジネスにおける様々な意思決定を行う能力を修得することである。 授業の到達目標は、①ペイオフ表を用いた意思決定、②損益分岐点分析、③NPVによる投資に係る意思決定、④財務分析による投融資判断⑤リアルオプションを用いた意思決定とデシジョンツリーを用いた意思決定、⑥ロジカルシンキングによる意思決定など、状況に応じた意思決定の手法について理解し、経営管理上の意思決定に際して役立てることが出来ることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する講義資料によって基礎的な知識を修得した後、練習問題他を通して知識吸収を図るものである。 特に受講者の過去の実務を振り返り、本授業で修得した知識が活用できることを目指す内容とするものである。		
テキスト 参考文献	テキスト 講義資料は講義に際して都度配布する。 参考文献 意思決定に関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	講義の参加度合い（30％）、期末レポート（70％）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業 の 展 開	回	概要	担当
	1	講義全体の概略	羽田明浩
	2	ペイオフ表を用いた意思決定の説明	羽田明浩
	3	確実性の高い時の意思決定	羽田明浩
	4	損益分岐点分析の説明	羽田明浩
	5	損益分岐点分析を用いた意思決定	羽田明浩
	6	投資に関わる意思決定 ファイナンス理論の説明	羽田明浩
	7	投資に関わる意思決定 (NPVとIRRの説明)	羽田明浩
	8	リスクのある時の意思決定(期待値原理、期待値・分散原理)	羽田明浩
	9	リスクのある時の意思決定2(最尤未来原理、要求水準原理)	羽田明浩
	10	不確実な時の意思決定(ラプラスの原理、マキシミン原理)	羽田明浩
	11	不確実な時の意思決定2(マキシマックス原理、ハービッツの原理)	羽田明浩
	12	デシジョンツリーによる意思決定	羽田明浩
	13	リアルオプションによる意思決定	羽田明浩
	14	ロジックツリーを用いた意思決定(ホワイツリー、イシューツリーの作成)	羽田明浩
	15	講義のまとめと事例紹介他	羽田明浩

科目名	情報処理 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	浜正樹
科目担当者	浜正樹		
授業概要	現代の情報化社会に必要な情報リテラシーとして、インターネット関連法規やサイバーセキュリティの基礎知識を学び、パソコンや周辺機器の基本操作、ワープロソフトによるビジネス文書作成とプレゼンテーションソフトによるスライド作成の演習を行う。		
授業の目的と到達目標	「情報処理 I・II」は情報処理と情報伝達の実践的なスキルと能力の獲得を目的としている。 到達目標は、下記の通りである。 ① コンピュータネットワークの概念を具体的に説明できる ② インターネットを利用するうえで重要なセキュリティに留意できる ③ 指示に従い、ビジネス文書の雛形や既存文書を用いて、正確かつ迅速にビジネス文書を作成することができる ④ 指示に従い、プレゼン資料の雛形や既存の資料を用いて、正確かつ迅速にプレゼン資料を作成することができる		
学習演題 (予習・復習)	自作テキストをLMSで提示するので、各自で予習を行うこと。また、授業内での演習に即した復習課題を課す。		
テキスト 参考文献	自作テキスト		
成績評価の方法と基準	適宜課せられる実習課題、実技試験、出席率を考慮して総合的に評価する。総合点の算出は次の式に従う： $\text{総合点} = \text{実習課題 (30\%)} + \text{ワード実技試験 (40\%)} + \text{パワーポイント課題 (30\%)}$		
ディプロマとの関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	授業内容説明、パソコンとネットワークの基本操作の確認	浜正樹
	2	ワープロソフトの基本操作、文章の入力と変換、特殊文字の入力、各種エディタの習得	浜正樹
	3	情報倫理と自己防衛、デジタルシチズンシップ	浜正樹
	4	ワード:、練習と課題、文書の印刷	浜正樹
	5	電子メールのビジネスリテラシー、CMSによるWeb作成	浜正樹
	6	ワード: ページ設定と入力練習、書式と編集機能	浜正樹
	7	ワード: ビジネス文書	浜正樹
	8	ワード: 表を含んだ文書	浜正樹
	9	ワード: 図を含んだ文書	浜正樹
	10	ワード: ビジネス文書作成演習	浜正樹
	11	ワード: 実技試験	浜正樹
	12	プレゼンテーション概論、著作権	浜正樹
	13	パワーポイント: スライドの作成の基本、画像の活用	浜正樹
	14	パワーポイント: アニメーション、マルチメディアの活用	浜正樹
	15	パワーポイント: オンラインプレゼンテーション	浜正樹

科目名	情報処理Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	浜正樹
科目担当者	浜正樹		
授業概要	「情報処理Ⅰ」に引き続き、現代の情報化社会に必要な情報リテラシーとして、表計算ソフトの活用を学ぶ。一般的なビジネス目的の表やグラフ作成スキルを身に着ける。更に、データドリブン社会への対応のために、基本統計量を中心に扱う演習も行い、経営や医療情報処理の基礎能力を培う。		
授業の目的と到達目標	「情報処理Ⅰ・Ⅱ」は情報処理と情報伝達の実践的なスキルと能力の獲得を目的としている。 到達目標は、下記の通りである。 ① Microsoft®Excel®を用いた基本的な操作スキルを有し、企業実務に対応するために、指示に従い正確かつ迅速に表を作成し、並べ替え、計算、グラフ作成等を行うことができる ② データサイエンスの初歩スキルを理解できる ③ インターネットを利用するうえで重要なセキュリティに留意できる		
学習演題 (予習・復習)	自作テキストをLMSで提示するので、各自で予習を行うこと。また、授業内での演習に即した復習課題を課す。		
テキスト 参考文献	自作テキスト		
成績評価の方法と基準	適宜課せられる実習課題、実技試験、キータッチ2000テスト、出席率を考慮して総合的に評価する。総合点の算出は次の式に従う： 総合点 = 実習課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
ディプロマとの関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	授業内容説明、エクセルの基本操作、表作成の復習	浜正樹
	2	エクセル: 作表演習	浜正樹
	3	エクセル: 関数の利用 (関数の利用、表示形式、その他の関数)	浜正樹
	4	エクセル: 関数の利用 (その他の関数)	浜正樹
	5	エクセル: データベース	浜正樹
	6	エクセル: 振り返り演習	浜正樹
	7	エクセル: グラフの作成と印刷	浜正樹
	8	エクセル: 様々なグラフ	浜正樹
	9	エクセル: 様々なグラフ2	浜正樹
	10	データサイエンス: データの性質と尺度	浜正樹
	11	データサイエンス: データ分析 (1つのアンケート型データのまとめ方)	浜正樹
	12	データサイエンス: データ分析 (1つの測定値型データのまとめ方)	浜正樹
	13	データサイエンス: データ分析 (2つの測定値型データのまとめ方1)	浜正樹
	14	データサイエンス: データ分析 (2つの測定値型データのまとめ方2)	浜正樹
	15	エクセル・データサイエンス: 実技試験	浜正樹

科目名	情報処理Ⅲ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	藤田邦彦
科目担当者	藤田邦彦		
授業概要	本授業では、数多ある「人工知能に関する工学的基礎概念」の中から、特に重要なトピックである「探索・論理と推論・機械学習・自然言語処理」を取り上げ、該当する課題が与えられた場合の解決力の習得を目指す。また、「認知科学」や「哲学的論考」についても取り上げ、人工知能に対するより深い理解と幅広い知識の習得を目論む。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 人工知能に関する工学的基礎概念とその方法論の習得を目指す。また、認知科学の話題や、計算機による知能の実現についての哲学的論考についても紹介し、人工知能に対するより深い理解と幅広い知識の習得を目論む。 【到達目標】 本授業では、数多ある「人工知能に関する工学的基礎概念」の中から、特に重要なトピックである「探索・論理と推論・機械学習・自然言語処理」を取り上げ、該当する課題が与えられた場合の解決力の習得を目指す。「認知科学」や「哲学的論考」については、講義を通じて受講者が自分の意見を持てるようになることを目標とする。		
学習演題 (予習・復習)	予習として、事前に講義資料について熟読してくること（80分程度）。 復習として、授業内で触れた内容について、キーワードおよび事例を整理してまとめておくこと（80分程度）。		
テキスト 参考文献	谷口忠大著：イラストで学ぶ 人工知能概論 改訂第2版、講談社		
成績評価の方法と基準	※以下は予定であり、状況に応じ変更し、授業内で告知する。 レポートを最重視する。小テスト、小レポートは必要に応じて実施する。 配点は次の通り。 ・ レポート（50%） ・ 小テスト、小レポート（20%） ・ 授業への参加度（30%）		
ディプロマとの関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	人工知能の概念(定義、歴史、最近のトピック)を学修する。	藤田邦彦
	2	第一次人工知能ブームの際の中心的な技術である「探索」について、基礎的な技法を学修する。	藤田邦彦
	3	第一次人工知能ブームの際の中心的な技術である「探索」について、発展的な技法を学修する。	藤田邦彦
	4	動的計画法について学修する。	藤田邦彦
	5	確率モデルについて学修する。	藤田邦彦
	6	強化学習について学修する。	藤田邦彦
	7	状態推定について学修する。	藤田邦彦
	8	学習と認識(1) クラスタリングと教師なし学習について学修する。	藤田邦彦
	9	学習と認識(2) パターン認識と教師あり学習について学修する。	藤田邦彦
	10	学習と認識(3) ニューラルネットワークについて学修する。	藤田邦彦
	11	言語と論理(1) 自然言語処理について学修する。	藤田邦彦
	12	言語と論理(2) 記号論理について学修する。	藤田邦彦
	13	言語と論理(3) 証明と質問応答について学修する。	藤田邦彦
	14	認知科学(人間の知的活動の解明の試み)について学修する。	藤田邦彦
	15	授業の振り返りを行う。	藤田邦彦

科目名	情報処理Ⅳ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	藤田邦彦
科目担当者	藤田邦彦		
授業概要	インターネットが企業活動において不可欠になった現在、情報セキュリティの脅威への対処は重要な課題である。セキュリティマネジメント学は、経済学や法学、行動科学など様々な分野と情報セキュリティが融合する学際的な分野である。本授業ではセキュリティマネジメントに関する理論と実例を修得することを目指す。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 セキュリティマネジメント学は経済学や法学、行動科学など様々な分野と情報セキュリティが融合する学際的な分野である。本授業ではセキュリティマネジメントに関する理論と実例を習得することを目指す。 【到達目標】 脅威を意識して何らかの行為を行うとき、セキュリティマネジメントを経験していることになる。このように身近なセキュリティマネジメントについて、該当する課題が与えられた場合の解決力の習得を目指す。		
学習演題 (予習・復習)	予習として、事前に教科書の該当箇所を熟読してくること（80分程度）。復習として、授業内で触れた内容について、キーワードおよび事例を整理してまとめておくこと（80分程度）。		
テキスト 参考文献	松浦幹太著「情報セキュリティ基礎講義」コロナ社		
成績評価の方法と基準	※以下は予定であり、状況に応じ変更し、授業内で告知する。 レポートを最重視する。授業への貢献度（議論への参加等）、小テスト、小レポートは必要に応じて勘案する。 配点は次の通り。 ・ レポート（50 %） ・ 小テスト、小レポート（20 %） ・ 授業への参加度（30%）		
ディプロマとの関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	情報セキュリティの基本(1)	藤田邦彦
	2	情報セキュリティの基本(2)	藤田邦彦
	3	暗号(1)	藤田邦彦
	4	暗号(2)	藤田邦彦
	5	暗号(3)	藤田邦彦
	6	暗号(4)	藤田邦彦
	7	ネットワークセキュリティ(1)	藤田邦彦
	8	ネットワークセキュリティ(2)	藤田邦彦
	9	ネットワークセキュリティ(3)	藤田邦彦
	10	コンピュータセキュリティ(1)	藤田邦彦
	11	コンピュータセキュリティ(2)	藤田邦彦
	12	応用例と社会(1)	藤田邦彦
	13	応用例と社会(2)	藤田邦彦
	14	応用例と社会(3)	藤田邦彦
	15	まとめ	藤田邦彦

科目名	D X (I C T) 基礎		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	高柳寛樹
科目担当者	高柳寛樹		
授業概要	組織や企業のDX (digital transformation) の2つの経済的効果 (売上向上／効率化によるコスト低減) の意味を理解した上で、組織や企業のDXを実践するための要素であるITシステム、IT人材、IT組織、IT法務、IT内部統制について整理理解する。その上で担当者が提唱する「IT前提経営」の6大要素 (①デジタルネイティブ理解②モビリティ向上③働き方の効率化④クラウドサービスの適切な導入⑤AI*BigData*IoT⑥デジタルマーケティングの適切な運用) の概念を使い、多くのケースやストーリーを参照しながら議論をしていく。また基礎科目であるため、ICTに関する基礎的な概念、用語、歴史の修得も同時に行う。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、現在、「DX (digital transformation) 」と呼ばれている現象が一体何なのか、その根本となるICT (Information Communication Technology) 技術の用語を含む概念と歴史を正確に理解した上で、多くのケースを参照することで、実践におけるICTの導入による組織、企業のDX実現をイメージできるようになることである。加えてICTが経営に活用されるようになってから急激に起こった社会のソフトシフト化とそれに伴ったビジネスモデルの変化も理解する。		
学習演題 (予習・復習)	前半は、基礎的な知識を理解し習得する講義形式の授業になるが次回の授業までに簡単なリアクションペーパーの提出を求め、次の授業ではそれぞれのリアクションを元に解説・議論を行う。後半は、前半で習得した知識を用いて、学生それぞれの興味の分野での発表を伴うディスカッションを行う。		
テキスト参考文献	①高柳寛樹／著『IT前提経営が組織を変える～デジタルネイティブと共に働く～』近代科学社digital (2020) ②高柳寛樹／共著『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX未完了社会の病理～』ハーベスト社 (2022)		
成績評価の方法と基準	リアクションペーパーの提出状況 (40%) とリアクションペーパーを基にした議論への参加度と発表 (60%)		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション／担当者自己(経歴)紹介／受講者紹介	高柳寛樹
	2	情報産業とは何か(概論)	高柳寛樹
	3	インターネットの歴史(概論)	高柳寛樹
	4	現代におけるDX(digital transformation)とは何か(概論)	高柳寛樹
	5	ソフトシフト化したビジネスモデルの理解(基礎)	高柳寛樹
	6	「IT前提経営」の6大要素の理解(概論:「デジタルネイティブ理解」「働き方の最適化」)①	高柳寛樹
	7	「IT前提経営」の6大要素の理解(概論:「モビリティの向上」「クラウドサービスの適切な導入」)②	高柳寛樹
	8	「IT前提経営」の6大要素の理解(概論:「IoT*ビッグデータ*AI」「デジタルマーケティングの適切な運用」)③	高柳寛樹
	9	「IT前提経営」の6大要素の理解(発表)①	高柳寛樹
	10	「IT前提経営」の6大要素の理解(発表)②	高柳寛樹
	11	「IT前提経営」の6大要素の理解(発表)③	高柳寛樹
	12	個人またはグループによる発表とディスカッション①	高柳寛樹
	13	個人またはグループによる発表とディスカッション②	高柳寛樹
	14	個人またはグループによる発表とディスカッション③	高柳寛樹
	15	総括とディスカッション	高柳寛樹

科目名	D X応用		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	高柳寛樹
科目担当者	高柳寛樹		
授業概要	主に「DX (ICT) 基礎」の履修者（又は同等程度に理解が及んでいる者）を対象にした応用科目である。事業を行う組織がDX (digital transformation) をする際に (1) どのようなICTを利用し (2) それをどのように組織に実装することで (3) 何が実現できるかについて、具体的なケースを使って説明し理解を促してしていく。特に「IT前提経営」の6大要素の内の「IoT (モノのインターネット) *ビックデータ*AI (人工知能)」については時間を割き、「デジタルツイン時代の現場オペレーション」について考える。またWeb3に代表されるような「デジタル文化」についても学び、デジタル文化の理解なくしてDXの成功がないことを失敗事例から理解し、DXによる「働き方改革」を伴う医療福祉事業における課題をディスカッションしていく。		
授業の目的と到達目標	企業組織におけるDXの3大要素 (①データに基づく科学的経営 ②文化の更新 ③人事施策) を理解した上で、ICTの利活用が十分にできていない組織、または、ICTの利活用は一定程度出来ているが「文化の更新」が上手くいかずDXが未完了の組織を、いかに次のフェーズ (「攻めのDX」フェーズ) に誘うかを実践的に議論することで、最終的には所属する組織において実行可能なDX施策を作ることを目的とする。加えて、所属する組織のDX完了によるビジネスモデルの変化についても具体的に議論できるようになることも目的とする。		
学習演題 (予習・復習)	前半は、基礎的な概念を理解し習得する講義形式の授業になるが次回の授業までに簡単なリアクションペーパーの提出を求め、次の授業ではそれぞれのリアクションを元に解説・議論を行う。後半は、前半で習得した知識を用いて、学生それぞれの興味の分野での発表を伴うディスカッションを行う。		
テキスト参考文献	①高柳寛樹／著『IT前提経営が組織を変える～デジタルネイティブと共に働く～』近代科学社digital (2020) ②高柳寛樹／共著『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX未完了社会の病理～』ハーベスト社 (2022)		
成績評価の方法と基準	リアクションペーパーの提出状況 (40%) とリアクションペーパーを基にした議論への参加度と発表 (60%)		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション／担当者自己(経歴)紹介／受講者紹介	高柳寛樹
	2	現代におけるDX(digital transformation)の共通理解の構築	高柳寛樹
	3	ソフトシフト化したビジネスモデル及びマルチキャッシュポイント化の理解	高柳寛樹
	4	「IT前提経営」の6大要素の理解とIoTを伴うデータドリブン経営の理解	高柳寛樹
	5	医療福祉領域におけるIoT利用またはデータドリブン経営事例検討	高柳寛樹
	6	なぜ日本ではDXが遅れるのか。「2025年の崖」問題の背景の理解と対策(クラウド・バイ・デフォルト原則の意味)	高柳寛樹
	7	クラウド時代の「Fit to Standard」の理解と実践事例(No Making, Just Using.)	高柳寛樹
	8	「IT人材」とは何か。事業会社(組織)での確保の方法と「情シス」組織構築の意味(外注主義、内製主義の理解)	高柳寛樹
	9	これまでの共通理解を利用して履修者の現場(または興味)の課題を抽出して発表とディスカッションを行う①	高柳寛樹
	10	これまでの共通理解を利用して履修者の現場(または興味)の課題を抽出して発表とディスカッションを行う②	高柳寛樹
	11	これまでの共通理解を利用して履修者の現場(または興味)の課題を抽出して発表とディスカッションを行う③	高柳寛樹
	12	DX完了を仮の目途とした履修者の現場(または興味)の課題を解決するために必要なICT技術を選定し実践プランを検討する①	高柳寛樹
	13	DX完了を仮の目途とした履修者の現場(または興味)の課題を解決するために必要なICT技術を選定し実践プランを検討する②	高柳寛樹
	14	DX完了を仮の目途とした履修者の現場(または興味)の課題を解決するために必要なICT技術を選定し実践プランを検討する③	高柳寛樹
	15	総括とディスカッション	高柳寛樹

科目名	コンテンツ・プロデュース		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	公野勉
科目担当者	公野勉		
授業概要	近年、プレゼンテーションやマーケティングの方法としてコンテンツを活用するケースが増えている。その成り立ちや構造を知る事でより効果的な活用方法を学修する。 特に事業の基幹となるエンターテインメント作品群の実態を解説し、様々なコンテンツのビジネスを含めたケースを習熟、知財ビジネス等の構造力学の理解を促進し、コンテンツの実務能力の獲得を行う。その結果、具体的なコンテンツの立案を可能とするまでのスキルを養う。		
授業の目的と到達目標	実務者講師の立場で“ナマの声”で講義する。 コンテンツを基軸とするエンターテインメント企業の実態をビジネスモデルの観点から解説、様々なコンテンツビジネスの成功例を理解、コンテンツ知財ビジネスの基礎構造を理解した結果、実務能力の獲得をし、具体的なコンテンツビジネスの施作を立案可能とし、さらに知財運用モデルにおける企業組織機能の重要性の認識を目的とする。 到達目標A：コンテンツの著作権——著作財産権と著作人格権との関係性を第三者に説明できるようになる。 到達目標B：各種コンテンツの具体的な著作権構造と、その保全の方法を第三者に説明できるようになる。		
学習演題 (予習・復習)	※必ず予習・復習のこと。 復習(90分程度)：前回に掲示される当該著作物・商品・コンテンツの確認を行う事 予習(90分程度)： ①課題として予想されるエンターテインメントビジネスの収益構造・B/S状態・市場サイズを推定しておく ②課題として予想されるエンターテインメントビジネスに対する疑問点を整理し、質問準備をしておく		
テキスト 参考文献	『コンテンツ製造論』 出版社：風塵社 ISBN-10: 4776300656 ISBN-13: 978-4776300656		
成績評価の方法と基準	到達目標A、Bそれぞれについて「積極的な授業参加度80%」「課題得点20%」として測る。		
ディプロマとの 関連性	□マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	講義説明／講義計画説明	公野勉
	2	コンテンツ産業概観①映画産業概論	公野勉
	3	コンテンツ産業概観②アニメーション産業概論	公野勉
	4	コンテンツ産業概観③玩具産業概論	公野勉
	5	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例①SNS	公野勉
	6	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例②特撮	公野勉
	7	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例③雑誌・出版社	公野勉
	8	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例④テレビ局	公野勉
	9	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例⑤アニメーション会社	公野勉
	10	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例⑥キッズ	公野勉
	11	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例⑦同人	公野勉
	12	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例⑧腐女子	公野勉
	13	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例⑨アニメライブ	公野勉
	14	クリエイティヴ実態／コンテンツメディア例⑩実鑑賞	公野勉
	15	各論⑭「将来の知財法理の構築案。ビジネスとクリエイティヴ」	公野勉

科目名	コンテンツ・知的財産論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	公野勉
科目担当者	公野勉		
授業概要	「コンテンツ・プロデュース」の発展としてコンテンツを製造・提供する企業側の経営モデルや、知的財産権上のメソッド群に対して実際のケースの検証を行う。特にトレンドのコンテンツの法理・道徳的諸問題を解説し、予算や知的財産権、スタッフィングなどの人材マネジメント等、様々な角度からの検討を行う。その結果、特にコンテンツにおける知財プロテクションの基礎構造を把握し、実際の知財リテラシーの獲得を目論む。具体的なコンテンツの予算編成を含めた製造の計画までを目的とする。		
授業の目的と到達目標	実務者講師として“ナマの声”で講義する。 コンテンツが基軸のエンターテインメント企業の実態をビジネスモデルの観点から解説し、様々なコンテンツビジネスの成功例と、コンテンツ知財の基礎構造を理解した結果、実務能力の獲得をし、具体的なコンテンツビジネスの施作を立案可能とし、さらに知財運用モデルにおける企業組織機能の重要性の認識を目的とする。 到達目標A：コンテンツの著作権——著作財産権と著作人格権との関係性を第三者に説明できるようになる。 到達目標B：各種コンテンツの具体的な著作権構造と、その保全の方法を第三者に説明できるようになる。 (講師は、映画会社日活で製作・配給の元取締役、タツノコプロの元取締役)。		
学習演題 (予習・復習)	※必ず予習・復習のこと。 復習(90分程度)：前回に掲示される当該著作物・商品・コンテンツの確認を行う事 予習(90分程度)： ①課題として予想されるエンターテインメントビジネスの収益構造・B/S状態・市場サイズを推定しておく ②課題として予想されるエンターテインメントビジネスに対する疑問点を整理し、質問準備をしておく		
テキスト 参考文献	『コンテンツ製造論』 出版社：風塵社 ISBN-10: 4776300656 ISBN-13: 978-4776300656		
成績評価の方法と基準	到達目標A、Bそれぞれについて「積極的な授業参加度80%」「課題得点20%」として測る。		
ディプロマとの関連性	□ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業 の 展 開	回	概要	担当
	1	講義説明／講義計画説明	公野勉
	2	ビジネスモデル検証／①東映	公野勉
	3	ビジネスモデル検証／③東宝	公野勉
	4	ビジネスモデル検証／④円谷プロダクション	公野勉
	5	ビジネスモデル検証／⑤サンライズ	公野勉
	6	ビジネスモデル検証／⑥バンダイ	公野勉
	7	ビジネスモデル検証／⑦タツノコプロ	公野勉
	8	ビジネスモデル検証／映像⑧タカラトミー	公野勉
	9	ビジネスモデル検証／映像⑨角川書店	公野勉
	10	ビジネスモデル検証／映像⑩小学館集英社プロダクション	公野勉
	11	ビジネスモデル検証／映像⑪講談社	公野勉
	12	ビジネスモデル検証／映像⑫動画配信企業	公野勉
	13	ビジネスモデル検証／総括①	公野勉
	14	ビジネスモデル検証／総括②	公野勉
	15	ビジネスモデル検証／総括③	公野勉

科目名	異文化マネジメント		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	能間寛子
科目担当者	能間寛子		
授業概要	本科目は、異文化マネジメントの視点を用いて文化的に多様な場面での課題や問題を理解することを目的とする。授業では、事例等を取り入れ、異文化マネジメントの学際的アプローチを用いて議論する。本科目を通して、学生が、異文化マネジメントの基礎的なモデルや理論を理解し、事例を考察できるようになること、また、文化やアイデンティティに関する問題を異文化マネジメントの視点から考察できるようになることを目指す。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 本科目では、異文化マネジメントの視点を用いて現代の課題や問題を考察することを目的とする。異文化マネジメントの学際的アプローチを理解し、事例を考察することができるようになることを目指す。 【到達目標】 学生が以下に挙げる内容を達成することを目標とする。 ・日本文化、アイデンティティに関する問題を異文化マネジメントの理論やアプローチを使って考察することができる。 ・異文化マネジメントの視点から現代社会の文化とコミュニケーション上の課題を議論することができる。 ・文化的多様性を理解し、異文化マネジメントの視点を用いて考察することができる。		
学習演題 (予習・復習)	予習：配布された資料をよく読み、要点や分からない点を整理すること。 提示されたキーワードについて調べておくこと。 復習：授業内でのディスカッションを振り返って、要点を整理し、自分の考えを中心にまとめておくこと。		
テキスト 参考文献	教科書は指定しないが、事前に資料等を配布し、使用する。参考資料は適宜紹介する。		
成績評価の方法と基準	授業への貢献（ディスカッションへの参加貢献）40%、中間課題30%、期末課題30%。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション	能間寛子
	2	アイデンティティとカルチャーショック①	能間寛子
	3	アイデンティティとカルチャーショック②	能間寛子
	4	アイデンティティとカルチャーショック③	能間寛子
	5	異文化コミュニケーションと日本文化①	能間寛子
	6	異文化コミュニケーションと日本文化②	能間寛子
	7	異文化コミュニケーションと日本文化③	能間寛子
	8	まとめ①	能間寛子
	9	文化的多様性とコンフリクト①	能間寛子
	10	文化的多様性とコンフリクト②	能間寛子
	11	文化的多様性とコンフリクト③	能間寛子
	12	異文化マネジメント(事例と考察)①	能間寛子
	13	異文化マネジメント(事例と考察)②	能間寛子
	14	異文化マネジメント(事例と考察)③	能間寛子
	15	まとめ②	能間寛子

科目名	異文化コミュニケーション		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	能間寛子
科目担当者	能間寛子		
授業概要	本科目は、異文化コミュニケーション及びその学術的アプローチについて学ぶ。授業では、事例等を用いて、異文化コミュニケーション上の課題を議論し、分析する。 本科目は、学生が、コミュニケーションの基礎的な理論やモデル及び文化的価値観を理解し、それらの視点やアプローチを用いて、異文化コミュニケーション上の課題や問題を考察できるようになることを目指す。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 異文化コミュニケーションの基礎概念、理論を理解することを目的とする。また、それらの知識を用いて事例を考察したり、実際の事例に応用したりできるようになることを目指す。 【到達目標】 学生が以下に挙げる内容を達成することを目標とする。 ・ 文化的価値観、コミュニケーション理論、非言語コミュニケーションに関する論文を読み、理解することができる。 ・ 異文化コミュニケーションの諸理論を理解し、それらを使って身の回りの事象を議論できるようになる。		
学習演題 (予習・復習)	予習：配布された資料をよく読み、要点や分からない点を整理すること。提示されたキーワードについて調べておくこと。 復習：授業内でのディスカッションを振り返って、要点を整理し、自分の考えを中心にまとめておくこと。		
テキスト 参考文献	教科書は指定しないが、事前に資料等を配布し、使用する。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法と基準	授業への貢献（ディスカッションへの参加貢献）40%、中間課題30%、期末課題30%。		
ディプロマとの関連性	□ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション:異文化コミュニケーションの定義	能間寛子
	2	異文化コミュニケーションの学術的発展①	能間寛子
	3	異文化コミュニケーションの学術的発展②	能間寛子
	4	文化と異文化の定義	能間寛子
	5	文化的価値観①	能間寛子
	6	文化的価値観②	能間寛子
	7	文化的価値観③	能間寛子
	8	まとめ①	能間寛子
	9	コミュニケーションの理論①	能間寛子
	10	コミュニケーションの理論②	能間寛子
	11	コミュニケーションの理論③	能間寛子
	12	言語・文化・コミュニケーション①	能間寛子
	13	言語・文化・コミュニケーション②	能間寛子
	14	言語・文化・コミュニケーション③	能間寛子
	15	まとめ②	能間寛子

科目名	グローバルビジネスと法		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	金彦叔
科目担当者	金彦叔		
授業概要	グローバルなビジネス展開における法的リスクや課題について考察する。グローバルなビジネス展開の類型を、モノ、サービス、情報（知的財産）、資本に分けて分析し、法的な側面からそれぞれのビジネスの特徴と課題を見つける。ビジネス法の基礎的な知識を習得したうえで、貿易実務、英文契約書の作成、ライセンス契約、企業の海外展開、国際商事紛争の解決メカニズムについて研究する。併せて、テクノロジーの発達に伴うビジネスの変化についても学習する。		
授業の目的と到達目標	本授業の目的は、医療福祉にかかわるビジネスのグローバル展開を視野に入れつつ、ビジネスのグローバル展開において生じ得る法的リスクや課題について学ぶことによって、法的な側面からのリスクマネジメント能力を身に着けることである。到達目標としては、①グローバルな観点からビジネス法の基礎知識を習得し、②グローバルなビジネス展開の法的リスクや課題がビジネスの類型別に理解できること、また、③テクノロジーの発達により登場した新しいビジネスの法的課題について理解し、④国際なビジネス紛争の解決メカニズムが理解できることである。		
学習演題（予習・復習）	予習としては、各回のシラバスを確認し、参考文献の該当部分を熟知するとともに、授業で出された予習課題を行う。復習としては、授業で出された復習課題を行うとともに、授業で修得した新しい知見をまとめる。		
テキスト参考文献	テキストはない。参考文献については、授業中に提示する。		
成績評価の方法と基準	授業への参加と発言（40%）、期末レポート（60%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション、グローバル的なビジネス展開の全体像	金彦叔
	2	グローバルなビジネス展開の類型的分析とリスク管理①—モノ・サービス①	金彦叔
	3	グローバルなビジネス展開の類型的分析とリスク管理②—モノ・サービス②	金彦叔
	4	グローバルなビジネス展開の類型的分析とリスク管理③—情報(知的財産)①	金彦叔
	5	グローバルなビジネス展開の類型的分析とリスク管理④—情報(知的財産)②	金彦叔
	6	グローバルなビジネス展開の類型的分析とリスク管理⑤—資本①	金彦叔
	7	グローバルなビジネス展開の類型的分析とリスク管理⑥—資本②	金彦叔
	8	国際契約の基礎と英文契約書①	金彦叔
	9	国際契約の基礎と英文契約書②	金彦叔
	10	グローバルなビジネス展開に適用される法	金彦叔
	11	テクノロジーの発達と新しいビジネスの法的課題①	金彦叔
	12	テクノロジーの発達と新しいビジネスの法的課題②	金彦叔
	13	紛争解決のメカニズム①	金彦叔
	14	紛争解決のメカニズム②	金彦叔
	15	授業のまとめ	金彦叔

科目名	外国人と法		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
基礎科目・2単位	1年次・2年次	選択	金彦叔
科目担当者	金彦叔		
授業概要	日本で就労している外国人、または外国人を雇用している実務家が知っておくべき法律問題として、本授業では、外国人の在留資格、入管難民法、国籍の問題、外国人が関わる渉外事案（たとえば、契約、不法行為、労働事件、その他の渉外民事家事事件）等を取り上げ、日本における外国人をめぐる様々な法的問題について考察する。本授業では、比較法的な観点から日本の外国人をめぐる法政策を検討し、課題について議論する。		
授業の目的と到達目標	本授業の目的は、日本で就労している外国人、または外国人を雇用している実務家が外国人をめぐる法的問題や課題を理解することで、グローバルな環境で働く又は事業を行う上で、互いの理解を深めることにある。到達目標としては、①日本における外国人関連法規についてグローバルな観点から理解ができる。②事例分析ができる。③問題を発見し課題の提示ができる。		
学習演題 (予習・復習)	予習としては、各回のシラバスを確認し、参考文献の該当部分を熟知するとともに、授業で出された予習課題を行う。復習としては、授業で出された復習課題を行うとともに、授業で修得した新しい知見をまとめておく。		
テキスト 参考文献	テキストはない。参考文献については、授業中に提示する。		
成績評価の方法と基準	授業への参加と発言（20％）、グループ・プレゼンテーション（30％）、期末レポート（50％）		
ディプロマとの関連性	☐ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ☐ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ☒ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ☐ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション、日本における外国人労働者の現況	金彦叔
	2	外国人の在留資格/入管難民法①	金彦叔
	3	外国人の在留資格/入管難民法②	金彦叔
	4	外国人の権利①	金彦叔
	5	外国人の権利②	金彦叔
	6	国籍の問題①	金彦叔
	7	国籍の問題②	金彦叔
	8	涉外事案①—労働事件	金彦叔
	9	涉外事案②—不法行為	金彦叔
	10	涉外事案③—契約	金彦叔
	11	涉外事案④—国際結婚・離婚・相続	金彦叔
	12	グループ・プレゼンテーション&ディスカッション①	金彦叔
	13	グループ・プレゼンテーション&ディスカッション②	金彦叔
	14	グループ・プレゼンテーション&ディスカッション③	金彦叔
	15	授業のまとめ	金彦叔

科目名	ヘルスケア経営学		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
科目・2単位	1年次・2年次	選択	松下博宣
科目担当者	松下博宣		
授業概要	ヘルスケア（保健・医療・福祉サービス）のマネジメントは、①ステークホルダー（患者、従業員、地域社会、取引先など）のウェル・ビーイング実現を主眼とする、②ヘルスケアという特殊なサービス財を対象とする、③ヘルスケアという準公共財を対象とする、④資本市場へのアクセスが制限されている、⑤医療政策、診療報酬制度等により経営資源の配分が誘導される等、競争的市場のもと一般産業用に開発されてきた伝統的な経営手法とは性格を異にする。医療サービスの価値は、生命、生活、人生などを含む探索的価値もあれば、良質な医療、安全な医療、効率を含める追求的价值もある。また、現在の医療サービスは、多職種連携によりヘルスケア関連の技術的新機軸を活用するという側面が強く、マネジメントの対象としてイノベーションの重要性が高まっている。本授業は、このような動向を押さえ、通常の医療管理学、先端的なサービス科学（Service Science）、ビジネス・モデリング論等の新旧におよぶ知見を踏まえて進めてゆく。本授業は各回ごとにキー・クエスチョンを学生と教員とが共有し、議論を深める。一方通行のコンテンツ依存型の授業ではなく、対話によるディスカッションを重視して知識創造の場としての授業を進化・深化させてゆく。		
授業の目的と到達目標	【目的】急速に変貌しているヘルスケア経営の実態をサービス科学、イノベーション創発の視点から理解する。 【到達目標】 ①患者・住民中心の地域包括ケアシステムにおけるヘルスケア経営の多様性、実態を理解する。 ②変化するヘルスケア経営をイノベーション等の視点から理解し、自分の考え方を表明できるようになる。 ③ヘルスケアイノベーション生態系における自分の立ち位置を明確化する。 ④ヘルスケア経営の国際的な動向、日本国内の動向について説明できる。		
学習演題（予習・復習）	・授業各回ごとにキー・クエスチョンを共有し、リーディング・アサインメントをもとに、グループディスカッションをおこなう。 ・各自の経験や本授業での検討事項を踏まえて、ヘルスケア経営に関する課題についてレポートを作成し発表する。		
テキスト参考文献	松下博宣（2022）. 多職種連携を推進するコラボレーション大全. 日総研出版. 各回のテーマに関連する論文、書籍等を都度指定する。		
成績評価の方法と基準	クラス・パーティシペーション（ディスカッションへの参加）（20%）、中間テスト（20%）、最終レポート（60%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	なぜヘルスケア経営学を学ぶのか？人口構造と寿命の変化は日本全体、個人にどのような影響を及ぼしているのか？長寿ボーナスの概念を理解する。	松下博宣
	2	ヘルスケアサービスの特質は何なのか？サービス科学(service science)の知見からサービスの文脈価値、使用価値、価値共創(value co-creation)性を考える。	松下博宣
	3	ケアシフトとはなんなのか？ケアシフトがもたらす大変化を、グローバル社会、日本社会、組織、個人の視点から考究する。	松下博宣
	4	ヘルスケア・サービス・イノベーション生態系とは？自分の居場所を探索して位置づける。個々のヘルスケア(保健・医療・福祉サービス)組織のポジショニング戦略を比較考量する。	松下博宣
	5	マーケティング戦略と顧客(≡患者)創造の功罪とは？新古典派経済学の枠組みでヘルスケアを整合的に説明できるのか？供給が需要を創造する医療サービスの特殊性を考える。	松下博宣
	6	グローバルなヘルスケア複合体の経営戦略とはなにか？資本調達、間接金融、直接金融の実態。取引コスト(transaction cost)と顧客囲い込み。IHN(統合ヘルスネットワーク)によって「統合」される保健・医療・福祉サービスの利害得失。	松下博宣
	7	日本国内のヘルスケア複合体の経営戦略とはなにか？IHN(統合ヘルスネットワーク)によって買収される保健・医療・福祉サービス事業者の実態。	松下博宣
	8	OECD加盟国のヘルスケアと日本のヘルスケアはどのように異なるのか？コロナ禍で明らかになった日本の医療政策の誘導性、ヘルスケアの特性を考究する。	松下博宣
	9	ヘルスケア現場で展開されている多職種連携の実態とはなんなのか？診療報酬制後におけるチーム医療加算と現場の乖離。	松下博宣
	10	主観的幸福感とは、どのようにヘルスケア経営や多職種連携に影響するのか？A病院の事例検討をして、組織行動変容のためのニュー・ヘルスケア・マネジメント体系を導く。	松下博宣
	11	MACEサイクルとはなにか？多職種連携とチーム医療を活性化するためのファクターを検討する。	松下博宣
	12	医療機関における主観的幸福感、組織学習、多職種連携、職場のソーシャル・キャピタルの関係とは？新しい組織行動理論の地平を拓く。	松下博宣
	13	ヘルスケア事業体の事業戦略、組織行動戦略、報酬戦略とはなにか？旧時代の政策誘導と各種戦略のありかた。経営における「自由度」の旧時代と新時代の比較考量。	松下博宣
	14	参加学生によるレポート概要発表。	松下博宣
	15	本授業全体をレビューして、俯瞰してインプリケーションをまとめる。	松下博宣

科目名	医療・介護ビジネス論 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	田中道昭
科目担当者	田中道昭		
授業概要	大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。PEST分析、5F分析、SWOT分析、3C分析、STP分析等の基礎的なフレームワークを学び、これを医療・介護ビジネスに活用する。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用できるようにすることに設定し、ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・メディカルビジネスに応用していく。到達目標としては、PEST分析、5F分析、3W1H、SWOT分析、3C分析、STP分析等のフレームワークを医療・メディカルビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになること、シンプルなケースからスタートして最後には実際の病院・企業のケースも解けるようになること、自分でも課題設定し同課題を自分でも解決できるようになることに設定する。		
学習演題 (予習・復習)	各回事前課題に予習として取り組み書面で提出、同題材を授業内での発表やクラスディスカッションに活用。授業において各テーマの理論と実践を学び、ケーススタディにも取り組んだ上で最終回には自分で課題設定した最終プロジェクトに取り組み、発表、ディスカッション、評価等を行っていく。各回完全に双方向の授業運営を実施する。		
テキスト 参考文献	テキストには各回クラスノートやリーディング課題等を配布。参考文献としては各回の事前課題として提示していく。		
成績評価の方法と基準	事前課題への評価（20％）、授業内での発表（20％）、授業内でのディスカッション（20％）、最終プロジェクト（40％）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	医療・メディカル業界の概観	田中道昭
	2	医療・メディカル業界の業界構造分析	田中道昭
	3	医療・メディカル分野でのリーダーシップの理論と実践	田中道昭
	4	同上のケーススタディ	田中道昭
	5	医療・メディカル分野での病院・企業の経営戦略	田中道昭
	6	同上のケーススタディ	田中道昭
	7	医療・メディカル分野でのテクノロジーやDX	田中道昭
	8	同上のケーススタディ	田中道昭
	9	医療・メディカル分野でのセルフリーダーシップとセルフブランディング	田中道昭
	10	同上のケーススタディ	田中道昭
	11	医療・メディカル分野での定量分析やデータ分析	田中道昭
	12	同上のケーススタディ	田中道昭
	13	各自の課題設定による最終プロジェクトの検討	田中道昭
	14	最終プロジェクトの発表	田中道昭
	15	最終プロジェクトの評価と課題	田中道昭

科目名	医療・介護ビジネス論Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	田中道昭
科目担当者	田中道昭		
授業概要	大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。IIでは、特に介護・ヘルスケアビジネスを対象とする。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。Iで学修したPEST分析、5F分析、SWOT分析、3C分析、STP分析等のフレームワークの医療・介護ビジネスへの応用をさらに発展させ、より実践的レベルの分析と各自の課題解決に取り組む。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用できるようにすることに設定し、ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・メディカルビジネスに応用していく。到達目標としては、PEST分析、5F分析、3W1H、SWOT分析、3C分析、STP分析等のフレームワークを介護・ヘルスケアビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになること、シンプルなケースからスタートして最後には実際の企業のケースも解けるようになること、自分でも課題設定し同課題を自分でも解決できるようになることに設定する。		
学習演題 (予習・復習)	各回事前課題に予習として取り組み書面で提出、同題材を授業内での発表やクラスディスカッションに活用。授業において各テーマの理論と実践を学び、ケーススタディにも取り組んだ上で最終回には自分で課題設定した最終プロジェクトに取り組み、発表、ディスカッション、評価等を行っていく。各回完全に双方向の授業運営を実施する。		
テキスト 参考文献	テキストには各回クラスノートやリーディング課題等を配布。参考文献としては各回の事前課題として提示していく。		
成績評価の方法と基準	事前課題への評価（20％）、授業内での発表（20％）、授業内でのディスカッション（20％）、最終プロジェクト（40％）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	介護・ヘルスケア業界の概観	田中道昭
	2	介護・ヘルスケア業界の業界構造分析	田中道昭
	3	介護・ヘルスケア分野でのリーダーシップの理論と実践	田中道昭
	4	同上のケーススタディ	田中道昭
	5	介護・ヘルスケア分野での企業の経営戦略	田中道昭
	6	同上のケーススタディ	田中道昭
	7	介護・ヘルスケア分野でのテクノロジーやDX	田中道昭
	8	同上のケーススタディ	田中道昭
	9	介護・ヘルスケア分野でのセルフリーダーシップとセルフブランディング	田中道昭
	10	同上のケーススタディ	田中道昭
	11	介護・ヘルスケア分野での定量分析やデータ分析	田中道昭
	12	同上のケーススタディ	田中道昭
	13	各自の課題設定による最終プロジェクトの検討	田中道昭
	14	最終プロジェクトの発表	田中道昭
	15	最終プロジェクトの評価と課題	田中道昭

科目名	ヘルスケアデータサイエンス概論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
科目・2単位	1年次・2年次	選択	松下博宣
科目担当者	松下博宣		
授業概要	本授業では、反転学習とアクティブ・ラーニングを用いてヘルスケア情報学とイノベーションについて洞察を深めてゆく。ヘルスケア（保健・医療・福祉）分野で創発しているイノベーションを情報というダイナミックな視点からとらえてゆく。下記の英文テキストを反転学習モードで日本語に概要を翻訳・発表し、AI、深層学習、ロボティクス、センサー、遠隔医療を含む先端技術が新たな情報を生成し、新たな情報がイノベーションを創発させ、新たなイノベーションが新たな情報を生成している実態を多様な事例を通して学ぶ。また、「データ⇔情報⇔知識⇔知恵の連続線上」で各トピックに迫りデータサイエンス（Data Science）のベースラインを押さえてゆく。以上のような知的作業により、人間のみが生み出すことができる価値とはなんなのかを問う。また、本授業ではアクティブ・ラーニングとして学生によるグループワークを行い、先端的なデータを活用する/創出するイノベーション事例を検討する。情報学に関する前提知識は特に求めず、双方向性に富んだ授業と積極的なディスカッションにより、多くの気づきを共有したい。		
授業の目的と到達目標	【目的】ヘルスケア情報とイノベーションの相互再帰的な性格をAI, 深層学習、データサイエンスの視点から理解する。 【到達目標】 ①データ⇔情報⇔知識⇔知恵の連続線上で創発しているイノベーションの実態を理解する。 ②ヘルスケア情報に関する国際的な動向、日本国内の主要な特徴と動向について説明できる。 ③各自が関与している組織の情報マネジメントについて改善すべき点を指摘して、改善案を提案する。		
学習演題 (予習・復習)	・受講者は分担して、英文テキストを日本語に訳して授業にて共有する。 ・グループ・ワークを行い授業中に成果を発表する。 ・各自の経験や本授業での検討事項を踏まえて、ヘルスケア情報とイノベーションに関するレポートを作成する。		
テキスト 参考文献	Hironobu Matsushita(2020). Health Informatics: Translating Information into Innovation (Translational Systems Sciences, 24), Springer Nature. 授業ごとに関連するトピックのリーディング・アサインメントを指定する。		
成績評価の方法と基準	クラス・パーティシペーション（30%）、リーディング・アサインメントの翻訳と発表（30%）、グループワーク発表（40%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ヘルスケア情報を生み出すイノベーション生態系とはなにか？政策、ヘルスケア経営、ベンチ、ベッドサイド、臨床実践、患者、人口をめぐるイノベーション生態系を俯瞰する。技術革新、サービス、情報の関係を洞察する。p1～	松下博宣
	2	テクネ、エピステーメ、フローネシスとはなにか？技術的知、学術的知、賢慮の関係を洞察し、情報に関する洞察を「場」(shared context-in-motion)理論を用いて深化させる。p5～	松下博宣
	3	遠隔医療・遠隔看護の動向とはなにか？地域包括ケアシステムにおける在宅ケアの場で進化しているオンラインケアの実態を知る。p25～	松下博宣
	4	福祉施設利用者の生活の質を上げるためのITイノベーションとは？高齢者の感情をモニターし、生活の質を上げるためのAIを活用した具体的方策。p37～	松下博宣
	5	ヘルスケア情報の先端ではどのような知見が開拓されているのか？ビッグデータを活用した高齢者のライフコース研究。p59～	松下博宣
	6	リアル世界のデータを活用するヘルスケア・イノベーションとはなにか？先端的看護学の知見を探る。p81～	松下博宣
	7	イノベーションに繋がる価値共創とはなにか？患者、臨床実践、技術を結ぶインフォマティクス動向を共有する。p101～	松下博宣
	8	他職種連携がもたらす情報イノベーションとはなにか？多職種連携教育のカナダの先進的事例研究に関する知見を深める。p127～	松下博宣
	9	産学官を橋渡しする学際研究の最前線の実態は？知財の市場化、商業化の機微を知る。p139～	松下博宣
	10	Health Informaticsの総合：情報とイノベーションの再帰的關係性	松下博宣
	11	グループワークのガイダンス。各グループに分かれ、ブレインストーミングによってグループワーク・イノベーション事例発表のテーマを探索する。なお、実質的なグループワークはすべて授業外の時間で行うものとする。	松下博宣
	12	グループワーク・イノベーション事例発表①各グループが検討したイノベーション事例を発表し、クラスディスカッションを加える。	松下博宣
	13	グループワーク・イノベーション事例発表②各グループが検討したイノベーション事例を発表し、クラスディスカッションを加える。	松下博宣
	14	グループワーク・イノベーション事例発表③各グループが検討したイノベーション事例を発表し、クラスディスカッションを加える。	松下博宣
	15	授業全体のラップアップ：ヘルスケア情報学とイノベーションを俯瞰して、起業、新規ビジネス開発、2年次の課題プロジェクト研究等の可能性に結びつける。	松下博宣

科目名	メディカルスタッフ経営学Ⅰ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	八木麻衣子
科目担当者	八木麻衣子		
授業概要	医療・介護専門職者が経営学を学ぶ重要な目的は、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」など限られた経営資源を有効に活用し、医療・介護施設として結果を出すことで組織の「価値」を高めることである。しかし、これまでの医療機関においては、こうした組織の「価値」という視点が欠如しており、医療経営資源の有効活用が十分になされてこなかった。 そこで本授業では、医療・介護領域の組織運営に関連した事象について、医療現場で働くプレイングマネージャーが、経営理論を用いて現場の課題や問題について、効率的な解決方法を選択するための経営学的論理的思考方法について考察する。		
授業の目的と到達目標	本授業では、メディカルスタッフが医療・介護産業の特殊性を共有しつつ、経営や組織運営に関する共通言語を用いて、職場の問題点を探索し、その効率的な解決方法を選択するための論理的思考方法を習得することを目的とする。 達成目標は、異なる職種間での連携を図るために、経営学の基礎的な専門用語を使いこなし、医療・介護組織の目的を高い次元で実現する能力の修得である。		
学習演題 (予習・復習)	特に定めないが、授業の中で適宜指示する。		
テキスト 参考文献	特に定めないが、授業の中で適宜提示する。		
成績評価の方法と基準	授業中への参加姿勢（30％）、授業中の発言の内容（30％）、授業で提示された期末課題の内容（40％）		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	メディカルスタッフが経営理論を使いこなすための準備① -経営学と経営理論とは-	八木麻衣子
	2	メディカルスタッフが経営理論を使いこなすための準備② -理論と実践の両輪を回すための考え方-	八木麻衣子
	3	医療・介護領域における外部環境を理解する① -日本の社会情勢、医療・介護制度の概要、国の健康・医療戦略-	八木麻衣子
	4	医療・介護領域における外部環境を理解する② -医療における情報化、データに基づく地域医療構想、データヘルスなど-	八木麻衣子
	5	医療機関の組織学的構造の特徴 -医療機関を運営するということとは-	八木麻衣子
	6	医療の質の定義と評価方法 -STEEP、ドナベディアンモデルへの理解と利用-	八木麻衣子
	7	医療・介護施設の運営に必要な組織学的知識① -個人に対するアプローチ (バイアス、コミュニケーション、コミットメントなど) -	八木麻衣子
	8	医療・介護施設の運営に必要な組織学的知識② -集団に対するアプローチ (組織デザイン、チームビルディングなど) -	八木麻衣子
	9	医療・介護施設の運営に必要な組織学的知識③ -リーダーシップとフォロワーシップ-	八木麻衣子
	10	医療・介護施設の運営に必要な組織学的知識④ -トップマネジャーに必要な技能 (交渉、センスメイキング理論など) -	八木麻衣子
	11	医療・介護施設の運営に必要な組織学的知識⑤ -組織風土、組織文化、心理的安全性など-	八木麻衣子
	12	医療・介護施設の運営に必要な組織学的知識⑥ -学習する組織やティール組織におけるリーダーの役割-	八木麻衣子
	13	医療・介護施設における人的資源管理の重要性	八木麻衣子
	14	地域における医療・介護施設の戦略的な連携の在り方 -ソーシャルネットワーク理論への理解-	八木麻衣子
	15	医療の情報化とデータに基づく組織運営の重要性	八木麻衣子

科目名	メディカルスタッフ経営学Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	八木麻衣子
科目担当者	八木麻衣子		
授業概要	経営学的な論理的思考はいわば「公式」であり、医療・介護現場のリアルワールドでの目標達成や問題解決には、具体的な取り組みに落とし込み、理論と実践の両輪を回していくことが重要となる。 一方、現在の医療・介護施設の運営では、経験則による意思決定が多く行われ、時として不合理な組織運営が行われている可能性が存在する。そのような事態を避けるためにも、現場における問題や課題を可視化し、可能な限りデータに基づいて現状を把握するために経営学を学び、経営理論を用いて効率的に解決に向けた最善策を選択できる能力が必要となる。 よって、本授業では、メディカルスタッフにおいても、現場で情報を収集し問題を可視化できるよう、経営学を利用するための基礎的な統計分析や調査分析方法を紹介したうえで、現場で標準化可能な経営問題について、科学的・客観的な評価方法について学ぶ。		
授業の目的と到達目標	本授業では、メディカルスタッフが実際の現場で情報を収集し問題を可視化できるよう、基礎的な統計分析や調査分析方法を紹介したうえで、現場で標準化可能な経営問題について、科学的・客観的な評価方法を習得することを目的とする。到達目標としては、調査から得られたデータについて、その特徴を知るための記述統計の手法で平均値や中央値、最頻値、分散や四分位数などの散布度を理解し、ヒストグラムや散布図などを描いてデータを視覚的に捉えたり、簡単な回帰分析や相関分析などを用いて経営理論を具体的に応用できるようにする。		
学習演題 (予習・復習)	本授業では、自分の所属する組織における課題について言語化し、小規模であってもデータのサンプリングや分析などを行うことを行い、実際にグループでのプレゼンテーションやディスカッションを予定している。		
テキスト 参考文献	特に定めないが、授業の中で適宜提示する。		
成績評価の方法と基準	授業中への参加姿勢（30％）、授業中におけるディスカッションの内容（30％）、課題の内容（40％）		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	経営理論と実践のサイクルを回すためのデータ分析とは	八木麻衣子
	2	データ分析に基づく質改善・業務改善を実践する組織文化の重要性	八木麻衣子
	3	記述統計の説明	八木麻衣子
	4	相関関係と回帰分析などの基礎的分析	八木麻衣子
	5	データ分析における注意点 -平均・確率などにおけるバイアス、フレーミング効果など-	八木麻衣子
	6	医療・介護施設におけるデータ分析による業務改善・質改善の概要 -課題の抽出、分析、計画立案、再評価、PDCAサイクルなど-	八木麻衣子
	7	データ分析に業務改善・質改善① -課題の抽出とその言語化と本質のつかみ方-	八木麻衣子
	8	データ分析に業務改善・質改善② -課題の現状分析とデータによる可視化の方法-	八木麻衣子
	9	データ分析に業務改善・質改善③ -データの収集方法についての方法論-	八木麻衣子
	10	データ分析に業務改善・質改善④ -データ収集の実践-	八木麻衣子
	11	課題解決のための計画立案・職務設定における注意点	八木麻衣子
	12	計画の実行と計画の評価 -目標設定のコツ、リーダーとしてのファシリテーション能力とは-	八木麻衣子
	13	グループディスカッション：課題の分析と解決方法の提示と質疑応答①	八木麻衣子
	14	グループディスカッション：課題の分析と解決方法の提示と質疑応答②	八木麻衣子
	15	課題の提示と最終プレゼンテーション	八木麻衣子

科目名	福祉医療の戦略経営 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	高橋淑郎
科目担当者	高橋淑郎		
授業概要	本授業は、大きく3部構成されている。 第1部として、我が国の福祉医療経営の現状を概観し、個々の施設経営の課題を抽出する。 第2部として、それらの経営課題をどのように解決していくかを、戦略経営の立場から、社会性を組み込んだ戦略論を議論する。 第3部として、戦略経営のツールとしてのバランスト・スコアカード（balanced scorecard: BSC）の基本を理解するために、BSCの基礎理論を分かり易く解説する。その後、これらの基礎事項の理解を踏まえて、福祉医療組織でのBSCについて、受講生の経験などを交えて議論していく。		
授業の目的と到達目標	本講義では、福祉医療施設で活用できる基礎的な戦略論を厳選して解説し、その理論と戦略策定のツールを理解し、経営戦略論に関する体系的で実践的な知識を身につける。(1)経営戦略論の基礎的な概念や分析手法を理解すること (2)現実の福祉医療施設の経営行動に対して、講義で取り上げる経営戦略論のさまざまな視点から独自の分析を行う力を身につけることを、講義の目的とする。到達目標は(1)経営戦略論における基礎的な理論や概念を理解し、それらを説明できる。(2)経営戦略と戦略経営を説明できる。(3)現実の福祉医療組織が直面する様々な経営課題を分析し、その解決策を提案できるようになることである。		
学習演題 (予習・復習)	予習が1時間、復習が2時間を基本としてしている。		
テキスト 参考文献	・高橋淑郎(2021)『バランスト・スコアカードによる持続可能な病院経営』中央経済社。 ・高橋淑郎編著(2019)『非営利組織と営利組織のマネジメント』中央経済社		
成績評価の方法と基準	出席60% 授業での発言20% 小テスト20% を目安とする。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業 の 展 開	回	概要	担当
	1	イントロダクション:本講義の目標、授業方法、教材、成績評価方法、出席など基本的な情報を共有する。受講生のこれまでの業務と福祉医療領域との関連を自ら考えてもらい、順次、発表しながらアイスブレイクと自己紹介を兼ねる。	高橋淑郎
	2	わが国の医療領域の課題の検討:我が国の医療と医療施設の歴史を訪米と比較しながらたどり、医療施設経営全般について学ぶ。	高橋淑郎
	3	わが国の医療領域の課題の検討:我が国の医療及び福祉制度の概略を学び、アメリカ、カナダの福祉医療制度と比較しながら福祉医療経営の課題を洗い出す。	高橋淑郎
	4	わが国の福祉領域の課題の検討:我が国の医療と医療施設の歴史を訪米と比較しながらたどり、医療施設経営全般について学ぶ。	高橋淑郎
	5	わが国の福祉領域の課題の検討:我が国の医療及び福祉制度の概略を学び、ドイツ、イギリスの福祉医療制度と比較しながら福祉医療経営の課題を洗い出す。	高橋淑郎
	6	福祉医療施設での経営の意味を考え、これまで洗い出してきた課題を検討する。	高橋淑郎
	7	福祉医療での戦略経営① 経営戦略論の系譜と論点を整理する。経営戦略論の主要な経営戦略論を学ぶ。ポーター(Porter,M.E.)のポジショニング・アプローチ。	高橋淑郎
	8	福祉医療での戦略経営② 主要な経営戦略論を学ぶ。バーニー (Barney, J.B.)などの資源ベース・アプローチ。	高橋淑郎
	9	福祉医療での戦略経営③ 主要な経営戦略論を学ぶ。ミンツバーグ (Mintzberg, H.)などの創発戦略。	高橋淑郎
	10	福祉医療での戦略経営④ 社会性を持った経営戦略論を学ぶ。アンソフ (Ansoff, H.I) アンドリュース (Andrews, K.R) ホファーとシェンデル (Hofer, C.W. and Schendel, D.)	高橋淑郎
	11	経営戦略論としてのバランスト・スコアカード(BSC)理論①	高橋淑郎
	12	経営戦略論としてのバランスト・スコアカード(BSC)理論②	高橋淑郎
	13	経営戦略論としてのバランスト・スコアカード(BSC)理論③	高橋淑郎
	14	福祉医療施設でのBSCの日本の事例研究	高橋淑郎
	15	福祉医療施設でのBSCを活用した経営の意味を考え、その課題を検討する	高橋淑郎

科目名	福祉医療の戦略経営Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	高橋淑郎
科目担当者	高橋淑郎		
授業概要	本授業では、福祉医療施設で、バランスト・スコアカード（以下 BSC）の基本的な使用方法である業績測定と評価のBSC、戦略マネジメントシステムとしてのBSC、組織改革のBSCおよび拡張型BSCとしてsustainability BSC、community BSC、クラスターBSCとセクターBSCに関して事例を検討する。さらに実際の福祉医療施設でのBSCを作成時、導入時、運用時の代表的な課題とその解決策を受講生の問題意識と経験等から一緒に考えていく。		
授業の目的と 到達目標	本講義では、福祉医療施設で活用しているBSCの実際の理論と事例と拡張型BSCなどBSCの新しい方向性を、諸外国の事例も含めて解説し、福祉医療現場経営でのBSCの応用を示す。BSCは理論だけ学んでも、実際の福祉や医療での応用は、簡単ではない。そこ理由も含めて、議論していく。本講義の目的は(1)経営戦略論としてのBSCの基礎を理解し、福祉・医療への橋渡しができるようになること。(2)現実の福祉医療施設の経営行動に対して、社会性を持ったドイツのSustainability BSCの手法で独自の分析を行う力を身につける。到達目標は(1)戦略経営実践の枠組みであるBSCを拡張型BSCも含めて説明できること。(2)SBSCやCommunityBSCの手法やクラスターBSCなど使用して、福祉医療施設で実際に提案できること。		
学習演題 (予習・復習)	予習 1. 5時間 復習 1. 5時間		
テキスト 参考文献	・高橋淑郎(2021)『バランスト・スコアカードによる持続可能な病院経営』中央経済社。 ・西谷啓太・梅井崇仁・高橋淑郎(2022)『医療職のためのバランスト・スコアカード実践マニュアル』メディカルフレンド社。		
成績評価の方法と 基準	おおよその目度であるが、 出席 60% 提案・批判などの発言 30% 小テスト 10%		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション:本講義の目標、授業方法、教材、成績評価方法、出席など基本的な情報を共有する。受講生のこれまでの業務と福祉医療領域との関連を自ら考えてもらい、順次、発表しながらアイスブレイクと自己紹介を兼ねる。	高橋淑郎
	2	バランスト・スコアカード(Balanced scorecard:BSC)のこれまでの理論の変化を主要文献(キャプランとノートンの著書1996年、2001年)を取り上げて議論する。	高橋淑郎
	3	バランスト・スコアカード(Balanced scorecard:BSC)のこれまでの理論の変化を主要文献(キャプランとノートンの著書2004年、2008年)を取り上げて議論する。	高橋淑郎
	4	アメリカ、カナダでのHealthcare BSCの発展を論文を追って検討していく(1)。	高橋淑郎
	5	アメリカ、カナダでのHealthcare BSCの発展を論文を追って検討していく(2)。	高橋淑郎
	6	アメリカ、カナダでのHealthcare BSCの発展を論文を追って検討していく(3)。BSCへの批判の検討を含む	高橋淑郎
	7	ドイツ・イギリス・イタリア・スペイン/台湾などでのHealthcare BSCの現状	高橋淑郎
	8	ドイツでのSustainability BSC(1)	高橋淑郎
	9	ドイツでのSustainability BSC(2)	高橋淑郎
	10	BSCとCSRとIntegrityBSCの理論研究	高橋淑郎
	11	アメリカでの病院BSCとCommunity BSCの事例研究	高橋淑郎
	12	クラスターBSCとセクターBSCと地域医療連携BSCと地域医療連携推進法人のBSCなどの事例研究	高橋淑郎
	13	BSCを社会性を持った経営戦略論に修正していく:カナダ・オンタリオ州(病院とOntario Hospital Association)の事例研究	高橋淑郎
	14	グループに分かれて、模擬(病院か福祉施設)データを使用して、BSCの標準的策定方法に沿って、実際に行ってみる中で、実際の課題について経験し、そのソリューションを学ぶ。	高橋淑郎
	15	グループに分かれて、模擬(病院か福祉施設)データを使用して、BSCの標準的策定方法に沿って、実際に行ってみる中で、実際の課題について経験し、そのソリューションを学び、自分の所属する組織での応用を提案する。	高橋淑郎

科目名	病院・介護事業経営		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	櫻井英里子
科目担当者	櫻井英里子		
授業概要	病院経営と介護施設の経営を比較しつつ、両経営に共通する事項と相違する事項について分析し、両者の本質を考察する。株式会社を比較対象としつつ、病院および介護施設の目的、機能、組織を研究する。 医療や介護を取り巻く環境を考えながら、病院経営・介護施設経営のこれから求められることを考察する。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、医療や介護の事業運営を経営者と同じ目線で思考できるようになること。実際の現場で、経営者の右腕となって活躍できるようになること。 到達目標としては、①医療・介護を取り巻く環境（法・経済・技術・人口・社会など）を分析するための的確な情報収集ができ、②収集した情報を用いて架空のA医院とB会社の課題を探索し、③それぞれの課題解決策を構築することである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が架空のA医院とB会社を提示。いくつかのグループにわかれ、グループ内で話し合いながらまとめ、発表する形式である。毎回の授業で課題が出されるため、次の授業までにグループ内で参考資料やデータを集め、課題を解くために必要な知識を学び、発表するという形で進められる。		
テキスト 参考文献	マネジメントやHRなど様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	グループ内における発言（10%）、資料作成への参加度（10%）、プレゼンテーション（20%）、発表内容（60%）		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	経営者ってなんだろう。経営ってなんだろう。	櫻井英里子
	2	医療介護を取り巻く環境を分析してみよう(外部環境分析)～医療法人と株式会社の同じところ・違うところ①	櫻井英里子
	3	医療介護を取り巻く環境を分析してみよう(外部環境分析)～医療法人と株式会社の同じところ・違うところ②	櫻井英里子
	4	所属している(た)自分の組織を分析してみよう(内部環境分析)～医療法人と株式会社の同じところ・違うところ①	櫻井英里子
	5	所属している(た)自分の組織を分析してみよう(内部環境分析)～医療法人と株式会社の同じところ・違うところ②	櫻井英里子
	6	あなたが現場目線で困っている課題から見えてくること～ガバナンス・コンプライアンス～	櫻井英里子
	7	労働集約型ビジネスを考えてみよう～HRを考えよう①	櫻井英里子
	8	労働集約型ビジネスを考えてみよう～HRを考えよう②	櫻井英里子
	9	架空のA医院とB会社を運営してみよう①貸借対照表から経営状況を知ろう	櫻井英里子
	10	架空のA医院とB会社を運営してみよう②それぞれの課題と、それをどのように解決したらよいか考えよう～ビジネスプランの策定～	櫻井英里子
	11	架空のA医院とB会社を運営してみよう②それぞれの課題と、それをどのように解決したらよいか考えよう～ビジネスプランの策定～	櫻井英里子
	12	ビジネスプランの発表と質疑応答	櫻井英里子
	13	修正ビジネスプランの発表と質疑応答	櫻井英里子
	14	ビジネスプランの最終発表	櫻井英里子
	15	ビジネスプランの評価と課題	櫻井英里子

科目名	地域包括ケアと多職種連携イノベーション		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
科目・2単位	1年次・2年次	選択	松下博宣
科目担当者	松下博宣		
授業概要	本授業では、急速に変貌している地域包括ケアシステムの姿と、そのなかで進化する多職種連携の実態をイノベーション創発の視点からとらえてゆく。マクロの視点からは、ケアからケアへのシフト、病院中心から地域・在宅へのシフトを政策と経営の側面からとらえてゆく。ミクロ的な視点からは、クラウド経由でアクセスする多職種連携の実態を計測する尺度ツール等を用いて、(1) コンピテンシー、(2) 職場のソーシャル・キャピタル、(3) コラボレーティブ・リーダーシップ、(4) 組織学習、(5) 主観的幸福感(幸福経営)等のテーマをアクティブ・ラーニングとして掘り下げてゆく。マクロとミクロを架橋するメゾ的な視点からは、ヘルスケアマネジメント実践動向に注目して、医療・保健・福祉を一体的に経営するIHN (Integrated Health Network)のグローバル事例、国内事例を取り扱う。また本授業は、アクション・リサーチ、アクティブ・ラーニングを多用する。学生は、授業前にネット環境にアクセスして、所定の質問票に回答し、その結果を授業で共有してディスカッションを加える。		
授業の目的と到達目標	【目的】急速に変貌している地域包括ケアシステムの実態と、そのなかで進化している多職種連携の実態をイノベーション創発の視点から理解する。 【到達目標】①患者・住民中心の地域包括ケアシステムの多様性、実態を理解する。 ②多職種連携 (IPC:Inter-Professional Collaboration) について、コンピテンシー、リーダーシップ、コミュニケーション等の視点から理解し、自分の考え方を表明できるようになる。 ③IPCの国際的な動向、日本国内の動向について説明できる。 ④過去、実習などで経験してきた実践例や地域活性化の実践例を通して、各自が果たす具体的な役割やビジョンについて考えることができる。		
学習演題 (予習・復習)	・研究成果や紹介事例をもとに、グループディスカッションをおこなう。 ・各自の経験や本授業での検討事項を踏まえて、地域包括ケアシステムや多職種連携に関する課題を抽出してレポートを作成する。		
テキスト 参考文献	松下博宣 (2022) . 多職種連携を推進するコラボレーション大全. 日総研出版. 松下博宣 (2020) . 多職種連携とシステム科学 ～異界越境のすすめ～ . 日本医療企画. 各回のテーマに関連する論文、書籍等を都度指定する。		
成績評価の方法と基準	クラス・パーティシペーション (ディスカッションへの参加) (20%)、中間テスト (20%)、最終レポート (60%) で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	オリエンテーション:医療・保健・福祉全体のなかでの地域包括ケアシステムとIPCの動向を議論する。(マクロ視点)	松下博宣
	2	IPCに関するイノベーション動向分析:英語圏先進国と日本の動向を比較し検討する。(マクロ視点)	松下博宣
	3	多職種連携と医療経営の中で重要な位置を占める医療安全、医療の質、医療の効率性との関係について洞察を深める。(メゾ視点)	松下博宣
	4	システム科学のレンズから地域包括ケアシステムと多職種連携について俯瞰する。(マクロ・メゾ・ミクロ視点)	松下博宣
	5	多職種連携に求められるコンピテンシー(能力行動特性)とはなにか。各自のコンピテンシーを振り返る。(ミクロ視点)	松下博宣
	6	組織風土とはなにか。テキストマイニングを用いてIPCと組織風土との関係、その阻害要因と促進要因を探る。(ミクロ視点)	松下博宣
	7	各自が関与している職場のソーシャル・キャピタル、組織学習の実態を尺度を用いて評価する。(ミクロ視点)	松下博宣
	8	各自が所属するヘルスケア関連組織のIPCの実態とコラボレーティブ・リーダーシップの実態を尺度を用いて評価する。(ミクロ視点)	松下博宣
	9	国内の病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム等の複合経営の実態について洞察を加える。(メゾ視点)	松下博宣
	10	国内IHNの動向を探り、聖隷福祉事業団、済生会長野病院等の事例について検討を加える。(メゾ視点)	松下博宣
	11	海外IHNのイノベーション動向を探り、公的・私的保健・医療・福祉経営複合体等の事例について検討を加える。(マクロ・メゾ視点)	松下博宣
	12	多職種連携のミクロ的な実態を計測する:A病院、B病院の事例を検討する。IPC、リーダーシップ、組織学習、ソーシャル・キャピタルの関係に注目する。(メゾ視点)	松下博宣
	13	ソフトシステムズ方法論による病院内の多職種連携による組織変化、業務改革、アコモデーションについて理解する。(メゾ視点)	松下博宣
	14	多職種連携とヘルスケア・イノベーション、イノベーション発想法について洞察を深める。(メゾ・ミクロ視点)	松下博宣
	15	全体のレビューとラップアップと最終レポート講評。	松下博宣

科目名	コミュニティ・ヘルス		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	宮木大
科目担当者	宮木大		
授業概要	地域社会や地域共同体で生活する患者の健康や日常生活を医療の専門家でないコミュニティが担うための仕組み作りが各地で次々と生まれている。この取り組みが地域性や共同性が重要視される自治の一環として行われることで、コミュニティ自身も豊かになる。これがコミュニティ・ヘルスという概念である。 この授業ではワークショップの実施やゲストスピーカーとのディスカッションを行うことによりコミュニティ・ヘルスについて考察することを目的とする。		
授業の目的と到達目標	本授業の目的はコミュニティ・ヘルスについて理解を深め、自身の居住する地域の資源を把握し、利用することが可能か分析し、実践する能力を取得することである。 到達目標としては①コミュニティ・ヘルスについて理解し、他受講生に説明できる。②コミュニティ・ヘルスを実践するために必要な資源を分析することができる。③他者と協調し議論を行うことができる。の3点である。		
学習演題 (予習・復習)	授業は教員による講義、並びに提示する課題に対し次週の時間内に発表する形式である。		
テキスト 参考文献	基本的に教員が作成したスライドを利用する		
成績評価の方法と基準	授業内での発言(35%)、作成資料並びに発表(35%)、小レポート(20%)、最終発表(10%)		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	コミュニティ・ヘルスとは何か-1	宮木大
	2	コミュニティ・ヘルスとは何か-2	宮木大
	3	コミュニティ・ヘルスとは何か-3	宮木大
	4	地域社会の社会資源に関する探求-事例研究	宮木大
	5	地域社会の社会資源の有効利用方法の検討-事例研究	宮木大
	6	自身の地域社会の社会資源に関する探求	宮木大
	7	自身の地域社会の社会資源の有効利用方法の検討	宮木大
	8	コミュニティ・ヘルスとデザイン	宮木大
	9	コミュニティ・ヘルスとSDGs	宮木大
	10	コミュニティ・ヘルスと地方創生	宮木大
	11	最期まで住み慣れた場所で過ごすには-1	宮木大
	12	最期まで住み慣れた場所で過ごすには-2	宮木大
	13	最期まで住み慣れた場所で過ごすには-3	宮木大
	14	振り返り-1	宮木大
	15	振り返り-2	宮木大

科目名	在宅医療論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	宮木大
科目担当者	宮木大		
授業概要	在宅医療の必要性に関し、議論の余地はない。しかし「在宅医療とは何か」という問いに関しては回答者の背景によって相違があることも事実である。さらに、在宅介護に関しては営利企業を始め、多様な事業者が参加してきたことにより急速に充実している。この授業では医療と介護、その関連領域を取り上げつつ、この領域で活躍する実務家の事例を取り上げながら在宅医療の実態を考察し、履修者相互の意見交換を通じて、各自の考える在宅医療の定義を確立することを目的とする。		
授業の目的と到達目標	本授業の目的は、「在宅医療」の意味や役割を考察し、改めて各自で考える「在宅医療」の定義を行うことによる在宅医療の多様性を認識すること、疑似的に在宅医療クリニックを創設するための資源を分析利用する能力の取得である。 到達目標としては①在宅医療に関する情報を取得でき、受講生と共有できる。②在宅医療の定義を確立させ、他者の考え方との違いにより多様性を認識する。③他者と論理的かつ建設的な議論を行うことができることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は教員による講義、並びに提示する課題に対し次週の時間内に発表する形式である。		
テキスト 参考文献	基本的に教員が作成したスライドを利用する		
成績評価の方法と基準	授業内での発言(30%)、作成資料並びに発表(30%)、小レポート(15%)、最終発表(25%)		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	在宅医療とは何か(本授業の目的の理解)	宮木大
	2	社会経済的環境の変化	宮木大
	3	医療保険制度、介護保険制度の仕組みと概要	宮木大
	4	医療と看護、介護-1	宮木大
	5	医療と看護、介護-2	宮木大
	6	在宅医療—SGDsを通して考える	宮木大
	7	在宅医療—地域インフラとして、地方創生から考える	宮木大
	8	全国の在宅医療クリニックを探す①	宮木大
	9	全国の在宅医療クリニックを探す②	宮木大
	10	自分の理想の在宅医療クリニックを考える	宮木大
	11	在宅医療クリニックを建てる①—理念、方針	宮木大
	12	在宅医療クリニックを建てる②—立地	宮木大
	13	在宅医療クリニックを建てる③—周辺との連携	宮木大
	14	在宅医療クリニックを建てる④—ブランドの確立	宮木大
	15	本授業の振り返り	宮木大

科目名	労務管理実務		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	石井清香
科目担当者	石井清香		
授業概要	2018年より働き方改革が進められてきたが、医療業界および介護業界などの福祉医療分野は様々な職種が混在しており、労働時間の管理をはじめとした労務管理上の問題が複雑化している。各職種の労務管理は一律ではなく、一方で同一労働同一賃金の問題が提起されている。その他、労働時間管理、外国人労働、ハラスメント等、多様な人事・労務管理上のテーマを取り上げ、主として病院や介護施設の事例をまじえて労務管理の在り方を考える。		
授業の目的と 到達目標	授業の目的は、現状の医療、介護等の福祉医療業界に関する労務管理の知識を再設定し、望ましい労務管理の在り方を考察することである。到達目標としては①福祉医療業界を取り巻く環境と問題点を導出し、②その課題解決のための情報収集や事例を考察し、③改善策を考える。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が各テーマ別に関する基本的な知識と論点を提示し、その問題を授業内で話し合いながら意見交換する。最後の回では事例発表をグループで取り組み発表する。		
テキスト 参考文献	労働法や労務管理の基礎知識となる様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と 基準	授業での発言(10%)、発表内容(40%)、レポート(50%)で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	医療業界を取り巻く環境	石井清香
	2	医療業界の労働時間管理の問題点と組織改善について	石井清香
	3	医師・看護師の労務管理	石井清香
	4	その他の職種の労務管理	石井清香
	5	病院の事例検討①	石井清香
	6	病院の事例検討②	石井清香
	7	グループ発表	石井清香
	8	介護業界を取り巻く現状	石井清香
	9	介護事業所の特徴と運営	石井清香
	10	介護施設の労働時間管理	石井清香
	11	介護職員の処遇とキャリア	石井清香
	12	介護職外国人労働	石井清香
	13	ハラスメント対策	石井清香
	14	介護施設の事例検討	石井清香
	15	グループ発表	石井清香

科目名	非営利組織の管理会計		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	羽田明浩
科目担当者	羽田明浩		
授業概要	本授業は、非営利組織の中でも主としてヘルスケア分野の経営管理者に必要とされる管理会計の基本的な考え方を修得する。 簿記会計の基礎知識として、財務諸表分析、原価管理、損益分岐点分析、ファイナンスの基礎概念、設備投資の意思決定、資金計画表の作成、バランス・スコアカード(BSC)による目標管理などを解説し、業績管理のための会計的手法と経営意思決定のための会計的手法を考察する。 管理会計の手法を履修者自らが使えるようにする。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、主としてヘルスケア分野の経営管理者に必要とされる管理会計の基本的な考え方を習得し、業績管理のための会計的手法と経営意思決定のための会計的手法を理解することにある。 到達目標は、財務分析、原価管理、損益分岐点分析、ファイナンスの基礎概念、設備投資の意思決定、資金計画表の作成、バランス・スコアカード(BSC)による目標管理を理解して、それらの分析手法を駆使できることにある。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する講義資料によって基礎的な知識を修得した後に事例問題等を通して知識吸収を図るものである。 特に受講者が過去に直面した実務を振り返り、学んだ知識を活かすことができる内容とするものである。		
テキスト 参考文献	テキスト 講義資料は講義に際して都度配布する。 参考文献 管理会計に関する書籍を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	講義の参加度合い（30％）、期末レポート（70％）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる □福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	全体の概略	羽田明浩
	2	財務分析の説明(総合力の分析、収益性の分析他)	羽田明浩
	3	財務分析の方法(効率性の分析、安全性の分析、成長性の分析他)	羽田明浩
	4	財務分析の事例問題(ヘルスケア組織の分析事例他)	羽田明浩
	5	原価管理の基礎(医療機関の原価の構成、部門別原価管理他)	羽田明浩
	6	損益分岐点分析の説明(医療機関におけるDPCと出来高払いの違い他)	羽田明浩
	7	損益分岐点分析の事例問題(ダヴィンチ、PETCT等医療機器導入事例)	羽田明浩
	8	損益分岐点分析の計算問題を通じた知識習得	羽田明浩
	9	設備投資の意思決定(ファイナンス理論の解説)	羽田明浩
	10	設備投資の意思決定(新病院建設の伴うNPV)	羽田明浩
	11	設備投資の意思決定(サービス付高齢者住宅建設に伴うNPVとIRR)	羽田明浩
	12	資金計画表の作成(中期収支計画表の作成)	羽田明浩
	13	資金計画表を通じた資金調達について(銀行融資判断事例の説明)	羽田明浩
	14	バランスト・スコアカード(BSC)による目標管理	羽田明浩
	15	講義のまとめ(受講者の管理会計活用について)	羽田明浩

科目名	ソーシャルワークの基盤と展開		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択必修	篠原純史
科目担当者	篠原純史		
授業概要	社会福祉士や精神保健福祉士といったいわゆるソーシャルワーク専門職は、近代社会がもたらした孤立や孤独から生じてくるさまざまな社会的問題、たとえば介護の問題や児童虐待などの問題に対応することが求められている。一方でより質の高いサービスを提供するためには、組織を基盤にソーシャルワークを展開していく必要がある。ソーシャルワーク専門職は最終的に、利用者に対して直接的にサービスを提供していくにせよ、まずは彼ら彼女ら自身が所属する施設や機関自体が、安定したサービスを提供できる「体制」になっていなければならない。この講義は、受講者自身によるプレゼンテーションやグループワークを通して、自らが所属する組織の安定化や活性化、さらには新たなサービスの開発をどのようにおこなっていけばよいか、各自理解していくことを目的とする。		
授業の目的と到達目標	授業の目的としては、社会福祉実践（ソーシャルワーク）のそもそもの目的である利用者（クライアント）のウェルビーイングの向上とは何かについて理解し、既存のソーシャルワークの実践モデルや理論・アプローチを組織的に展開することの意味、さらに利用者のウェルビーイングの向上を可能にする業務の改善・開発の方法について、受講生各自が理解できるようになることにある。到達目標としては、受講生が利用者のウェルビーイングの意味することを考えつつ、具体的な業務の改善・開発の計画を立てることができるようになることとする。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する問題をグループ内で話し合いながらまとめ、これを発表する形式である。毎回の授業で課題が出されるため、次の授業までにグループ内で検討し、課題を解くために必要な基礎的知識を学び、論理的な発表資料を作成・発表するという形で進められる。		
テキスト 参考文献	ソーシャルワークの実践モデルや理論・アプローチに関するテキスト等について事前に読んでおくこと。		
成績評価の方法と基準	グループ内における発言（10%）、資料作成への参加度（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表したプランの内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■ 福祉医療分野の専門職や社会的企業や関連する組織に従事する人が経営学の基礎的知識を活用し、問題を発見し、その効率的解決方法を策定する能力を修得している。 ■ 年齢や権限・責任、さらには職種に関わらず、問題に応じてリーダーシップとフォロワーシップを発揮する多職種連携の組織を構築する能力を修得している。 ■ 福祉医療に関わる全ての組織従事者が、多職種連携組織を構築する経営管理能力を修得している。 ■ 福祉医療分野の経営活動を通じて、関連する取引先の組織や支援する組織、さらには地域の価値創造に貢献できる。能力を修得している。 ■ 福祉医療分野における新規のビジネスモデルを構築する起業家的能力を修得している。 ■ 特定の地域や国境を越えて福祉医療分野の活動ができる能力を修得している。		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ソーシャルワークの価値と倫理について考える	篠原純史
	2	利用者(クライアント)のウェルビーイングについて考える	篠原純史
	3	事例をもとに利用者(クライアント)のウェルビーイングの向上についてディスカッションをおこなう	篠原純史
	4	利用者(クライアント)のウェルビーイングの観点から、自身の所属組織における実践課題を考える	篠原純史
	5	プレゼンテーション①	篠原純史
	6	ソーシャルワークの実践モデルと理論・アプローチについて考える	篠原純史
	7	利用者(クライアント)のウェルビーイング向上と実践モデルや理論・アプローチの向上の関連性について検討する	篠原純史
	8	ソーシャルワーク諸理論を活かしたソーシャルワーカーの指導(スーパービジョン)のあり方の検討をおこなう①	篠原純史
	9	ソーシャルワーク諸理論を活かしたソーシャルワーカーの指導(スーパービジョン)のあり方の検討をおこなう②	篠原純史
	10	プレゼンテーション②	篠原純史
	11	利用者(クライアント)のウェルビーイングを目的とした業務の改善・開発について考える	篠原純史
	12	組織の「強み」を活かした業務の改善・開発の方法について検討する	篠原純史
	13	業務の改善・開発に向けた具体的内容について検討する	篠原純史
	14	プレゼンテーションの準備	篠原純史
	15	プレゼンテーション③	篠原純史

科目名	ソーシャルワークの理論と実際		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	篠原純史
科目担当者	篠原純史		
授業概要	ソーシャルワーカーは、クライアントの生活課題の解決に資するソーシャルワーク実践をするために、自らの実践経験についてソーシャルワークの目的、価値、知識、技術と照らし合わせ、省察的実践を繰り返す必要がある。 本科目では、講義や演習を通じて、ソーシャルワークの価値、倫理、ソーシャルワーク理論を確認するとともに、自らの実践事例についてソーシャルワーク理論の観点からプロセス・レコードを作成することにより言語化する。また、プロセス・レコードを活用したスーパービジョンを通じて、自らのソーシャルワーク実践について省察し、その課題について明らかにし、課題解決に向けた具体的かつ実地的なアクションプランを立案する。		
授業の目的と 到達目標	授業の目的は、自らのソーシャルワーク実践についてソーシャルワーク理論の観点から考察し、クライアントの生活課題の解決に資するソーシャルワーク実践を行うための能力を修得することである。 到達目標としては、①ソーシャルワーク理論に基づき、自らの実践事例について言語化でき、②スーパービジョンを通じて自らのソーシャルワーク実践について省察することで、その課題を明らかにし、③課題解決に向けたアクションプランを立案できることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業では、自らの実践事例についてソーシャルワーク理論の観点からプロセス・レコードを作成し、それを活用したスーパービジョンを行う。次の授業に向けて、スーパービジョンで得られた内容を考察し、まとめ、プロセス・レコードを修正する。また、自らのソーシャルワーク実践の課題解決に向けたアクションプランを立案し、発表資料を作成し、発表する。		
テキスト 参考文献	『ダイレクト・ソーシャルワークハンドブック 対人支援の理論と技術』 その他、ソーシャルワーク理論に関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と 基準	スーパービジョンへの参加度（30％）、プロセス・レコードの内容（30％）、アクションプランの内容（30％）、プレゼンテーション（10％）により評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ソーシャルワークの価値・倫理の確認	篠原純史
	2	ソーシャルワーク理論の確認①	篠原純史
	3	ソーシャルワーク理論の確認②	篠原純史
	4	ソーシャルワーク理論の確認③	篠原純史
	5	ソーシャルワーク理論の確認④	篠原純史
	6	プロセス・レコードを活用したスーパービジョンの解説と実践事例の選定	篠原純史
	7	実践事例の発表と質疑応答	篠原純史
	8	プロセス・レコードを活用したスーパービジョン①	篠原純史
	9	プロセス・レコードを活用したスーパービジョン②	篠原純史
	10	プロセス・レコードを活用したスーパービジョン③	篠原純史
	11	プロセス・レコードを活用したスーパービジョン④	篠原純史
	12	プロセス・レコードの評価とアクションプラン立案に向けた解説	篠原純史
	13	アクションプランの発表とスーパービジョン	篠原純史
	14	修正したアクションプランの発表	篠原純史
	15	アクションプランの評価	篠原純史

科目名	メディカルソーシャルワーク論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	篠原純史
科目担当者	篠原純史		
授業概要	医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker）は、複合化・複雑化した生活課題の解決に向けて組織内の多職種や地域の関係機関と連携し、患者の生活に必要なサービスや支援を途切れなく提供する役割を担っている。 本科目では、医療ソーシャルワーカーによる実践事例をもとに、講義、演習、事例研究を通じて、保健医療領域におけるチーム医療の意義、チームモデルの形態と特徴、地域連携の意義と方法、それらから生じる倫理的ジレンマやコンフリクトマネジメントについて学び、組織や地域においてIPW（専門職連携実践）を推進させる医療ソーシャルワーカーの在り方や課題について考察する。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、医療ソーシャルワーカーとして複合化・複雑化する生活課題の解決に資するチーム医療や地域連携に必要な能力を修得することである。 到達目標としては、①医療ソーシャルワーカーによる実践事例から、保健医療領域におけるチーム医療および地域連携の意義について理解でき、②チーム医療や地域連携により生じる倫理的ジレンマやコンフリクトマネジメントについて理解し、③組織や地域においてIPWを推進させる医療ソーシャルワーカーの在り方や課題について説明できることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する問題をグループ内で話し合いながらまとめ、これらを発表する。次の授業に向けて、話し合いの内容を自らのソーシャルワーク実践と照らし合わせながら考察し、まとめる。また、IPWを促進させる医療ソーシャルワーカーの在り方や課題についてまとめ、発表資料を作成し、発表する。		
テキスト 参考文献	医療ソーシャルワークに関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	グループ内における発言（10%）、資料作成への参加度（40%）、プレゼンテーション（10%）、発表資料の内容（40%）により評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	医療ソーシャルワーカーを取り巻く環境と支援対象の確認	篠原純史
	2	チーム医療の意義、チームモデルの形態と特徴の確認	篠原純史
	3	チーム医療における実践事例の検討①	篠原純史
	4	チーム医療における実践事例の検討②	篠原純史
	5	発表(チーム医療)と質疑応答	篠原純史
	6	地域連携の意義と方法	篠原純史
	7	地域連携における実践事例の検討①	篠原純史
	8	地域連携における実践事例の検討②	篠原純史
	9	発表(地域連携)と質疑応答	篠原純史
	10	倫理的ジレンマとコンフリクトマネジメント	篠原純史
	11	倫理的ジレンマとコンフリクトマネジメントにおける実践事例の検討①	篠原純史
	12	倫理的ジレンマとコンフリクトマネジメントにおける実践事例の検討②	篠原純史
	13	発表(倫理的ジレンマとコンフリクトマネジメント)と質疑応答	篠原純史
	14	発表(IPWを促進する医療ソーシャルワーカーの在り方と課題)と質疑応答	篠原純史
	15	IPWを促進する医療ソーシャルワーカーの在り方と課題の評価	篠原純史

科目名	高齢社会の福祉医療		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	大橋幸子
科目担当者	大橋幸子		
授業概要	本科目は、講義とグループディスカッションで構成される。講義は、高齢社会における医療・福祉の課題と施策、高齢者の各種健康リスクについてリハビリテーション医学に基づいて説明する。グループディスカッションは、個人またはグループでテーマを決めてプレゼンテーション（課題プレゼンテーション）を行いディスカッションする。グループディスカッションを経て、最終的にレポートにまとめ提出する（課題レポート）。各授業の最後に、課題プレゼンテーションに向けた、質問や相談の時間を設ける。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 リハビリテーション医学と高齢期作業療法学を基盤に、高齢者のQOL向上について知見を深めることを目標とします。 【到達目標】 高齢社会におけるリハビリテーション対象者の実態を理解し、加齢による運動機能、栄養摂取機能、摂食嚥下機能、認知機能について理解し、作業療法による介入や高齢者の生活支援について論じることができる。		
学習演題 (予習・復習)	予習：毎回のテーマについて関連する文献を検索し読んで来てください。 復習：授業で学んだ内容をまとめ、レポート及びプレゼンテーションに活かしてください。		
テキスト 参考文献	テキストは特にありません。授業資料をデータ配信します。 各人の課題に合わせて、関連するさまざまな文献を検索し、読んでください。		
成績評価の方法と基準	課題プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）、		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	科目オリエンテーション 超高齢社会の保健・医療・福祉施策とリハビリテーション	大橋幸子
	2	高齢者と健康リスク1 サルコペニア、フレイル、低栄養、転倒、誤嚥性肺炎等	大橋幸子
	3	高齢者と健康リスク2 介護予防	大橋幸子
	4	高齢者と健康リスク3 転倒予防	大橋幸子
	5	高齢者の摂食嚥下リスクとアプローチ①(摂食嚥下の基礎知識)	大橋幸子
	6	高齢者の摂食嚥下リスクとアプローチ②(摂食嚥下障害のアセスメント)	大橋幸子
	7	高齢者の摂食嚥下リスクとアプローチ③(摂食嚥下障害へのアプローチ)	大橋幸子
	8	認知症の基礎知識	大橋幸子
	9	認知症と作業療法(認知症のアセスメント)	大橋幸子
	10	認知症と作業療法(認知症へのアプローチ)	大橋幸子
	11	認知症と介護メソッド(パーソン・センタード・ケア①)	大橋幸子
	12	認知症と介護メソッド(パーソン・センタード・ケア②)	大橋幸子
	13	グループディスカッション1 課題プレゼンテーション:認知症と介護メソッド(ユマニチュード)	大橋幸子
	14	グループディスカッション2 課題プレゼンテーションとディスカッション	大橋幸子
	15	グループディスカッション3 課題プレゼンテーションとディスカッション	大橋幸子

科目名	高齢者福祉とマネジメントⅠ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	鳥羽美香
科目担当者	鳥羽美香		
授業概要	高齢者福祉サービスの制度的変遷を踏まえ、各種サービスの特性、福祉専門職の役割と組織マネジメントについて地域包括ケアの視点で理解することを目的とする。介護保険制度導入以降、在宅サービスや高齢者施設等の高齢者福祉サービスには地域包括ケアの視点が求められる中、福祉専門職の人材確保・育成や組織マネジメントに関する現状と課題を文献とともに、事例調査し、分析していく。具体的には事業運営や地域社会におけるケアマネジメントに関する課題の理解、専門職の人材不足の原因や人材育成のための研修システムなどに関してデータをもとに理解し、具体的な事例を検討する。それらを踏まえ、課題を整理し、考察する。		
授業の目的と到達目標	高齢者福祉サービスの制度に関する理解とともに、地域包括ケアの視点で各種サービスと福祉専門職の役割について理解すること。また、事業運営と組織マネジメントについての理解を進めることを目的とする。到達目標としては、①高齢者福祉サービスの制度に関する理解、②サービスの特性と福祉専門職の役割、③事業運営と人材育成についての理解、④地域におけるケアマネジメントシステムに関する課題の考察、これら4点についての十分な考察、理解ができることを到達目標とする。		
学習演題 (予習・復習)	予習としては、毎回の課題に関する文献を調べ、要約をして考察を行う。復習としては、毎回の授業の学習内容の振り返りを行う。		
テキスト 参考文献	必要に応じて適宜提示する。		
成績評価の方法と基準	毎回の授業における発言や取り組み姿勢（30%）、パワーポイント作成と発表（40%）、レポート作成（30%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	高齢者福祉制度の変遷について(介護保険以前)	鳥羽美香
	2	高齢者福祉制度の変遷について(介護保険制度以降)	鳥羽美香
	3	各種高齢者福祉サービスの特性と役割	鳥羽美香
	4	各種高齢者福祉サービスの特性と役割(実践事例をもとに)	鳥羽美香
	5	高齢者福祉分野の専門職について(福祉系)～多職種連携について～	鳥羽美香
	6	高齢者福祉分野の専門職について(医療系)～多職種連携について～	鳥羽美香
	7	事業運営と組織マネジメントに関する理解(管理職の役割とは何か)～リーダーシップとフォロワーシップ～	鳥羽美香
	8	組織マネジメントの課題とは？	鳥羽美香
	9	高齢者福祉分野における人材育成の課題	鳥羽美香
	10	高齢者福祉分野における人材育成～研修体制について	鳥羽美香
	11	高齢者福祉分野における研修計画の実際～新たなビジネスモデルの提案～	鳥羽美香
	12	地域社会におけるケアマネジメントシステムと福祉施設の役割	鳥羽美香
	13	高齢者福祉分野における組織マネジメントの課題に関する発表準備(パワーポイント作成)	鳥羽美香
	14	高齢者福祉分野における組織マネジメントの課題に関する発表(パワーポイントによる発表)	鳥羽美香
	15	全体のまとめ・振り返り	鳥羽美香

科目名	高齢者福祉とマネジメントⅡ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	鳥羽美香
科目担当者	鳥羽美香		
授業概要	「高齢者福祉とマネジメントⅠ」との連続講義である。「高齢者福祉とマネジメントⅠ」で学習した高齢者福祉サービスの現状と課題に基づき、課題を解決するための方策について事例検討も含め行う。具体的には①人材不足の課題に対し、どのような対応ができるか。専門職研修制度のあり方の検討。②ケアマネジメントを踏まえたサービス提供のあり方と事業運営の課題解決の検討。これらを通し高齢者福祉サービスが地域包括ケアシステムの中で果たす役割について理解する。		
授業の目的と到達目標	高齢者福祉サービスにおける組織マネジメントの課題に関して、地域社会における実践的な視点での理解を進めることを目的とする。到達目標としては、①組織マネジメントの課題を整理した上で人材不足の課題に対する対応とともに、研修制度のあり方を提案すること。②地域社会に関する理解と福祉専門職の課題の提示ができること。③ケアマネジメントを踏まえたサービス提供のあり方と事業運営の課題解決策の提示、以上3点に関して考察し、具体的な解決に向けた提案をしていくことを到達目標とする。		
学習演題 (予習・復習)	予習としては、毎回の課題に関する文献を調べ、要約をして考察を行う。復習としては、毎回の授業の学習内容の振り返りを行う。		
テキスト 参考文献	必要に応じて適宜提示する。		
成績評価の方法と基準	毎回の授業における発言や取り組み姿勢（30％）、パワーポイント作成と発表（40％）、レポート作成（30％）で評価する。		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	高齢者福祉サービスと組織マネジメントの課題の整理(事例検討)～多職種連携に注目して～	鳥羽美香
	2	高齢者福祉サービスと組織マネジメントの課題の整理(管理職の役割)～リーダーシップとフォロワーシップについて～	鳥羽美香
	3	高齢者福祉サービスと組織マネジメントの課題の整理(フィールドワーク)	鳥羽美香
	4	高齢者福祉分野における人材育成の課題と人材不足の要因検討	鳥羽美香
	5	高齢者福祉分野における人材育成の課題と研修制度の提案(事例検討)～新たなビジネスモデルとその実施について～	鳥羽美香
	6	高齢者福祉分野における人材育成の課題と研修制度の提案(フィールドワーク)	鳥羽美香
	7	地域社会におけるサービスの役割と福祉専門職の課題	鳥羽美香
	8	地域社会におけるサービスの役割と福祉専門職の課題(フィールドワーク)	鳥羽美香
	9	ケアマネジメントの視点で考えるサービスの課題と事業運営の課題	鳥羽美香
	10	ケアマネジメントの視点で考えるサービスと事業運営の課題解決策(フィールドワーク)	鳥羽美香
	11	高齢者福祉サービスにおける組織マネジメントの課題と解決策に関する発表(パワーポイント)	鳥羽美香
	12	高齢者福祉分野における人材育成の課題と研修制度の提案に関する発表(パワーポイント)	鳥羽美香
	13	地域社会におけるサービスの役割と福祉専門職の課題解決に関する発表(パワーポイント)	鳥羽美香
	14	全体を通しての発表準備とディスカッション	鳥羽美香
	15	全体を通じた発表(パワーポイント)と全体のまとめ	鳥羽美香

科目名	高齢者介護施設のリスクマネジメント		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	大橋幸子
科目担当者	大橋幸子		
授業概要	本科目は、講義とグループディスカッション、フィールドワークで構成される。 講義は、高齢者介護施設の組織的リスクマネジメントの手法について解説する。講義内容に関連したグループディスカッションの回を設ける。 フィールドワークは、第2回目でテーマを決め、第7・8回で課題分析結果と改善プランについて学生による報告発表を行う。その後、それぞれのフィールドでプランを実践し、第13・14・15回で結果を報告発表する（課題プレゼンテーション）。フィールドのない方は裁判事例をもとに知見をまとめる課題についてプレゼンテーションを行なう。 最終的にフィールドワークをレポートにまとめ提出する（課題レポート）。		
授業の目的と到達目標	【授業の目的】 高齢者介護施設の組織的リスクマネジメントを学び知識と実践力を修得することを目的とします。リスクマネジメントは単なる事故防止活動ではなく、被介護者の人権尊重を基盤にサービスの質を向上させる手法であることを理解していただければと思います。 【到達目標】 高齢者介護施設の組織的リスクマネジメントについて説明することができる。 現場のリスクマネジメント課題を発見し、課題分析・改善プラン策定・実践ができる。		
学習演題 (予習・復習)	予習：毎回のテーマについて関連する文献を検索し読んで来てください。 復習：授業で学んだ内容をまとめ、レポート及びプレゼンテーションに活かしてください。		
テキスト 参考文献	テキストは特にありません。授業資料をデータ配信します。 各人の課題に合わせて、関連するさまざまな文献を検索し、読んでください。		
成績評価の方法と基準	課題プレゼンテーション（30%）、課題レポート（70%）		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	科目オリエンテーション 【講義】高齢者介護施設のリスクマネジメント総論	大橋幸子
	2	グループディスカッション 高齢者介護施設の5大リスクについて、フィールドワーク課題の検討	大橋幸子
	3	【講義】事故予防活動について1:インシデント報告の活用①	大橋幸子
	4	【講義】事故予防活動について2:インシデント報告の活用②	大橋幸子
	5	事故予防活動について3:グループディスカッション	大橋幸子
	6	事故予防活動について4:プレゼンテーション	大橋幸子
	7	プレゼンテーション:フィールドワークテーマ、分析結果、方法の報告	大橋幸子
	8	プレゼンテーション:フィールドワークテーマ、分析結果、方法の報告	大橋幸子
	9	【講義】事故発生時の対策:初動体制	大橋幸子
	10	【講義】事故発生後の対策:アクシデント報告の活用	大橋幸子
	11	【講義】職員教育:施設内研修	大橋幸子
	12	【講義】身体拘束とリスクマネジメント	大橋幸子
	13	フィールドワーク課題プレゼンテーションとディスカッション	大橋幸子
	14	フィールドワーク課題プレゼンテーションとディスカッション	大橋幸子
	15	課題プレゼンテーション:介護事故裁判事例からみた〇〇	大橋幸子

科目名	社会福祉施設論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	高橋明美
科目担当者	高橋明美		
授業概要	包括的支援体制の推進や社会福祉法人改革の進展などがあり、社会福祉施設に求められる役割は大きく変わっている。本科目では、講義とディスカッション、事例研究を組み合わせながら、地域の中で利用者に良質なサービスを提供するだけではなく、地域で必要とされる社会福祉施設の実践はどうあるべきかについて学ぶ。また利用者のみならず、働き手からも選ばれる施設という観点からも現状と課題を整理し、今後の社会福祉施設のあり方について考察する。 なお、本講における「社会福祉施設」とは、福祉サービスを提供する事業所を指す。		
授業の目的と 到達目標	社会福祉施設をめぐる環境変化を理解し、現在の社会福祉施設に期待される役割とその実践方法を具体的に考察することを目的とする。到達目標は以下のとおりである。 ① 社会福祉施設の概要と歴史について理解する ② 社会福祉施設の経営主体とその役割について説明できる ③ 社会福祉施設をめぐる環境変化を説明できる ④ 今後の社会福祉施設の役割とその実践を具体的に提案できる		
学習演題 (予習・復習)	シラバスに記載した内容について、事前に疑問点をまとめておく。授業後は配布資料及び参考文献などを使い、整理と考察を行う。これらの基礎的知識をもとに、今後の社会福祉施設の役割と実践について各自が発表し、それについて討議を行っていく。		
テキスト 参考文献	テキストは使用しない。参考文献については、随時提示する		
成績評価の方法と 基準	授業内における発言（50％）、発表内容（50％）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■ マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■ 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■ 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■ 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業 の 展 開	回	概要	担当
	1	オリエンテーション/社会福祉施設とその概要	高橋明美
	2	社会福祉施設の歴史的展開① 戦前から社会福祉基礎構造改革まで	高橋明美
	3	社会福祉施設の歴史的展開② 社会福祉基礎構造改革から現在まで	高橋明美
	4	社会福祉施設をめぐる環境変化	高橋明美
	5	社会福祉施設の経営主体とその役割① 社会福祉法人	高橋明美
	6	社会福祉施設の経営主体とその役割② 特定非営利活動法人、医療法人、株式会社	高橋明美
	7	社会福祉施設におけるサービスマネジメント	高橋明美
	8	社会福祉施設と人材育成	高橋明美
	9	地域社会と社会福祉施設① 包括的支援体制の観点から	高橋明美
	10	地域社会と社会福祉施設② 地域共生社会の観点から	高橋明美
	11	社会福祉施設の実践事例検討①	高橋明美
	12	社会福祉施設の実践事例検討②	高橋明美
	13	今後の具体的展開(発表と討議①)	高橋明美
	14	今後の具体的展開(発表と討議②)	高橋明美
	15	最終発表(討議後の修正を発表)	高橋明美

科目名	福祉人材養成論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	高橋明美
科目担当者	高橋明美		
授業概要	福祉サービスにおいて「ヒト」は重要な経営資源であり、そのサービスの質も提供者によって左右される。一方、実践現場では深刻な人手不足も背景にあり、外国人や高齢者、未経験者など多様な人材が働いている現状がある。本科目では、特に外国人介護職員に焦点を当てながら、多様な人材がやりがいをもって働き、組織の中で役割を果たすための養成方法やキャリアパスの構築について、講義とディスカッション、事例研究を通して学び、自組織における展開を考察する。		
授業の目的と到達目標	外国人を含めた多様な人材がやりがいをもって働き、組織の中で役割を果たすための養成方法について学び、自組織における展開を具体的に考察することを目的とする。到達目標は以下のとおりである。 ①社会福祉分野における人材確保の動向について理解する ②社会福祉分野におけるキャリアパスの構築とその実践について説明できる ③外国人介護職員の養成について自分の考えを持つことができる ④自組織における人材養成の展開を具体的に提案できる		
学習演題 (予習・復習)	シラバスに記載した内容について、事前にポイントや疑問点をまとめておく。授業後は配布資料や参考文献などで、整理を行う。これらの基礎的知識をもとに、自組織における展開を各自で発表・検討する。		
テキスト 参考文献	教科書は使用しない。 参考文献については、授業内で随時提示する。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言（50％）、発表内容（50％）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	オリエンテーション/社会福祉分野における「人材」とは	高橋明美
	2	社会福祉分野における人材の現状と課題	高橋明美
	3	社会福祉分野における人材確保の動向	高橋明美
	4	社会福祉分野における人材養成① 業務標準化とキャリアパス	高橋明美
	5	社会福祉分野における人材養成② 研修体系	高橋明美
	6	社会福祉分野における人材育成③ 人事考課	高橋明美
	7	外国人介護職員の制度	高橋明美
	8	外国人介護職員の現状と課題	高橋明美
	9	外国人介護職員の育成① 施設内支援体制	高橋明美
	10	外国人介護職員の育成② 外部資源との連携	高橋明美
	11	実践事例検討①(人材養成システム)	高橋明美
	12	実践事例検討②(外国人介護職員)	高橋明美
	13	自組織における人材養成の展開①(発表と討議)	高橋明美
	14	自組織における人材養成の展開②(発表と討議)	高橋明美
	15	全体のまとめ	高橋明美

科目名	スーパービジョンの理論と展開		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	篠原純史
科目担当者	篠原純史		
授業概要	福祉医療分野の組織に従事する管理的な立場にあるソーシャルワーカーは、人材育成に資する支援環境開発・改善の観点から、組織内におけるスーパービジョン体制を構築する必要がある。 本科目では、ソーシャルワーク・スーパービジョンの目的、機能、形態について、講義、演習を通じて学ぶ。また、ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける管理的機能に着目し、スーパービジョン体制の構築に必要な支援環境開発・改善の視点について学び、自らのスーパービジョン実践について振り返ることで、組織内において効率的・効果的なスーパービジョン体制の構築やその課題について考察する。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、組織のなかで管理的な立場にあるソーシャルワーカーが、人材育成に資する支援環境開発・改善の観点から、組織におけるスーパービジョン体制を構築するための能力を修得することである。 到達目標としては、①ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける管理的機能について理解でき、②スーパービジョン体制の構築に資する支援環境開発・改善の視点から、自らの所属組織を例に言語化し、③組織内におけるスーパービジョン体制の課題を明らかにし、課題解決に向けたアクションプランを立案できることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する問題をグループ内で話し合いながらまとめ、これらを発表する。次の授業に向けて、話し合われた内容を自らの実践と照らし合わせながら考察し、まとめる。また、組織内におけるスーパービジョン体制の課題について明らかにし、課題解決に向けたアクションプランを立案し、発表資料を作成し、発表する。		
テキスト 参考文献	『スーパービジョン イン ソーシャルワーク（第5版）』 その他、ソーシャルワーク・スーパービジョンに関連する様々な参考文献を読むことが望ましい。		
成績評価の方法と基準	グループ内における発言（10%）、資料作成への参加度（20%）、プレゼンテーション（10%）、アクションプランの内容（60%）により評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	スーパービジョンの目的と機能の確認	篠原純史
	2	スーパービジョンの形態とその展開①	篠原純史
	3	スーパービジョンの形態とその展開②	篠原純史
	4	スーパービジョンにおける管理的機能	篠原純史
	5	支援環境開発・改善の視点	篠原純史
	6	スーパービジョン体制の意義と実際	篠原純史
	7	所属組織におけるスーパービジョン体制の課題と考察①	篠原純史
	8	所属組織におけるスーパービジョン体制の課題と考察②	篠原純史
	9	所属組織におけるスーパービジョン体制の課題と考察③	篠原純史
	10	所属組織におけるスーパービジョン体制の課題と考察④	篠原純史
	11	課題分析とアクションプランの立案	篠原純史
	12	アクションプランの発表と質疑応答	篠原純史
	13	修正アクションプランの発表と質疑応答	篠原純史
	14	アクションプランの最終発表	篠原純史
	15	アクションプランの評価	篠原純史

科目名	フィールドワーク特講		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次	選択	田嶋英行
科目担当者	田嶋英行 鳥羽美香		
授業概要	ビジネスプランを履修するための前段階として、現実の組織を題材とし「課題発見力」「課題解決力」の基礎理論を学習する。ここでは福祉施設や機関、病院、さらには障害者の雇用を積極的におこなっている特例子会社などで実際にインターン活動をおこない、現状を分析し、それぞれの組織の強みや実態を学ぶとともに、仮説を立て未来に向けて発生する可能性のある課題を新たに発見する。そのうえで受講生はグループになり、ディスカッションをおこなうことによって、「強み」を活かした組織づくり、または具体的な「課題」の解決を通じた組織のあり方について、具体的な提案をプレゼンテーションにまとめる。 (オムニバス方式／全15回) (6 田嶋英行／7回) 第2～4回：課題解決型インターンシップについての講義・ケーススタディ 第5～8回：第1回インタビュー調査の計画と実施 (7 鳥羽美香／5回) 第10～14回：第2回インタビュー調査の計画と実施 (6 田嶋英行 鳥羽美香／3回) (共同) 第1回：課題解決型インターンシップの全体像 第9回：課題解決の報告 第15回：授業の振り返り		
授業の目的と到達目標	授業の目的としては、受講者各自が社会福祉実践を展開する施設の課題を見極め、さらにその課題を解決する方法を、他の受講者とディスカッションするなかで見つけ出していくことにある。授業の到達目標としては、実践現場でのインタビューをもとに、課題解決の方法について、各自が自らの考えをプレゼンテーションできるようになることにある。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、教員が提示する問題をグループ内で話し合いながらまとめ、これを発表する形式である。実践現場でのインタビューも含め、毎回の授業で課題が出されるため、指定の期日までにグループ内で検討し、課題を解くために必要な基礎的知識を学び、論理的な発表資料を作成・発表するという形で進められる。		
テキスト 参考文献	インタビューをおこなう実践現場について記された関連文献を読んでもらうこと。		
成績評価の方法と基準	グループ内における発言（10%）、資料作成への参加度（20%）、プレゼンテーション（10%）、発表した課題解決案の内容（60%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	課題解決型インターンシップの全体像（講義） 現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できるようになる。	田嶋英行 鳥羽美香
	2	課題解決型インターンシップ（講義） 福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できるようになる。	田嶋英行
	3	課題解決型インターンシップ（講義） 多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できるようになる。	田嶋英行
	4	課題解決型インターンシップ「ケーススタディ」	田嶋英行
	5	第1回インタビュー調査に向けて（オリエンテーション）	田嶋英行
	6	インタビュー調査①	田嶋英行
	7	インタビュー調査②	田嶋英行
	8	課題の検討	田嶋英行
	9	課題発見の報告	田嶋英行 鳥羽美香
	10	第2回インタビュー調査に向けて（オリエンテーション）	鳥羽美香
	11	インタビュー調査①	鳥羽美香
	12	インタビュー調査②	鳥羽美香
	13	課題解決案の作成	鳥羽美香
	14	課題解決の報告	鳥羽美香
	15	授業の振り返り（講義） 福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つこととは何か、改めて検討する。	田嶋英行 鳥羽美香

科目名	医療管理学 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	藤谷克己
科目担当者	藤谷克己		
授業概要	医療の求める新たな分野である医療政策、医療経営、医療管理、および医療コミュニケーション分野における高度な専門職業人を育成するために、疫学、統計学を基盤にして、医療・保健福祉に関する幅広い問題について、様々な資料をベースに討論形式で学ぶ。医療管理学の範囲は多岐に渡り、医療リスク管理分野、医療情報分野、医療経済分野、保健医療政策分野及び社会福祉分野などを含む地域包括ケア（地域医療）などが含まれる。講義形式にて行う。		
授業の目的と到達目標	1. わが国の保健医療制度について現状を知り、保健医療政策と医療マネジメントに関する基本的な考え方について説明することができる。 2. 福祉医療機関でのリーダーとして、医療経営管理の基本的な方法論を理解し、実践に役立てることができる 3. わが国の保健医療政策に関わる組織とその構造や機能、公衆衛生の規制などを説明できる。 4. リーダーシップやマネジメントなど福祉医療機関を率いるために必要な技術と知識を述べられる。 5. 疫学統計学的分析手法やシステム思考などを身に付け、適切な医療経営管理の実践に導くための素養を説明できる。		
学習演題 (予習・復習)	・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。 ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。		
テキスト 参考文献	教科書は特に指定なし。 参考書は適宜必要論文等を紹介し、またはプリントして配布する。		
成績評価の方法と基準	レポート：60%、e ラーニング課題と積極的討論の参加状況：40%		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	医療経営管理の導入 ・予算や資源のマネジメントの原理とツールの紹介 ・組織論(リーダーシップ、ガバナンス、マネジメントの原理)の概要	藤谷克己
	2	保健福祉医療政策学(資源の配分に関する基本的な考え方) ヘルスケアに関連する組織とその構造や機能、公衆衛生と規制制度の概要(福祉医療提供体制)	藤谷克己
	3	予防とヘルス・ポリシー概論 ・予防の考え方(一次・二次・三次予防)、介護予防 ・公衆衛生的集団対象の政策や介入 ・ステークホルダーとの連携や健康戦略の基礎	藤谷克己
	4	福祉医療政策学概要 集団対象の政策やプログラム、プロジェクト、介入のデザインその一例としての社会保障	藤谷克己
	5	比較福祉医療制度論(国際比較)	藤谷克己
	6	地域保健と地域包括ケア ・日本における主な疾病や死因 ・地域保健に影響を与える集団のニーズ、資源、能力の評価方法の基礎	藤谷克己
	7	診療報酬制度(医療保険者と保険者機能)	藤谷克己
	8	医療倫理と情報の開示	藤谷克己
	9	福祉医療機関のガバナンスとマネジメント	藤谷克己
	10	医療の安全と質の評価	藤谷克己
	11	福祉医療労働管理	藤谷克己
	12	福祉医療政策の決定過程	藤谷克己
	13	患者中心の福祉医療と多職種連携	藤谷克己
	14	貧困と健康 社会保障と社会的公平について	藤谷克己
	15	まとめ	藤谷克己

科目名	医療管理学Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	藤谷克己
科目担当者	藤谷克己		
授業概要	医療における諸問題について、ケーススタディをもとに、各ケースでどのような問題点があるかを発見し、その問題点について討論形式で、課題解決を図っていく。テーマは毎回異なっており、医療管理学Ⅰで学んだ情報と知識を活用し、「医療安全」や「チーム医療とリーダーシップ」「貧困と健康格差」「新感染症対策」など幅広い問題を掘り下げていく。		
授業の目的と到達目標	1. 医療管理上全般の問題をケースによって演習上体験し、説明できる。 2. 具体的な経営管理上の問題点を的確に把握し、解決方法を提示できる。		
学習演題 (予習・復習)	・それぞれの実習課程で決められた事前課題を予習する。 ・当該期間に30時間以上の予復習が必要。		
テキスト 参考文献	教科書は特に指定しない。		
成績評価の方法と基準	(1) 演習への積極的参加：40% (2) テーマに関するレポート：60%		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ケーススタディ1:医療安全	藤谷克己
	2	ケーススタディ2:医療安全	藤谷克己
	3	ケーススタディ3:医療安全	藤谷克己
	4	ケーススタディ4:チーム医療とリーダーシップ	藤谷克己
	5	ケーススタディ5:チーム医療とリーダーシップ	藤谷克己
	6	ケーススタディ6:チーム医療とリーダーシップ	藤谷克己
	7	ケーススタディ7:福祉医療経営とコンプライアンス	藤谷克己
	8	ケーススタディ8:福祉医療経営とコンプライアンス	藤谷克己
	9	ケーススタディ9:福祉医療経営とコンプライアンス	藤谷克己
	10	ケーススタディ10:疾病対策	藤谷克己
	11	ケーススタディ11:疾病対策	藤谷克己
	12	ケーススタディ12:疾病対策	藤谷克己
	13	ケーススタディ13:医療情報と医の倫理	藤谷克己
	14	ケーススタディ14:医療情報と医の倫理	藤谷克己
	15	ケーススタディ15:医療情報と医の倫理	藤谷克己

科目名	疫学・公衆衛生学特論		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	藤谷克己
科目担当者	藤谷克己		
授業概要	医学とは個人の疾病管理と治療を対象とした科学であるのに対し、集団を対象として疾病の管理や予防を研究する科学が公衆衛生である。その問題は多岐にわたり、感染症から癌、糖尿病、循環器疾患などの生活習慣病といった多くの健康対策課題がある。また「長寿」という概念は「健康寿命」という新たな観点で注目されてきた。公衆衛生の課題は常に時代と共に変わり、健康概念も従来の単一疾患単一病態モデルから、複数疾患複数病態モデルへと移り、古典的公衆衛生学も新公衆衛生学へと移行しつつある。また感染症等はグローバルな観点で洞察する力が求められている。本講座ではグローバルな視点から健康をマネジメントできるプロフェッショナルとしての基本を学ぶことができる。		
授業の目的と到達目標	(1) 健康管理に関する基礎的知識・態度の習得 ・健康管理の概念と方法を説明できる。 ・疾病と障害の概念、分類、評価および対策の概要を説明できる。 ・一次予防、二次予防および三次予防を、具体例を挙げて説明できる。 ・健康教育の目的と方法を説明できる。 (2) 疫学的な考え方の理解および基礎的知識の習得 ・我が国および諸外国の人口構造、疾病構造の推移と特徴を説明できる。 ・健康指標、疫学指標の公衆衛生学的意義を理解し、その活用法を説明できる。 ・感染症の現状と動向を理解し、その対策と関連法規の役割機能を説明できる。 ・生活習慣病等の疫学的特徴を述べ、リスク要因及び予防対策を説明できる。 ・環境要因とヒトの健康との関連、並びに健康障害を防ぐための対策について説明できる。 ・データの種類と分布に応じて統計的方法を適用し、データの分析及び記述検定などが行える。 (3) 保健医療福祉活動に必要な基礎的知識・態度の習得 ・地域における保健医療福祉の組織と活動の概要及び関連法規について説明できる。 ・ノーマライゼーションの意義と歴史的変遷について説明できる。 ・保健医療福祉関係職種の職務及び保健医療チームの一員としての理学療法士、作業療法士の役割を説明できる。 ・国際保健に関連する主な国際機関を挙げ、その活動を説明できる。 ・医療関連法規について学習し、その基本的な概要をよく理解し、説明できる。		
学習演題 (予習・復習)	・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。 ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。		
テキスト 参考文献	テキスト：「アクティブ公衆衛生学ラーニング」 瀧口、藤谷 共同編者 ウィネット株式会社		
成績評価の方法 と基準	レポート(50%)、課題の実施状況(25%)と授業内でのパフォーマンス(25%)を総合的に判定して決める。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	導入:公衆衛生とは(健康とは)、健康の指標と衛生統計について	藤谷克己
	2	疫学概論1	藤谷克己
	3	疫学概論2	藤谷克己
	4	疫学概論3	藤谷克己
	5	感染症と予防および国際保健について	藤谷克己
	6	食品保健および栄養と健康について	藤谷克己
	7	生活環境の保全と環境衛生について	藤谷克己
	8	社会保障制度の現状と課題について ・ 日本における社会保障、人口構造、疾病構造の変化 ・ 社会保障費の(財源)構造と推移	藤谷克己
	9	保健医療福祉サービスの現状と課題について ・ 高齢者保健と保健医療福祉サービスの提供内容の実際 ・ 病院、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション等	藤谷克己
	10	地域の保健1(保健所の機能と医療提供体制)	藤谷克己
	11	地域の保健2(母子保健、学校保健等)	藤谷克己
	12	成人保健(生活習慣病)と難病制度について	藤谷克己
	13	精神保健福祉とその他の障害者福祉制度	藤谷克己
	14	労働災害と産業保健について	藤谷克己
	15	新公衆衛生論;健康教育とヘルスプロモーション	藤谷克己

科目名	グローバル・ヘルス I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	堀井聡子
科目担当者	藤谷克己 堀井聡子		
授業概要	多様な文化・地域における保健医療を俯瞰し、共通概念としての健康とは何かを追求することを目的とする。世界の健康課題の現状と、保健・医療・福祉システムおよび社会経済文化など人々の健康に影響を及ぼす諸要因に関する基本的な事項と、地球規模の健康課題解決に向けた国際社会の対応について講義・演習を通じて学修する。 具体的には、保健医療福祉政策・制度に関する諸外国（先進国・開発途上国を含む）間の比較検討と、国際組織等（UN、JICA、NGO等）の活動の紹介等などを行う。 （オムニバス方式／全15回） （9 藤谷克己／1回） 授業の概要説明 （3 3 堀井聡子／13回） 保健医療福祉政策・制度に関する諸外国（先進国・開発途上国を含む）間の比較検討と、国際組織等（UN、JICA、NGO等）の活動の紹介等 （9 藤谷克己・3 3 堀井聡子／1回） 授業のまとめとレビュー		
授業の目的と到達目標	1. 世界の健康課題の現状とそれに影響を及ぼす要因及びその結果について説明できる 2. 地球規模の健康課題に取り組む多様なアクターの役割とそれぞれの特性について説明できる 3. 異なる立場のパートナーとともに地球規模の課題を解決するために、事例を通じて、課題分析、戦略策定、交渉の一連のプロセスを実践できる		
学習演題 （予習・復習）	ゲストスピーカーの活動に関する文献・Webサイトを用いた事前学習を行い、課題の背景を理解したうえで講義に参加すること。		
テキスト 参考文献	必須テキスト：なし 参考文献：グローバルヘルス 世界の健康と対処戦略の最新動向、木原正博、木原雅子（翻訳）、メディカルサイエンスインターナショナル		
成績評価の方法と基準	プレゼンテーション：60% 課題レポート：40%		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	グローバルヘルスとは何か	藤谷克己
	2	世界の疾病負荷の現状とHealth Equity	堀井聡子
	3	健康の社会的決定要因(低所得国の事例)	堀井聡子
	4	国際保健にかかわる諸機関の役割/国際保健外交とはなにか	堀井聡子
	5	国連機関の取り組み事例(WHO・感染症対策)	堀井聡子
	6	2国間援助機関の取り組み事例1(JICA・人材育成)	堀井聡子
	7	2国間援助機関の取り組み事例2(JICA・病院管理・経営)	堀井聡子
	8	民間企業の取り組み事例1(コミュニティヘルス)	堀井聡子
	9	民間企業の取り組み事例2(母子保健)	堀井聡子
	10	NGO・市民団体の取り組み事例	堀井聡子
	11	学術機関(大学等)の取り組み事例	堀井聡子
	12	官民連携基金の取り組み事例	堀井聡子
	13	事例を用いた国際保健課題へのアプローチ 演習1 課題分析	藤谷克己 堀井聡子
	14	演習2 戦略策定	藤谷克己 堀井聡子
	15	演習3 プレゼンテーション・リフレクション	藤谷克己 堀井聡子

科目名	グローバル・ヘルスⅡ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	藤谷克己
科目担当者	藤谷克己 堀井聡子		
授業概要	グローバルヘルスに関する主要なトピックを1つ選び（例：食と栄養、感染症、母子保健、高齢者と健康、都市における健康問題、健康格差、異文化とケア等）、関連文献等から情報を収集し（グローバルヘルスⅠ履修者は講義内容でも可）、発表（プレゼン）とそれに関する討論をおこなう。これを通してグローバルな視野で健康に関する課題発見と課題解決の能力を身につける。 またオプションとしてカナダでの10日間程度の海外フィールドワークを通じて、主にカナダでの実際の医療現場ないしは福祉現場で見学実習を中心に行う。午前中はヨーク大学での英語集中講義に参加し、午後はフィールドワークに臨む。見学先は主にトロント地区を中心に、カナダがん協会認定がん総合センター、トロント総合病院、トロント小児病院、アルツハイマー協会や郊外の老人ホームなどである。フィールドワーク実施のための事前授業（5回）および帰国後のフォローアップ講習（1回）を行う。		
授業の目的と到達目標	1. グローバルヘルスの主要課題について理解し、説明できる。 2. 議論に必要な情報を収集・整理し、批判的に検討できる。 3. 情報や主張を効果的に伝える発表方法を身につける。 4. 国際保健に関する課題発見と課題解決の能力を身につける。		
学習演題 （予習・復習）	当番発表者は事前に発表テーマに関する主な論文をTeamsにアップし、メンバーにシェアする。発表内容は課題は何か、解決方法は何かを明確にする。予習としてメンバーは講義日までの事前にTeams内の資料を読み、討論の準備をする（2時間）。 復習として授業後、メンバーは討論中に出た疑問や不明点などについて調べ、議論を整理する（2時間）。		
テキスト 参考文献	特に定めない。適宜参考資料を配布する。		
成績評価の方法と基準	レポート（50%）、授業への積極的な参加（プレゼンテーション、ディスカッション・リード等；50%） 合格基準点：60/100		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	ガイダンス、各自の興味分野とトピックの選定(アイスブレイク)	藤谷・堀井
	2	第1回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	3	第2回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	4	第3回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	5	第4回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	6	第5回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	7	第6回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	8	第7回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	9	第8回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	10	第9回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	11	第10回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	12	第11回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	13	第12回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	14	第13回プレゼントと討論	藤谷・堀井
	15	講義のまとめとレポート課題の提示	藤谷・堀井

科目名	メディカル人材開発論 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	浅香えみ子
科目担当者	浅香えみ子		
授業概要	少子高齢化が進む労働供給制約の中で、安定して質の高い医療者を排出し続けることが求められている。現在、将来に向けて必要とされる医療者像を明らかにし、必要とされる役割を実践できる医療者を効果的かつ効率的に育成するうえで有効な教授設計を教育工学の視点から学ぶ。また、プロフェッショナルリズムを重視した自律的自己成長の視点、医療者のキャリア開発、多職種との関係性創りなどの人材の内面と外面の開発について、講義とグループワークで学ぶ。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、医療社会福祉への変化する社会ニーズに対応できる人材を輩出するために必要な人材開発の戦略デザインを設計するうえで必要な関連知識を習得し、組織または関連領域における現状と課題を他者に説明できる能力を修得することである。 到達目標は、①専門職者の人材育成の特性を他職との対比のなかで説明できる。②人材開発の組織運営における意義が説明できる。③人材開発に関連する理論を用いて現状と課題を説明できる。④教授設計法を活用することである。		
学習演題 (予習・復習)	事前課題として、授業に関する情報を収集して臨み、講義で得た知識を活用したグループワークを展開する。その過程で必要な資料・情報を追加する。授業単位ごとに提示される課題に対するプレゼンテーションを各自またはグループで行う。		
テキスト 参考文献	医療職者の専門性に関する文献、人材開発に関連する文献、インストラクショナル・デザインに関する文献、キャリア開発/デザインに関する文献、組織分析に関する文献		
成績評価の方法と基準	事前課題の準備状況（10%）、授業中及びグループワーク中の発言（30%）、プレゼンテーションの内容（60%）		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	専門性の高い職業人の育成	浅香えみ子
	2	専門性の高い職業人の育成の考察	浅香えみ子
	3	戦略的人材マネジメント	浅香えみ子
	4	戦略的人材マネジメントの考察	浅香えみ子
	5	人材開発とキャリア開発	浅香えみ子
	6	人材開発とキャリア開発の考察	浅香えみ子
	7	チーム医療と多職種連携における人材開発	浅香えみ子
	8	チーム医療と多職種連携における人材開発の考察	浅香えみ子
	9	実務実践者・リーダー・マネージャーの育成	浅香えみ子
	10	実務実践者・リーダー・マネージャー育成の考察	浅香えみ子
	11	越境学習/学習する組織の活用	浅香えみ子
	12	メディカル人材開発のイノベーション	浅香えみ子
	13	メディカル人材開発のイノベーションの考察	浅香えみ子
	14	教授設計(インストラクショナル・デザイン)	浅香えみ子
	15	教授設計(インストラクショナル・デザイン)	浅香えみ子

科目名	メディカル人材開発論Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	浅香えみ子
科目担当者	浅香えみ子		
授業概要	多様な医療実践の期待役割と場を想定し、人材開発の戦略を立案する。戦略立案の過程において、対象医療職種以外や一般企業などにおける人材開発の考え方やシステムを参考にディスカッションを深め、How Toに終わらない人材開発のプログラムを提案する。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、組織の目的達成のための組織分析に基づき、求められる人材、及び人材開発のシステムを輩出するプログラム構築能力を修得することである。 達成目標は①メディカル人材開発論Ⅰで扱う内容等、人材開発に関わる関連知識をもとにプログラムを作成できること。②考案したプログラムのシミュレーションを通して評価・改善ができることである。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、プログラム設計の分析-設計-開発-実践-評価の順に進行する。それぞれの過程を個人作業で進め、過程ごとに成果物についてプレゼンテーションを行う。他者からの意見等をもとに評価修正を行い一つのプログラムを完成する。授業前にプログラムを作成しようとする場の情報を収集する。		
テキスト 参考文献	人材開発に関連する文献、インストラクショナル・デザインに関する文献、キャリア開発/デザインに関する文献、組織分析に関する文献		
成績評価の方法と基準	授業中及びグループワーク中の発言（20%）、プレゼンテーションの内容（10%）、作成したプログラムの内容（70%）で評価する。		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業 の 展 開	回	概要	担当
	1	メディカル人材育成プログラム作成について	浅香えみ子
	2	分析 ニーズ/対象/目標/環境	浅香えみ子
	3	分析の考察	浅香えみ子
	4	分析の検討 プレゼンテーションと意見交換	浅香えみ子
	5	計画 プログラム計画	浅香えみ子
	6	計画の考察	浅香えみ子
	7	計画の検討 プレゼンテーションと意見交換	浅香えみ子
	8	開発 教材開発/教材選択	浅香えみ子
	9	開発の考察・検討 プレゼンテーションと意見交換	浅香えみ子
	10	実施 シミュレーション	浅香えみ子
	11	評価 形成的評価/総合評価	浅香えみ子
	12	評価の考察	浅香えみ子
	13	評価の検討 プレゼンテーションと意見交換	浅香えみ子
	14	改善の考察	浅香えみ子
	15	成果物発表	浅香えみ子

科目名	メディカル人材開発論Ⅲ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	中村由美子
科目担当者	中村由美子		
授業概要	変化する保健医療福祉環境の中で、多様性のある（国際化を含む）患者や家族へのケアの必要性が高まってきている。看護師、理学療法士などの国家資格を持った医療従事者や、保育や教育、介護などの福祉事業におけるキャリア選択を、医療知識を集約させて実践的に考える。社会の人々の健康やそれに携わる経営をも視野に入れ、よりよい医療を支えるための、キャリアアップについて考える。講義とグループワークで行い、本授業を通じて、思考し表現する力を高める		
授業の目的と到達目標	1. わが国の病院医療について歴史的背景とともに、医療制度が病院や施設等の現場に及ぼす様々な影響を理解した上で、病院や看護組織における人材開発について理解できる 2. わが国の社会現状から将来展望について理解を深め、医療福祉をとりまく環境におけるデジタルトランスフォーメーションを踏まえた対策について考えることができる。		
学習演題 (予習・復習)	1. わが国の病院医療の歴史的背景とその影響について調べ、人材開発について考える。 2. 保健医療福祉におけるAIを含むデジタルトランスフォーメーションの活用について具体的に考える		
テキスト 参考文献	講義の中で適宜紹介する。 厚生労働省人材開発プログラを参考にする https://www.mhlw.go.jp/chosakuken/index.html		
成績評価の方法と基準	レポート（50%。なお授業の中でルーブリックを用いた評価を提示する）。医療問題の理解度と認識度（ディスカッション形式を予定し、発表する：30%） グループ内における発言や資料作成への参加度（20%）		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	イントロダクション 医療モデルと社会モデル	中村由美子
	2	保健医療福祉分野におけるケアの特徴	中村由美子
	3	医療・公衆衛生分野を対象とした保健医療福祉専門職間におけるヘルスコミュニケーションの特徴	中村由美子
	4	わが国における保健医療福祉ケアの現状と課題	中村由美子
	5	海外における保健医療福祉ケアの現状と課題	中村由美子
	6	わが国における保健医療福祉ケアの実践(DXやAIの導入)	中村由美子
	7	医療機器開発の現状と知的財産入門	中村由美子
	8	地域社会における健康危機管理の課題	中村由美子
	9	生活習慣と加齢過程で生じる現象とその課題及び解決策	中村由美子
	10	医療をとりまく環境の特徴 少子高齢化社会の到来による新たな問題	中村由美子
	11	わが国における人材開発;キャリアアップの実際(特別講義;子育ての取り組みから)	中村由美子
	12	海外における人材開発;フィリピンや北米の例(オンラインによる海外大学教員の参加)	中村由美子
	13	プレゼンテーション①(保健医療福祉における人材開発)	中村由美子
	14	プレゼンテーション②(保健医療福祉における人材開発)	中村由美子
	15	まとめ 今後の課題	中村由美子

科目名	メディカル人材開発論Ⅳ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	中村由美子
科目担当者	中村由美子		
授業概要	メディカル人材開発論Ⅲの学びを踏まえ、「患者・家族中心の志向」「知識と経験を融合した高い実践力」「専門性の追求と臨地や福祉に役立つ人材」という目的のもと、質の高いケアを提供するための実践や教育について考える。実践は、各々の専門職の場でのフィールドワークと教育実践を含み、理論と実践の両面から考え、最終的に教育プログラムを構築する。本授業を通じて、問題解決能力を身につける。		
授業の目的と到達目標	1. わが国の保健医療福祉における教育の現状について調べ、教育プログラムを作成し、人材開発について考えることができる。 2. 保健医療福祉におけるAIを含むデジタルトランスフォーメーションの活用について具体的に考え、将来の人材開発に向けた活用について考える。		
学習演題 (予習・復習)	1. わが国の保健医療福祉における教育の現状について調べ、各々の専門職現場でのフィールドワークから教育プログラムを作成する。 2. 保健医療福祉におけるAIを含むデジタルトランスフォーメーションの活用などを踏まえて、将来の人材開発活用のプレゼンテーションを行う。		
テキスト 参考文献	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価の方法と基準	レポート(50%。なお授業の中でルーブリックを用いた評価を提示する) 人材教育の理解度と認識度(ディスカッション形式を予定し、発表する：30%) グループ内における発言や資料作成への参加度(20%)		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	オリエンテーション キャリア・デザインとは、社会人基礎力とは何か	中村由美子
	2	保健医療福祉における患者・家族志向の持つ意味は何か	中村由美子
	3	AIを含むDXの保健医療福祉への活用	中村由美子
	4	教育プログラムや人材の活用	中村由美子
	5	保健医療福祉職の起業(特別講義;看護職の起業家の例から)	中村由美子
	6	教育とは何か、教育プログラムの応用	中村由美子
	7	教育プログラムの実践①(健康教育の実践)	中村由美子
	8	教育プログラムの実践②(プレゼーションスキル、ディスカッションスキルの理解)	中村由美子
	9	教育プログラムの実践③(フィールドワーク)	中村由美子
	10	教育プログラムの実践④(フィールドワーク)	中村由美子
	11	キャリアデザインとは何か	中村由美子
	12	多職種連携とは	中村由美子
	13	プレゼンテーション①	中村由美子
	14	プレゼンテーション②	中村由美子
	15	まとめ 自己のキャリアデザインと課題	中村由美子

科目名	国際医療人材開発論 I		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	廣瀬園子
科目担当者	廣瀬園子		
授業概要	世界では、SDGs（持続可能な開発目標）の推進やそのターゲットのひとつとして、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の達成の他、COVID-19対応等、様々な国際連携が喫緊の課題となっている。本授業では、国連（UN）、世界保健機関（WHO）をはじめとする国際機関、政府・民間組織の役割を学び、国境を超えた医療と健康の課題共有を行うとともに、国内外で共働する医療従事者の活動について、ゲストスピーカーも交えて紹介し、履修者とのディスカッションなどを行いながら理解を深める。		
授業の目的と到達目標	①国際医療人材とは何か、説明できるようになる。 ②国際医療における、国際機関や政府、NGO、社会起業等の活動について理解し、国境の枠組みをこえた情報共有と連携の課題について知識を深める。 ③国際医療人材となるためには、どのような準備が必要か、信頼できる情報をどのようにして得ることができるか説明できるようになる。		
学習演題 (予習・復習)	国際医療保健に関連する書籍と新聞記事、各機関が発行する報告書を読み、課題と解決に向けた共働への理解を深めること。課題レポートと評価方法については、初回授業時に案内する。		
テキスト 参考文献	【参考文献】「実践グローバルヘルス：現場における実践力向上をめざして」杏林書院／「国際保健医療のキャリアナビ」南山堂／「図表でみる世界の保健医療 OECDインディケータ（2019年度版）明石書店 他、授業内でも紹介。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言(10%)、資料作成への参加度(10%)、プレゼンテーション(30%)、課題レポート (50%)		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	①オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等について) ②国際医療人材とは	廣瀬園子
	2	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)－国際機関・政府組織の役割	廣瀬園子
	3	国際緊急援助と活動事例	廣瀬園子
	4	国際協力機構(JICA)の人材開発と教育支援	廣瀬園子
	5	保健医療における国際NGO・社会起業の役割	廣瀬園子
	6	国際医療人材が活躍する海外の現場 (ゲストスピーカーの紹介)	廣瀬園子
	7	国際医療人材を取り巻く課題	廣瀬園子
	8	グループワークとプレゼンテーション	廣瀬園子
	9	日本国内における国際医療	廣瀬園子
	10	国際医療人材が活躍する国内の現場 (ゲストスピーカーの紹介)	廣瀬園子
	11	国際医療におけるマーケティング戦略	廣瀬園子
	12	国際医療におけるモバイルヘルス(mHealth)の役割	廣瀬園子
	13	国際医療に携わるグローバル企業	廣瀬園子
	14	グループワークとプレゼンテーション	廣瀬園子
	15	まとめ:保健医療における国際連携の将来像	廣瀬園子

科目名	国際医療人材開発論Ⅱ		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	廣瀬園子
科目担当者	廣瀬園子		
授業概要	国際医療人材開発論Ⅰを受け、下記についてケース・スタディとして学び、グループワーク等を通じて課題を検証し、議論と提案を行う。 1. 北米・欧州・アジア・アフリカ地域における医療現場の事例 2. 高所得国／中低所得国における、医療の質改善の取り組み 3. 日本在住の外国人への医療と海外での健診・治療等、インバウンド／アウトバウンドの医療の現状と今後の可能性 4. 地域別／分野別／職種別の国際医療人材の役割と未来		
授業の目的と到達目標	①国際医療における、地域別／分野別／職種別の課題について、例を挙げて説明できる。 ②双方向型の講義を通じ、国際医療における課題の共有と、解決に向けた提案を行う。 ③国際医療人材となるためには、どのような準備が必要か、信頼できる情報をどのように得て、共働を促進できるか、実践に向けた議論や提案をすることができる。		
学習演題 (予習・復習)	国際医療保健に関連する書籍と新聞記事、各機関が発行する報告書を読み、課題と解決に向けた共働への理解を深めること。課題レポートと評価方法については、初回授業時に案内する。		
テキスト 参考文献	【参考文献】 “State of the world’s nursing 2020: investing in education, jobs and leadership”WHO (和訳版)「世界の看護2020 教育、労働、リーダーシップへの投資」国立国際医療研究センター国際医療協力局／「実践グローバルヘルス：現場における実践力向上をめざして」杏林書院／「OECD公衆衛生白書：日本—明日のための健康づくり」明石書店他、講義内でも紹介。		
成績評価の方法と基準	授業内における発言(10%)、資料作成への参加度(10%)、プレゼンテーション(30%)、課題レポート(50%)		
ディプロマとの関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる ■多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる ■福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	①オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等について) ②ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと持続可能な開発目標の実現において、国際医療保健人材が果たす役割	廣瀬園子
	2	国際医療保健の変遷 世界保健機関(WHO)設立と活動内容	廣瀬園子
	3	グローバルにおける国際医療人材の課題	廣瀬園子
	4	日本国内における、国際医療人材の課題	廣瀬園子
	5	国際医療の現場)北米地域(ゲストスピーカーの紹介、ディスカッション)	廣瀬園子
	6	国際医療の現場)欧州地域(ゲストスピーカーの紹介、ディスカッション)	廣瀬園子
	7	国際医療の現場)アジア地域(ゲストスピーカーの紹介、ディスカッション)	廣瀬園子
	8	国際医療の現場)アフリカ地域(ゲストスピーカーの紹介、ディスカッション)	廣瀬園子
	9	国際医療の現場)日本国内(ゲストスピーカーの紹介、ディスカッション)	廣瀬園子
	10	グループワーク(テーマ策定と検討)	廣瀬園子
	11	グループワークのプレゼンテーション	廣瀬園子
	12	高所得国／中低所得国における、医療の質改善の取り組み	廣瀬園子
	13	アウトバウンド／インバウンドのヘルスツーリズムとメディカルツーリズム	廣瀬園子
	14	地域別／分野別／職種別の国際医療人材の課題と将来像	廣瀬園子
	15	まとめ:国際医療における国際的・学際的な視野とフィールド研究	廣瀬園子

科目名	病院会計		
科目区分・単位数	履修年次	必修・選択	科目責任者
実践・応用科目 2単位	1年次・2年次	選択	吉田久子
科目担当者	吉田久子		
授業概要	病院会計は企業会計と多くの差異がある。自費診療以外の収入は、社会保険診療報酬という国が決めた診療点数によって決まる。また、医療法により事業についても制約がある。授業形態はスクール形式とグループワーク形式をミックスして行い、企業会計と病院会計の差異を理解するとともに診療科目ごとの特徴なども説明する。施設管理者や事務長、チームリーダーが必要となる会計知識について説明し、履修者相互のディスカッションを通じて理解を深める。		
授業の目的と到達目標	授業の目的は、福祉医療に関する組織（病院）の会計の理解であるが、営利法人と違いそれに至るまで医療法などに影響される独特の各種会計内容についても理解する必要がある。各論から総論まで体系的に学ぶことを目的とする。 到達目標としては、①福祉医療に関する組織の特殊勘定科目の理解。②各種法制度に規制された福祉医療の会計的影響。③病院組織の経営としての会計の役割。④営利法人会計と病院会計との差異などの考察。これらを通じて福祉医療全体に会計がどう影響するかを考える力を身につける。		
学習演題 (予習・復習)	授業は、基礎知識についてはスクール形式で行い、インプットを中心に学習する。グループワーク・ケーススタディ学習は、グループワーク形式で行いアウトプットに移行して学習する。最後にレポート課題を一定の日時までに提出する。電卓が必要になる講義については都度依頼する。		
テキスト 参考文献	会計学基礎の受講後もしくは簿記3級程度の基礎知識を有していることが望ましい。		
成績評価の方法と基準	出席（50％）グループワーク・ケーススタディでの発言（25％）レポート提出（25％）		
ディプロマとの 関連性	■マネジメントの基礎的知識を活用して、現代社会における福祉医療分野の諸問題を発見し、その効率的解決方法を策定できる ■福祉医療に関わるビジネスの組織目的と各自の職能を確認し、組織目的を達成するためのリーダーシップとフォロワーシップを身につけ、効果的かつ効率的な多職種連携を構築できる □多様な文化や慣習、価値観の相違を理解して、福祉医療分野のビジネスを改革し、様々な社会に貢献するビジネスモデルを展開できる □福祉医療分野におけるビジネスモデルを立案し、社会の理解を得るためのプレゼンテーションを通じて、ビジネスモデルを実現できる能力を持つ		

授業の展開	回	概要	担当
	1	福祉医療に関する会計基準の基礎	吉田久子
	2	病院会計準則の一般基準	吉田久子
	3	病院会計準則の財務諸表	吉田久子
	4	病院会計準則と医療法人会計基準との関係	吉田久子
	5	新たな会計処理基準	吉田久子
	6	業界特殊項目:社会保険診療報酬	吉田久子
	7	業界特殊項目:消費税損税問題	吉田久子
	8	業界特殊項目:含み益問題(事業承継問題)	吉田久子
	9	病院の税務会計と会計監査	吉田久子
	10	営利法人との差異	吉田久子
	11	病院の経営分析と経営評価	吉田久子
	12	グループワーク	吉田久子
	13	ケーススタディ①	吉田久子
	14	ケーススタディ②	吉田久子
	15	ケーススタディ③	吉田久子